平成９年度　農林水産省補助事業
低コスト住宅資材供給体制整備事業
木質建材利用合理化事業

小規模工務店向け木造住宅
施工管理マニュアル

平成10年3月

財団法人　日本住宅・木材技術センター

ま　え　が　き

地域の大工・工務店の多くは、規模が小さく、専門の技術スタッフを配置することが困難な状況にある中で、技術水準の相対的な低下から次第に競争力を失いつつある。このことは、地域の大工・工務店が国産材の主要な需要部門となっている状況下にあって、国産材の需要を維持・拡大する上からも憂慮すべき事態であり、これを回避するための対策を強化することが急がれている。

本書は、このような観点から、大工・工務店の技術的な支援を行うため、住宅生産の施工管理方法全般にわたりわかりやすいマニュアルを整備したものである。

要　約

小規模工務店では、大工を含む少数のスタッフが各種の業務を併せて実施する体制にあることを踏まえ、本書は、顧客との調整業務、品質管理、工程管理及び検査と巾広であるとともに、それらの相互に関連をもった内容とした。

また、小規模工務店では事務量を増やすことが困難であるので、この施工管理マニュアルは事務量が多くならないで処理できるように工夫した。このため、要点を記述するに止め、詳細は、大工等の専門知識に依存するが、施工結果が仕様書の記述のとおりであるか否かを確認できるような仕組みになるよう工夫し、①契約から引き渡しまで、②木造住宅施工記録シートの２項目に分けて整理した。

キーワード

地鎮祭、地縄張り、水盛り、基礎工事、木工事、屋根工事、下地材取付工事、外装工事、内部造作工事、冷暖房工事、防腐防蟻工事、雨仕舞、断熱工事、排水工事、電気工事、各部取付工事、左官工事、竣工検査、地縄、設備、通気、外部仕上、内部造作

目　　次

1　契約から引き渡しまで ---------- 1

2　木造住宅施工記録シート ---------- 53

1　契約から引き渡しまで

目　次

内 表 紙（新築工事着工準備からお引き渡しまで）…… 5
ご 案 内 …… 7
Ⅰ－１－１ ご契約プラン並び、基本仕様の確認 …… 8
Ⅰ－１－２ ご計画からお引渡しまで …… 9
Ⅰ－２－１ 第１回コーディネート打ち合わせ …… 11
Ⅰ－３－１ 近隣挨拶と地鎮祭 …… 13
Ⅱ－１－１ 地縄張り・水盛り・やり方 …… 14
Ⅱ－２－１ 基 礎 工 事 …… 15
Ⅲ－１－１ 第２回コーディネート打ち合わせ …… 18
Ⅳ－１－１ 木 工 事 …… 19
Ⅴ－１－１ 屋 根 工 事 …… 22
Ⅵ－１－１ 大工工事・下地取付工事 …… 23
Ⅶ－１－１ 外 装 工 事 …… 24
Ⅷ－１－１ 内 部 造 作 工 事 …… 25
Ⅸ－１－１ 換気・冷暖房／断熱・気密工事 …… 26
Ⅹ－１－１ ユニットバス／室内上下給排水工事 …… 27
ⅩⅠ－１－１ 電 気 工 事 …… 28
ⅩⅡ－１－１ 換 気 冷 暖 房 工 事 …… 31
ⅩⅢ－１－１ 換気システム概要 …… 34
ⅩⅣ－１－１ 各 部 取 付 工 事 …… 36
ⅩⅤ－１－１ 左官・タイル工事 …… 39
ⅩⅥ－１－１ 各 仕 上 工 事 …… 40
ⅩⅦ－１－１ クリーニング・竣工検査 …… 41
ⅩⅧ－１－１ お引き渡し・ご入居 …… 43

営業・顧客管理ツール（表紙）…… 45

ご要望工事増減金額のご連絡 …… 47

事前打合わせ会議開催のご連絡 …… 48

お引き渡し会のお知らせ …… 49

第２回打合わせ会議開催のご連絡 …… 50

工事進行状況報告書 …… 51

新築工事着工準備からお引き渡しまで

【 新築工事・施工管理マニュアル 】

＊本書はお施主様、並び、現場施工管理者用のマニュアルです。
お打ち合わせ及び、現場へ起こしの節には必ずお持ち下さい。

ご案内

この度は、ご契約を戴きまして有り難うございました。
弊社は、耐久性、耐震性に優れた快適な住宅の供給を
目指し、当工法の総合力をもって取り組んで参ります。
この小冊子は完成までの工程の案内書で、私共とお施主
様が共に工事を進めて行くための手引書です。
一読して戴きますようお願いします。お施主様も工事の
内容を確認して戴き、ご不明な点やご不審な点は担当者
に、すみやかにお問い合わせください。
この小冊子は工事完了後お引き渡し時に、必ずご返却を
お願いします。

◇◆ ご相談窓口 ◆◇

☆ご契約・資金計画担当者
氏名 _____

☆設計・コーディネート担当者
氏名 _____

☆工事管理責任者
氏名 _____

上記の担当スタッフで、着工からお引き渡しまで責任を持って進めます。

ご要望等を的確に処理するために必ず、ＦＡＸ通信でのご相談をお願いします。

事前準備	ご契約プラン並び、基本仕様の確認	Ⅰ－1－1

● ご契約内容をもとに、担当者がプラン仕様の再確認をします。

● ファックスを進呈いたします。
今後の打ち合わせ、工事進行の確認等に利用していただきます。

● 確認申請手数料をご用意願いまする

● ご入居までの工程を再確認させていただきます。

住宅金融公庫利用の場合

☐ 公庫申請書類を手配する。

◇公庫住宅利用（申し込み金融機関から、手続きのご案内が郵送されます。）
◇

◇◆ 公的書類の申請手続き ◆◇

● 住宅金融公庫融資手続き
● ・必要書類をご用意の上、申し込みをしてください。
・金融機からの通知のはがきをご提出してください。

● 建築確認申請書類
・住宅金融公庫設計審査書類等に捺印をしてください。

● 設計審査に合格しますと、役所から設計審査合格通知書（はがき）が郵送され、並びに金融機関より貸付承認書が郵送されます。　これらの通知書は、現場審査に必要なので必ず弊社へご提出をお願いします。

☐ 確認申請書類の作成

☐ 住宅金融公庫設計審査書類作成

☐ 確認申請図面の作成
・付近案内図
・地 積 図
・配 置 図
・平 面 図
・立 面 図／断 面 図
・矩 計 図

☐ 各自治体建築指導課に
設計審査図書の提出
平成　年　月　日

☐ 貸付承認書
平成　年　月　日

	ご計画からお引渡しまで	Ⅰ－1－2

期間	お施主様	弊　社	工　程	協力業者
	◇ プラン基本仕様の検討	◇ プラン基本仕様の説明		
	◇ プラン決定、ご契約	◇ 契約、確認申請	◇ 契約内容の確認	
	◇ 資金計画、書類準備	◇ 資金計画書作成	◇ 図面作成	
／	□ ご契約金支払い、資金計画	◇ 引き渡し期日の確認	◇ 公的書類の手続き	
	◇ 公庫手続き、他資金の段取	◇ 設備、資材のコーディネート	◇ コーディネート打合わせ	
／	◇ コーディネート決定	◇ 予算増減の確認、図面仕様の決定	◇ 予算増減の決定	
／	□ 最終予算確定（承認印）	◇ 設計審査合格	◇ 設計審査通知提示	◇ 工程指示
	◇ 電気、設備位置の最終確認	◇ 構造羽柄プレカット手配	◇ 電気、設備位置決定	
		◇ 協力業者打合わせ	◇ 協力業者発注	
／	□ 近隣挨拶廻り	◇ 近隣挨拶廻り		
	（地鎮祭の段取り）	◇ やり方、基礎資材手配	◇ 看板取り付け	
／	◇ 地 鎮 祭			
		◇ 仮設電気、トイレ手配		◇ 工事着工
		◇ 水盛り、やり方	◇ 根切り、捨てコン	◇ 基礎工事着工
	◇ 水盛り、やり方確認	◇ 上下水道配管	◇ 墨出、配筋、ベースコン	◇ 型枠、コンクリート
／	◇ 上下水道配管確認	◇ 足場、プレカット材手配		◇ 外回り左官工事
		◇ 基礎レベル確認、機材手配	◇ 養生、型枠外し	◇ 基礎工事完了
／	◇ 基礎確認			
		◇ コーディネート変更打合せ	◇ コーディネート金額算定	
	◇ 予算増減、確認、確認印	◇ （上棟式の指導）	◇ 構造材搬入	
	◇ 上棟式の準備、手配	◇ 上棟式の段取り確認	◇ 上棟式の資材、段取り確認	
		◇ 上棟工事	◇ 土台敷き	◇ 大工工事
／	◇ 上 棟 式		◇ 建て方	
／	□ 工事代金支払い	◇ ユニットバス手配		
		◇ サッシ、外壁材手配	◇ 羽柄材搬入	
／	◇ 内部造作最終確認	◇ 仕様変更増減提示	◇ 構造下地取付け	◇ 屋根工事

	ご計画からお引渡しまで	Ⅰ－1－3

期間	お施主様	弊社	工程	協力業者
／	◇ 変更増減確認			
		◇ 外回り資材の手配	◇ 軒天、破風工事	◇ 板金工事
		◇ 換気、冷暖房工事手配	◇ サイディング貼	◇ 外壁工事
			◇ コーキング工事	
			（未塗装の場合）◇ 吹付塗装工事	◇ 塗装工事
／	◇ 外部工事確認	◇ 断熱、気密工事手配		
		◇ 内部建材、造作手配	◇ 塩ビ管取付け	◇ 換気、冷暖房配管
		◇ 下地材手配	◇ ウレタン吹付	◇ 断熱、気密工事
／	◇ 断熱、気密工事確認	◇ 内部建具手配	◇ ユニットバス工事	
			◇ 足場取り外し	
	◇ 外壁工事確認	◇ 給排水位置確認	◇ 電気配線工事	◇ 電気工事
／	□ 内金支払い	◇ 設備機器手配	◇ 造作工事	◇ 大工工事
			◇ 床貼り、階段工事	
			◇ 間仕切り工事	◇ 給排水工事
			◇ 建具、収納工事	
			◇ ボード貼工事	◇ 電気工事
／		◇ 残材整理		◇ タイル工事
			◇ 換気、冷暖房工事	
	◇ 支払残高確認		◇ 仕上げ工事	
		◇ クリーニング手配	◇ クロス工事	◇ 塗装工事
			◇ タタミ工事	◇ ガス工事
			◇ 照明器具取付け	
			◇ 設備機器取付け	◇ 設備工事
／		◇ 設備試運転	◇ クリーニング	
		◇ 内部清掃	◇ カーテン取付け	
		◇ 仕上げ検査	◇ ダメ工事	◇ 最終検査
		◇ 竣工検査		
／	□ 最終金お支払い	◇ お引渡し	◇ 使用説明	
		◇ メンテ契約、保証書提出		
／	◇ ご入居			

事前準備	第１回コーディネート打ち合わせ	Ｉ－２－１

● 工事にかかる前に、お施主様と契約図面、決定事項の確認
工期の確認等の打ち合わせをさせて戴きます。

打合せ日時 ： ファックスにて日時の確認をさせて戴きます。
場　　所 ： 弊社事務所
打合せ事項 ：
・地鎮祭並び上棟式を行うのかの確認をします。
・契約確認図面より変更の有無、決定事項の確認を致します。
・外周り、室内の仕様並びカラーコーディネイトの打ち合わせ。
・外部設備、内部設備の仕様並びに位置の確認。
・建具の仕様並び位置、開き勝手を確認します。
・電気設備配線の位置、コンセント、スイッチ等の位置を確認します。

□ 打合せ日時
平成　　年　　月　　日

連絡日　　年　　月　　日

◇ 第１回コーディネイト打ち合わせ終了後、工事に入ります。
◇ 打ち合わせ以降の変更等は、基本的に出来ません。

● **地鎮祭の日時**　　□ 有　□ 無／　　年　　月　　日
● **契約図面よりの変更**　（ 変更部分は、図面に記入する。）　　□ 有　□ 無
● **外周りカラーコーディネイト**

・ 各品番、カラーを決定する。
・サッシの形式、カラー、サイズの決定及び、ガラスの種類を決定する。

□ 1．屋　根　□ 2．破　風
□ 3．外　壁　□ 4．玄関外壁
□ 5．ポーチ床　□ 6．バルコニー
□ 7．ポーチ柱　□ 8．玄関ドアー
□ 9．サッシ　□ 10．勝手口
□ 11．ガラス　□ 12．開き勝手

● **外部設備位置の確認**

□ 1．外部水道　□ 9．給湯ボイラー
□ 2．オイルタンク　□ 10．上水道
□ 3．下水道　□ 11．浄化槽
□ 4．ガスメーター　□ 12．便　槽
□ 5．電気メーター
□ 6．ＬＰＧボンベ
□ 7．暖房用ボイラー
□ 8．冷暖房用室外ユニット

● 内部カラーコーディネイト

・各品番、カラーを決定する。
・決定事項は、仕上表図面に記入する。

□ 1．玄関タイル　□ 2．床　材
□ 3．天井クロス　□ 4．壁クロス
□ 5．階　段　□ 6．壁ｵﾌﾟｼｮﾝ
□ 7．天井ｵﾌﾟｼｮﾝ　□ 8．手　摺
□ 9．厨房タイル　□ 10．その他
□ 11.　□ 12.

〔 和室仕様 〕

□ 1．壁 仕 上　□ 2．天井仕上
□ 3．床　柱　□ 4．床　板
□ 5．落し掛け　□ 6．地袋、天袋
□ 7．畳 へ り　□ 8．ｵﾌﾟｼｮﾝ仕様
□ 9．追　加　□ 10.

● 内部建具、収納仕様

・建具は、品番、カラー、開き勝手、高さを決定する。
・押入 物入は、中段 枕棚 天袋 可動棚 ハンガーパイプ等を決定する。
・決定事項は、各図面に記入する。

□ 1．室内ドアー　□ 2．和 室 戸
□ 3．窓 障 子　□ 4．収　納
□ 5．下 駄 箱　□ 6．押入内部
□ 7．物　入　□ 8．収納内部
□ 9．造作家具　□ 10.

● 内部設備コーディネイト

・換気、冷暖房方式　Ａタイプ　Ｂタイプ を決定する。
・設置場所、基礎の形式がちがいます。
・厨房器具は、以下のことを決定する。
（品番　カラー　流し台高さ　吊戸棚高さと取付高さ
シンクサイズ　レンジの種類　水栓金具　　）

□ 1．換気冷暖房　□ 2．厨房器具
□ 3．洗面化粧台　□ 4．防水パン
□ 5．ユニットバス　□ 6．ト イ レ
□ 7．室内物干し　□ 8．
□ 9．　□ 10.

● 電気設備配線

・コンセント、スイッチは、基本仕様位置を図面にて確認し、変更追加を決定する。　（家具の位置に注意する。）
・照明器具は、位置、仕様を提案説明する。
次回コーディネイトにて決定する。

〔 第１回コーディネイトの整理 〕

・決定事項をまとめて、仕様変更並びに追加工事がでた場合は、増減見積書を作成して送信いたします。
・収納内部にどの様な物を入れるか、プライベートルームの仕様をご家族でご相談ください。どんな事でも気軽にＦＡＸ送信をお願いいたします。　ご相談させていただきます。

□ 1．コンセント基本仕様位置提示
□ 2．２００Ｖコンセント
□ 3．３路スイッチ位置
□ 4．照明器具
□ 5．外部防水コンセント
□ 6．分電盤位置
□ 7．インターフォン位置
□ 8．ＴＶ配線位置
□ 9．ＴＶアンテナ取付　・有　・無
□ 10．チャイム取付位置
□ 11．電話配線位置

● 近隣への挨拶廻り

・お施主様と工事担当者で工事を始めますので、
完成までの期間は何かとご迷惑をおかけします事を、
粗品を持ってお願いに廻ります。

● 地鎮祭を行う場合

・地鎮祭とは、着工に当たり土地の守護神を祭り、不浄を清めて工事の安全と建物が無事に完成します様に、祈願する祭事です。　最近の傾向としては、省略して行わない場合が多くなっております。

○ 地鎮祭の準備

・お施主様は、日程に合わせて神主様の手配と、
お供え物の準備をお願いします。

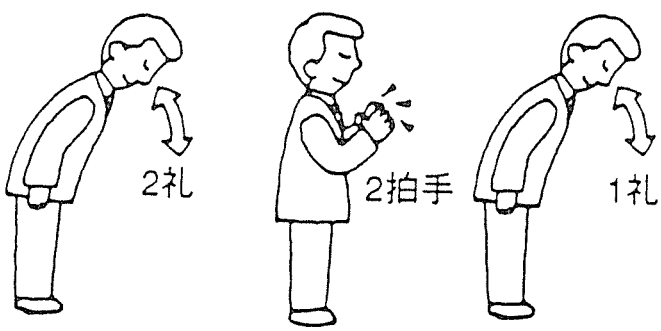
・地鎮祭の費用　：　玉串料　20,000－程度
　　お供え物　10,000－程度
　　祭壇一式　10,000－

・お供え物リスト　：　お 米、 お酒一升、 尾頭付き魚
　　昆 布、 するめ、 野菜果物数種
　　お水コップ１杯、 お塩

・祭事に必要な物　：　半 紙、 お皿５、６枚、 コップ
　　さかずき、

● 玉串のあげ方

・神主様から玉串を受け取り「の」字を書くように回し
根元を祭壇に向けて置き、２礼、２拍手、１例します。



☐ 近隣あいさつ日時
　平成　年　月　日
　平成　年　月　日　完了
　件数　＿＿＿件

☐ 地鎮祭日時
　平成　年　月　日
　午前　時　分

☐ 近隣への挨拶がすんで
　いるか確認する。

☐ 出席者の人数　＿＿＿人

☐ 祭壇の位置確認

☐ 雨天時のテント、シートの確認

☐

☐

☐ 建築確認許可番号
　NO.　＿＿＿＿＿＿
　平成　年　月　日

☐ 公庫設計審査合格
　NO.　＿＿＿＿＿＿
　平成　年　月　日

☐ 最終予算承認確認
　平成　年　月　日

☐ 各看板の設置

着　工	地縄張り・水盛り・やり方	Ⅱ－1－1

● お客様と工事着工前に、敷地境界の確認を行います。境界石がない場合は、隣接の方に立ち会っていただき確認します。

● 事前に地盤が軟弱であるか否かを近隣並び現場調査し、問題がある場合は、お施主様のご了解のもとに地盤調査等（別途費用）をいたします。 地盤が軟弱な場合は別途工事になりますので、その工法と金額を報告いたします。

● 配置図に従い建物の正確な位置や高さ基準、水平を出し、基礎工事の位置を確定いたします。

○ 作業手順

・敷地内の建物が建つ外側（1.8m前後）四隅に杭（角材）を立て水糸を張り、水糸に沿って内側に杭を打っていきます。次にレベルを使い水平を出し、杭に丁張りヌキを取り付けて水平位置を出します。

・道路と敷地の高さの違いを測定してご連絡いたしますが、その際、基礎の根切り等の残土で現状地盤より高さが多少あがりますのでご考慮ください。　また、問題がある場合はご相談いたします。

・配置図に従い、建物の直角を出し、次に基礎図面に従い基礎の通り芯を出して丁張りヌキに印を付けて行きます。

・最後に外周の通り芯に水糸を張り、水糸で出来た四角の隅を対角線に測定して直角が正確に出ているか確認します。

・敷地の高さを上げたい時は、盛土をし、低くしたい時は切土をしますが、別途の費用が掛かります。

● 水盛りやり方確認事項

・境界の確認、境界杭が無い場合は隣接の方に立ち会っていただく場合があります。

・お施主様に建物の位置並びに基礎の高さを確認していただきます。 建物の位置を移動したい場合は確認申請の関係上着工の遅れが生じます。

● 仮設トイレ／仮設電気／仮設水道

・仮設トイレの設置場所は、近隣に臭いなどの迷惑を考え、工事の妨げにならない場所に設置する。

・仮設電気／水道の場所は、工事の妨げにならない場所を図面におとし、電気／水道業者に連絡する。

・仮設トイレは、引き渡し前に必ず撤去する様に注意する。

□ 境界の確認

平成　年　月　日

立会人 ＿＿＿＿＿＿＿＿

□ 地盤の確認

□ 地盤の高さの確認

□ 基準となるベンチマークを設定する。

□ 基礎の高さの確認

□ 建物の位置の確認

□ 仮設トイレの手配

□ 仮設電気の手配

□ 仮設水道の手配

	基　礎　工　事	Ⅱ－2－1

● **根 切 り**

・やり方に従い石灰で線引きをして、重機を使って掘削する。

・根切りの幅や深さはやり方に従い正確に行う。

● **地　　業**

・砕石を規定の厚さ（120 mm前後）に従い敷き詰め、ランマーで突き固めます。

● 捨てコンクリート

・基礎を作るために砕石の上に、コンクリートを打ち込み天端を平滑にします。

● **墨 出 し**

・トランシットやメジャーを使って正確に基礎の通り芯に印を付けます。　それは配筋工事や型枠工事を正確に施工するためです。

● **鉄筋組み立て**

・捨てコンクリートの上に基礎基準墨を出し、図面に従い各部の配筋をしていきます。配筋には、ベース、立ち上り、土間スラブ、開口補強、スリーブ補強等があります。

● **配管スリーブ**

・基礎を貫通する配管スリーブは位置を確認し、配筋で補強しひび割れを防ぎます。

● **型枠工事**

・型枠パネルを使用し、コンクリート打込み時に広がらない様にバタ角等の腹起こしを上下にしっかりと取り付け、基礎天端のレベルを基礎伏図に従い出していきます

● **コンクリート打設**

・基礎に用いるコンクリートの強度は 180 kg/cm2、スランプ 18 cmとします。打込み時は突き方、タタキ方に注意し、ジャンカの出ないようにします。アンカーボルトは、認定品（Zマーク）を使用し、埋め込み長さは 260 cm以上とし、間隔は、2m 間隔を標準とします。

・基礎天端のレベルに注意し出来るだけ均一に仕上げる。

□ 根切り幅、深さの確認
（床づけは手堀りとする。）

□ 転圧の確認
ランマー、ソイルコンパクター

□ スペーサーブロックの確認

□ 配筋は基準図通りか確認

□ 換気口の位置、補強の確認

□ 通気口の位置、補強の確認

□ スリーブの位置、補強の確認

□ 型枠寸法の確認

□ アンカーボルト位置、本数の確認

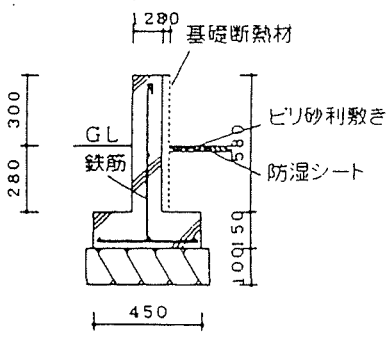
□ 基礎高さの確認

□ 天端均しの状態確認

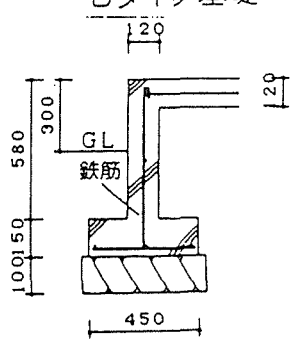
□ 型枠存置期間の確認

□ 断熱材の施工状況

Aタイプ基礎



Bタイプ基礎



□ Aタイプ基礎

□ Bタイプ基礎

＊換気・冷暖房システムの違いにより、基礎の仕様が異なります。

● 型枠解体・埋戻し工事

・コンクリート打設後、所定の養生期間をおいて型枠を解体して速やかに撤去し、規定の高さに埋戻しを行い敷地を平滑にします。

◇◆ 給排水設備工事 ◆◇

● 上水道工事

・打ち合わせ図面の指示通りに業者が、凍結深度以下の深さに配管します。 メーターの位置、止水栓の位置、立ち上がり位置が正確か確認をしてください。

● 雑排水下水道工事

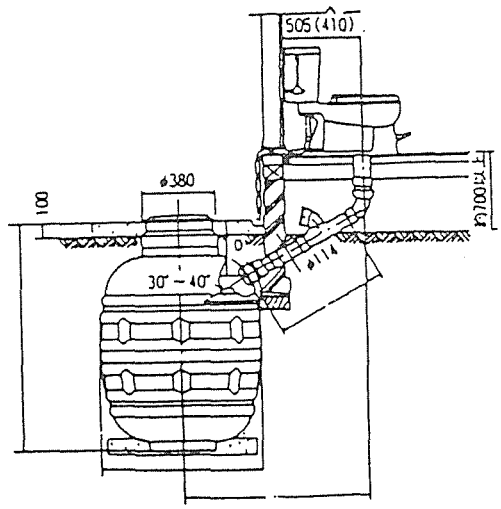
・図面通りか排水箇所の確認をしてください。通常は上水道工事と同時に行います。下水道が設置されていない地域は雑排水地下浸透槽をもうけます。浸透槽の目詰まりを防ぐため通常は手前に沈殿槽をもうけます。

● 雨水処理工事

・通常の地域は雨水を下水道配管につなぐことは出来ません。（地域により異なりますので、担当者にご確認ください。）雨水マスを通して排水しますが、あらかじめお施主様と打ち合わせします。

● くみ取り式ポリ便槽工事

・地下にポリ便槽を埋込み、直にトイレの配管とつなぎます。
・定期的にくみ取り業者に来ていただきます。
・家族構成や簡易水洗式等でタンクの大きさが変わります。
・地盤により地下水が出る場所はタンクが浮かびあがらない様に施工をします。



□ 埋戻し高さの確認

□ 型枠材、残材の撤去確認

□ キッチン位置の変更確認

□ 洗面所位置の位置確認

□ 基礎工事完了後すぐに工事にはいる。

□ 足場組立て前に工事完了

□ アスファルトの補修が完了したか確認

□ 場所が指示通りか確認

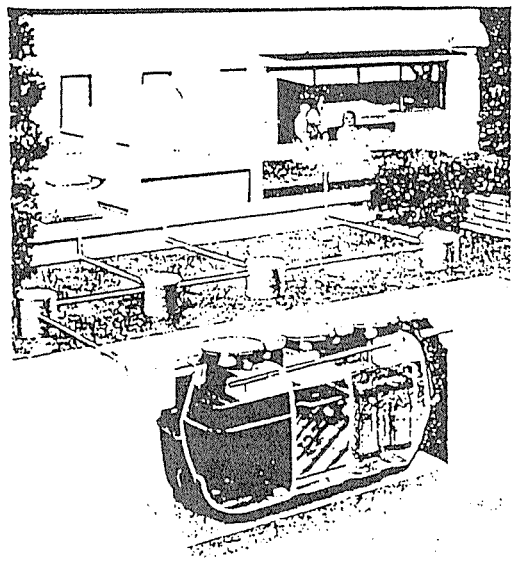
□ 基礎に破損がないか確認

□ 残土が残ってないか確認

◇◆ 給排水設備工事 ◆◇

● 浄化槽工事

・家族構成、床面積で大きさが決まります。
し尿をバクテリアが処理してきれいな水に変えます。
施工は専門業者が行います。管理が必ず必要ですから
保守契約を結んでください。
マンホールの高さや設置場所の確認、指定機種の確認
をします。



◇◆ ガ ス 工 事 ◆◇

● 都市ガス

・地下配管になりますので、あらかじめガス会社と工程の
打ち合わせをします。（通常は別途工事になります。）
地図、配置図、平面図を送り見積もりをします。平面図
にはコンロの位置、予備コックの位置、メーターの位置
引込み位置等を記入します。

● プロパンガス

・弊社での取り扱い業者もしくは、お施主様のご希望業者
に施工を依頼いたします。
その際、気密を損なわない様に補修指示を必ずし完了後
その確認をします。

□ 設置場所の確認

□ 使用機種の確認

□ 根切り寸法の確認

□ 設置状態、埋戻しの確認

□ 足場組立て前に工事完了

□ アスファルトの補修が完了
したか確認

□ 場所が指示通りか確認

□ 基礎に破損がないか確認

□ 残土が残ってないか確認

	第２回コーディネート打ち合わせ	Ⅲ－１－１

◇◆ 打ち合わせ事項 ◆◇

● 電気配線の確認

- □ １．コンセント位置
- □ ２．スイッチ位置
- □ ３．２００Ｖコンセント位置
- □ ４．家具配置との関係確認
- □ ５．ＴＶ配線位置
- □ ６．電話配線位置
- □ ７．インターフォーン位置
- □ ８．チャイム位置
- □ ９．外部コンセント位置

● 照明器具打ち合わせ

- □ １．電灯取付位置の確認
- □ ２．器具の品番、メーカー確認
- □ ３．下地補強の確認

● 収納内部の打ち合わせ

- □ １．収納位置の確認
- □ ２．棚の段数、位置確認
- □ ３．パイプの本数、位置確認

● 内装仕上の打ち合わせ

・壁：ビニールクロス、クロス

・床：フローリング、クッションフロアー

- □ １．品番、メーカーの確認
- □ ２．カラーの確認
- □ ３．使用室名の確認

● カーテン、レール

- □ １．取り付け箇所の確認
- □ ２．形式の確認（シングル、ダブル）
- □ ３．品番、メーカーの確認
- □ ４．カラー、取付 方法の確認
- □ ５．開き勝手、高さの確認

〔 第２回コーディネートの整理 〕

・図面及び書面に決定事項をまとめて確認する。決定した追加工事並びに照明器具工事、カーテン工事の見積書を作成して、１週間以内にお施主様にＦＡＸ送信にて連絡いたします。

・決定事項並びに見積書によく目を通していただき、ご不明の点がございましたらお早めにご連絡ください。

・コーディネート打ち合わせで決定した、仕様変更並びに追加工事の増減見積書を作成して最終合計金額を確認していただき、追加、変更工事金額確認書をいただきます。確認手続きが遅れますと、工事が遅れることもありますのでご了承ください。

・変更及びご希望がありましたら、お気軽にご連絡ください。

◇◆ 上棟工事準備 ◆◇

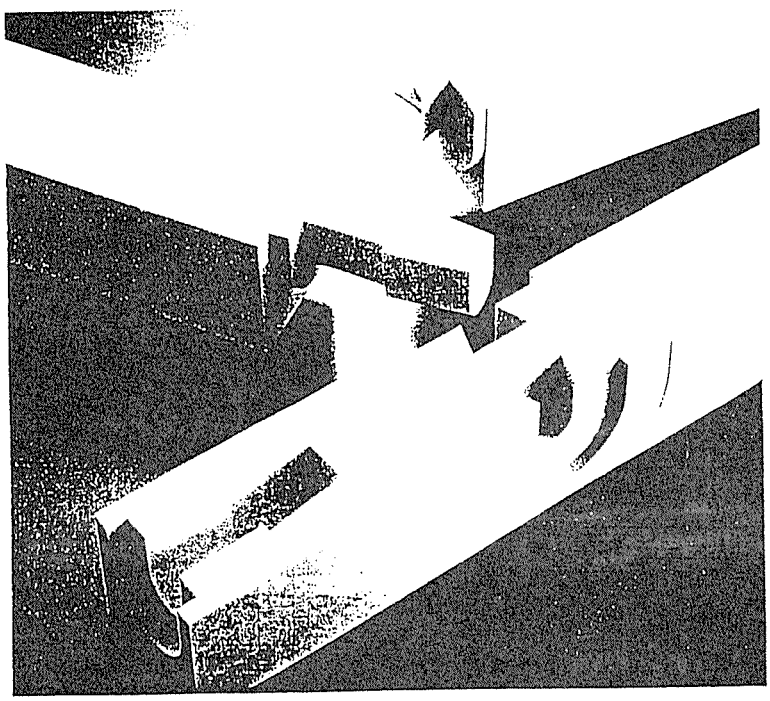
● 構造材の品質

・柱、梁、桁等の主要構造材は厳選された人工乾燥材、集成材（ＥＷＳ）をすべて使用しますので、従来の未乾燥材で作られた家の様な、構造体の狂い、ねじれ曲りを最小限に抑えております。

□ プレカット図面のチェック

● 構造材の加工システム

・高耐久性ＡＱ認証プレカット工場で、高精度（0.1mm）全自動プレカットシステムで加工されます。手加工に比べ引張り加重試験（愛知県工業技術センター）で加工強度が平均 1.2 倍の強さを持っていることがわかりました。



● 加工構造材搬入

・建て方の順番通りに、土台、柱、梁、桁、束、母屋、野地板を作業に支障のない場所に置きます。

□ 搬入場所のセッティング
□ 搬入材数量の確認

● 基礎のアンカーボルトが指定通り、高さ、間隔が施工されているか再度確認する。

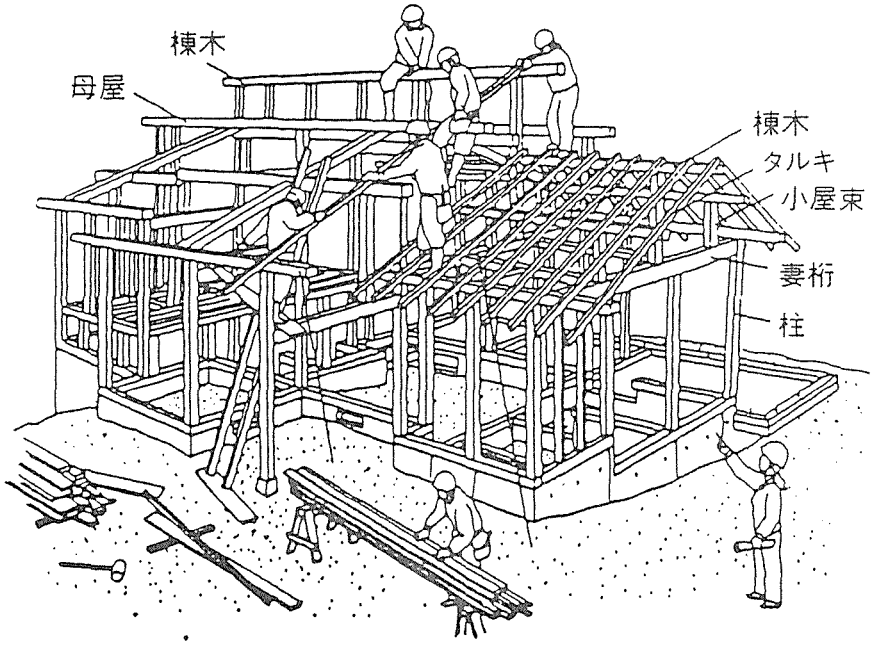
□ アンカーボルトの確認
□ 基礎天端の平滑再確認

◇◆ 上 棟 工 事 ◆◇

● 施工手順

・基礎のレベルを出し土台を敷くために墨出しを行います。
・土台にも墨づけをしてアンカーボルトの位置を出しボルト
・穴を開け、基礎に土台を敷きアンカーボルトをしっかり
・締め接合します。土台の水平を確認後にプレカット図面
・に従い、１Ｆ根太組、柱、梁桁を組み、さげ振りで垂直
・を確認して仮筋違いで固定します。
・これで水平、垂直の水が決まりましたので木組図に従い
・順次に組み上げ、棟木、野地板を張り完了します。

● 建築面積により建て方の日数が異なります。
通常は２日位で完了します。



□ 構造プレカット材の置場及び養生が出来ているか。

□ 近隣にご迷惑を掛けていないか。

□ 不足材の確認

□ 金物等付属部材の確認

□ 建て方時の安全対策の徹底が出来ているかの確認

□ 職方の人数及び機材の確認

□ クレーン車の位置を確認

□ 廻りの整理整頓

□ 駐車場の確保を確認

□ 道路使用の場合
道路使用許可の確認

□ 引き合いボルト等の金物締め付け及び取り付けの確認

◇◆ 上 棟 式 ◆◇

● 上棟式とは

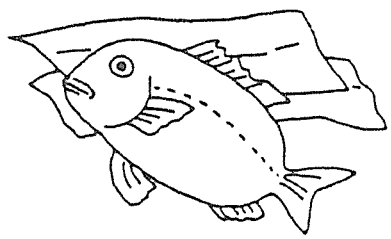
・守護神をおまつりし、永代にわたり家内安全、健康や工事の安全を神様にお願いし、家主が工匠に感謝を表し親しい人々に新築の祝福を受ける祭事です。
近年の傾向は上棟式を省略して行わないお施主様が多く弊社では、約３割程度のお施主様しか上棟式を行っておらず省略する傾向に成っております。

● 上棟式の準備

・お施主様はご出席をお願いされる方へ、日程のご案内をお願いします。

○ お供え物 ／ お米１合、お酒１升、お供え餅（二段重ね）
尾頭付魚（１尾）、海産物（昆布 するめ等）
野菜（２，３種）、果物（２，３種）
お水（コップ１杯）、お塩、投げ餅

○ お施主様がご用意する物
お供え物、 投げ餅、
小宴費用 （ 赤飯、折、お酒類、つまみ ）
ご 祝 儀 （強制ではありません気持ちです）



● 上棟式を行わない方がよい日

・三隣亡 ／ 昔から普請はじめ、柱建て、棟上げなどには大凶とされ、この日に施工した家屋が後日災禍を起こした場合、近隣も滅ぼすとされています。

・仏 滅 ／ この日は何事をするのも、忌み慎む方がよい日。

・赤 口 ／ 新規事はじめ、その他何事もなすのも忌むべき日、信仰宗教により関係が無い場合があります。

☐ 上棟式日時の確認
平成　年　月　日
午後　時　分

☐ 雨天の挙行

☐ 式場配置の確認

☐ 出席者人数の確認＿＿＿＿人

☐ 棟札、幣串の確認

☐ 上棟式次第の確認

☐ 祭事の安全確認

☐ ２階足もとの安全確認

☐ はしごの安全確認

☐ 照明器具の確認

◇◆ 屋 根 工 事◆◇

● 屋根葺き材の種類は、日本瓦、洋風瓦、スレート系、セメント系、石 板、銅合金、鋼板系等、さまざまですが、当工法、当仕様では、耐震性、耐久性、雨仕舞等を屋根材の選定基準に考えました。

○ 屋根仕様

・屋 根 材 ／ （ 仕様書参照のこと。）
・防水下地 ／ （ 〃 ）
・棟 換 気 ／ （ 〃 ）
・破 風 ／ （ 〃 ）

● 屋根工事

・野地板、破 風等の大工工事が終了次第に屋根工事に入ります。アスファルトルーフィングの接合部分は雨が入らない様に重ね合せて敷き込みます。つぎに屋根葺材に応じて、施工を行う。

● 屋根と壁との取り合い

・壁の取り合いは、雨や雪が入らないように200mm以上立ち上げて施工します。立ち上がりが、短いと雨漏りの原因になります。

● 棟 換 気

・小屋裏の空気を常に循環して、こもり熱を防ぎ小屋裏の環境を整えます。

〔 屋根仕様の変更 〕

・屋根材の変更を希望する場合は、家の外観バランス、凍害等の耐久度や変色等のメンテナンス、重さ等を考慮して決定しましょう。
・屋根材の仕様変更は、コーディネート打ち合わせ会議で検討してください。仕様により別途お見積りします。
・屋根材の種類により工事確認事項が異なりますので、担当者と必要事項をお打ち合わせください。

☐ 工事日程の確認
☐ 屋根材の種類確認
☐ 屋根材の色確認
☐ 葺き方の確認
☐ ルーフィング接合部の確認
☐ 板金取り合い部の確認
☐ 破風仕上げの確認
☐ 出窓の屋根葺き種類確認
☐ 雨仕舞いの確認
☐ 板金工事の確認
☐ 残材処理の確認
☐ 屋根清掃の確認

◇◆ 各部取付工事 ◆◇

● 工場でプレカットされ、人工乾燥された羽柄材（軒天下地、間柱、まど枠等）を取り付け、外部ドア取付工事をします。サッシを取り付けた段階で、外壁工事、断熱気密工事等が終了後、造作工事に入ります。

◇◆ サッシ工事 ◆◇

● 窓はペアーガラス樹脂サッシが標準仕様になります。メーカーは仕様書に記載されたものを使用します。特徴は断熱性能気密住宅の性能を重視し、出来るだけ引違い窓の使用を抑えております。詳しくは、仕様カタログをご覧ください。

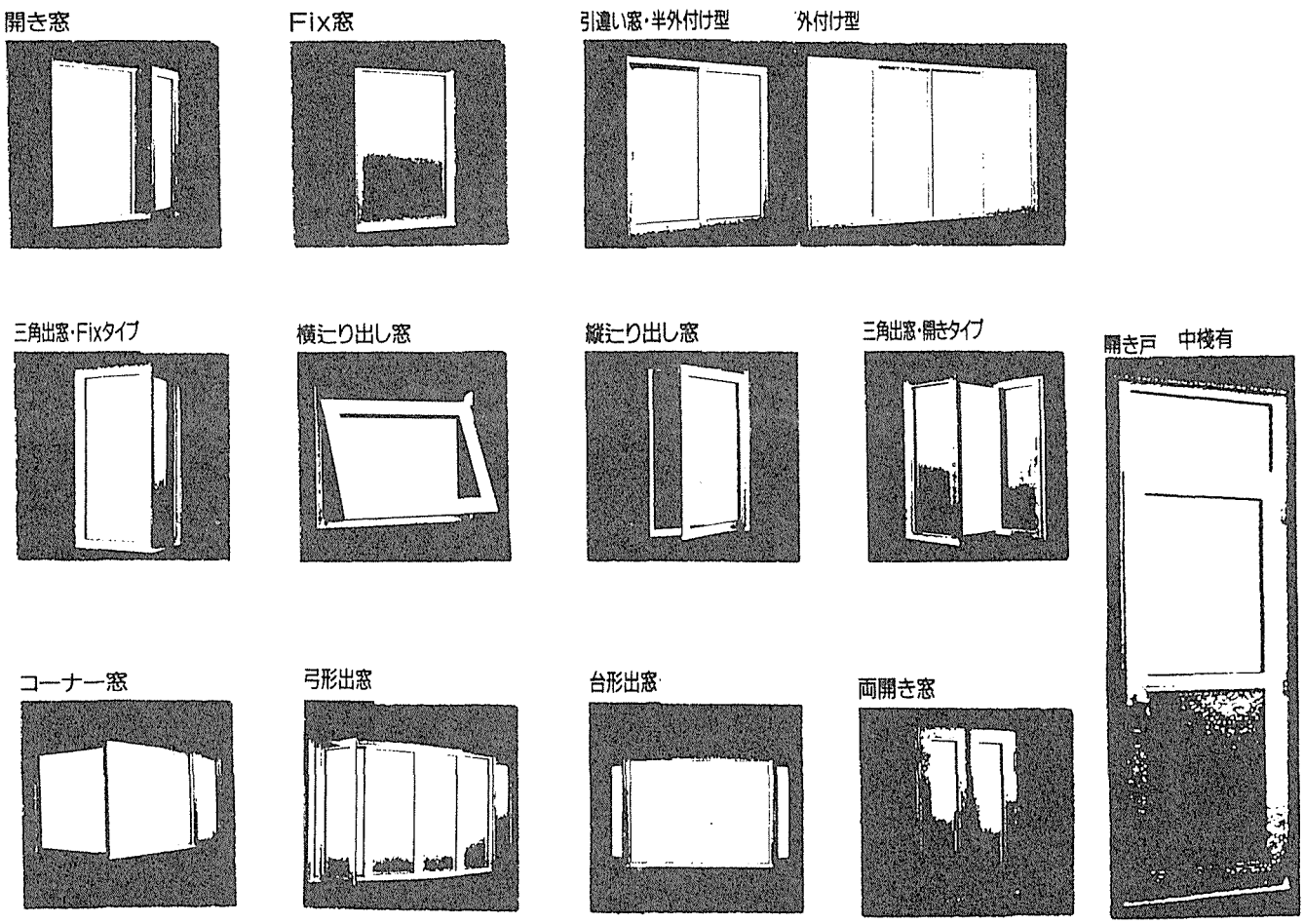
□ 取付レベルの確認

□ 樹脂サッシ養生の確認

□ 傷、割れ等の確認

□ 取付部分の気密工事の確認
- 気密テープ貼
- 隙間部分のウレタン充填

◇◆ 窓のタイプ ◆◇



◇◆ 標準仕様タイプ ◆◇

● 窯業系サイディング貼‥‥仕様書記載による。

（ 豊富な種類があり耐久性能、防火性能に優れた外装材です。）

● 構造仕様（壁通気工法）

・壁通気工法は、柱、間柱の外壁部分に耐震用構造合板（ＯＳＢ又はサーモプライ）を壁面に打ち付け、防湿シートを全面に貼ります。次に通気層を設けるために下地材（胴縁）を取付けサイディング工事に入ります。

（ ＡＬＣ貼はオプション仕様になります。）

◇◆ 施工手順 ◆◇

● 墨出し

・たて、よこの目地がまっすぐ通るように、パネルの割付を考え墨を打ちます。

● サイディング貼工事

・土台部分に水切りを廻し、出隅、入隅等の役物を取付け次に最下部分から順序よく割り付け墨に従い取付けます。釘は錆びない専用釘を使用します。

● シーリング工事

・シーリングは防水の要になる工事で、アクリル系 コーキング材を使用して確実に施工します。
サイディングの接合部をきれいにして、バックアップ材を装てんし次にマスキングテープを貼り、シーリング材を充填しヘラで均一に仕上げます。特に開口部の漏水に注意をしてください。

・施工手順
目地掃除 → バックアップ材装填 → シーリング充填 →
→ ヘラ押え

□ 構造用合板の釘間隔確認

□ 防湿シート貼りの確認

□ 通気胴縁が窓下等で空気が流れる様に施工されているか。

□ サイディング割付の確認

□ 水平、垂直の確認

□ 水切り、役物取付けの確認

□ 釘施工状態の確認

□ キズ、タッチアップの確認

□ 目地掃除の確認

□ シーリング施工状態の確認

◇◆ 基本仕様 ◆◇

● 床工事

・１Ｆ：床貼工事は厚さ１２㎜下地合板の上にカラーフロアー厚さ１２㎜を接着剤併用で床用スクリュー釘で止めます。

・２Ｆ：厚さ１２㎜下地合板の上にプラスターボードを遮音防火対策で敷きカラーフロアー厚さ１２㎜を接着剤併用床用スクリュー釘で止めます。

＊床に傷が付かない様に、床養生材を敷きつめます。

□ 下地合板の不陸、床鳴りの確認
□ カラー、色むらの調整確認
□ くつずりの有無の確認
□ フロアー張り方向の確認
□ 床掃除、養生の確認

● 壁ボード貼工事（クロス下地）

・間柱に厚さ 12.5mm プラスターボードをスクリュービスで止めます。パテ処理にて平滑にします。

□ 壁、天井ボード割付の確認
□ 壁、天井見切部の取合い確認
□ ボード釘打ち基準の確認

● 天井ボード貼工事（クロス下地）

・天井野縁に厚さ 9.5mm プラスターボードをスクリュービスで止めます。パテ処理にて平滑にします。
壁、天井の配管ダクト、配線の位置が分かるように印を付けてください。

● 階段取付

・プレカットされた階段部材を取り付け、傷がつかない様に養生をします。

□ 仕様書と材料の照合確認
□ 取付けは、釘、接着剤併用
□ 段板掃除、養生の確認

● ドアの枠取付工事

・開口部にドア枠を取りつけ、ドアを取りつけます。
ドア調整は調整丁番で行います。

□ 寸法、仕様、位置の確認
□ 開き勝手、戸当りの確認
□ ガラスの有無、仕様の確認

● その他造作

・窓 枠、廻り縁、巾 木の取付工事を行います。
・収納内部を図面指定通り造作を行います。
・腰板張り、壁、天井化粧板等のオプション造作も含まれます。

□ 仕上げの仕様確認
□ 収納内部の仕様確認
□ 各部図面の仕様確認

● 和室造作

・仕様書記載による。

□ 図面の仕様確認

● 内部造作は、多岐にわたる仕様があります。打ち合わせ時に担当者にご希望をお聞かせください。

◇◆ 換気・冷暖房工事 ◆◇

● このシステムは、家の体積により家全体にまんべんなく快適な空気が取り入れられる様に、風量を計量してダクトの位置を設定してあります。図面指示に従いダクト配管をします。

◇◆ 断熱・気密工事 ◆◇

● 私たちの、身近にある物質の中で最も熱を伝えにくい物質は空気です。断熱は毎日寝るときに使うふとんの原理です。
ふとんは細かい繊維が集まり、その繊維と繊維の間に空気が閉じ込められ熱の放出を防ぎます。しかしふとんが湿っていると暖まりません。本工法は熱伝導率が低く、吸水、透湿性がほとんどなく断熱性能が劣化しにくい硬質ウレタンフォームを仕様しています。

● 断熱・気密仕様

〔Ａタイプ基礎断熱〕　布基礎の内側にボード状断熱材厚さ30㎜を張りコンクリートを打設します。 床下の給排水配管の凍結を防止したり、１Ｆ床が冷たく成るのを防ぐ工法です。

〔床断熱・気密〕　ボード状断熱材厚さ55㎜（新断熱基準２地域向）を張り、下地合板を敷いて合わせ目に気密テープを張ります。　土台と合板等の接続部分は筋違、間柱を取り付ける前に必ず気密テープを張ってください。

〔Ｂタイプ基礎断熱〕　べた基礎工法で防湿シートを張り、ワイヤメッシュを敷詰め120㎜厚のコンクリートを打設し、上棟工事終了後に土台の間に硬質ウレタンを厚さ55㎜で現場発泡させます。

● 壁、天井断熱・気密（共通仕様）

・硬質ウレタンフォームを、コンプレッサーによって、柱、梁桁、壁、桁上下地合板等の構造躯体すべてに厚さ55㎜以上で現場発泡させます。
・硬質ウレタンフォームは強力な接着性能を持っており、構造躯体が一体になり強力な耐震構造になります。
・気密精度は構造躯体に、まんべんなく発泡させるため隙間が無く気密性能は抜群です。

□ システム仕様の確認

□ ダクト配管の位置確認

□ 機械位置の確認

□ ダクト接続もれ等の確認

□ 工事日程の確認

□ 窓等の養生確認

□ 施工もれが無いか確認

□ 火気厳禁にする。

□ 衣服等の付着に注意する。

◇◆ ユニットバス工事 ◆◇

○ メーカー、品番、カラー、オプション部材の確認をする。
○ 施工日の事前打ち合わせをして下さい。
○ 使用説明書等は室内のカラン部分に取り付けておくこと。

□ ユニットバス仕様の確認

□ 工事日程の確認

◇◆ 室内・上下給排水工事 ◆◇

● 水道工事

・指定された位置に、配管して蛇口を取り付けます。
配管には結露防止の保温材を隙間がないように巻き付けて下さい。

□ 工事日程の確認

□ 指定位置、高さ等の確認

● 給湯工事

・野外又は室内に石油ボイラーを設置する場合と、深夜電力利用の電気温水器があります。 いずれの場合も配管には保温材を巻き付けて下さい。 給湯は基本的には循環式を使用しませんので最初配管にたまっている冷たい水が出ます。
（循環式にしますとエネルギーロスが多く燃費がかかります）

□ 接続部からの水漏れの確認

□ 保温材巻付けの確認

● 排水管工事

・排水量を考慮して、排水ノイズ、詰まりの起きない径を使用し、必ずトラップを作り、臭気の逆流を防ぎます。
（室内が外気より負圧に設計してあります）
・配管には保温材を巻き付けます。

〔 中 間 検 査 〕

● 造作工事に入る前に、構造部材、建築金物の施工、断熱・気密工事、給排水工事等の確認をします。

検査工事項目 - - - - - ・構造躯体工事
・屋根工事
・断熱・気密工事
・建築金物のゆるみ等
・給排水工事

◇◆ 電 気工 事 ◆◇

○ 電気工事は、仮設電気を設置するところから下配線～スィッチプレート・コンセントプレート・照明器具取付まで、工事の最初から最後まで工事に関わります。
スィッチ、コンセントの位置は、使い勝手を考え位置を決めて下さい。また、照明器具は、空間を演出する重要なアイテムです。 しっかり打ち合わせをお願いします。

● 下配線工事

・電気配線図面に基ずき、下配線工事を進めます。スィッチコンセントの高さ指定がない場合、コンセント位置は、床より高さ 30 cm程度、スィッチの高さは床より 1.2m 程度に取り付けます。

● アンペアの確認

・ご家庭での総使用量を考え、アンペア数を決めていただきます。通常は 40 アンペアですが、不足の場合はアンペア数を上げます。電気基本料、申請料、工事金額が上がってまいります。

● 下配線工事確認事項

・換気システム、冷暖房器具のボルトを確認してください。
・厨房器具のボルトを確認して下さい。
・電気温水器を設置する場合は位置、容量を確認して下さい。
・ＴＶ配線は追加がないか、衛生放送配線をするか確認。

● 仕上工事

・指定させた位置に、外部メーター、分電盤、インターホンチャイム等を取り付けます。内装工事（クロス）の終了後にスィッチプレート、コンセントプレートを取り付けます。照明器具は、打合わせ図面に従い取付工事を行います。

〔 照明器具の種類 〕

□ 電気工事仕様書との照合確認

□ 工事日程の確認

□ 打合せ通り施工されているか確認

□ 指定位置、高さ等の確認

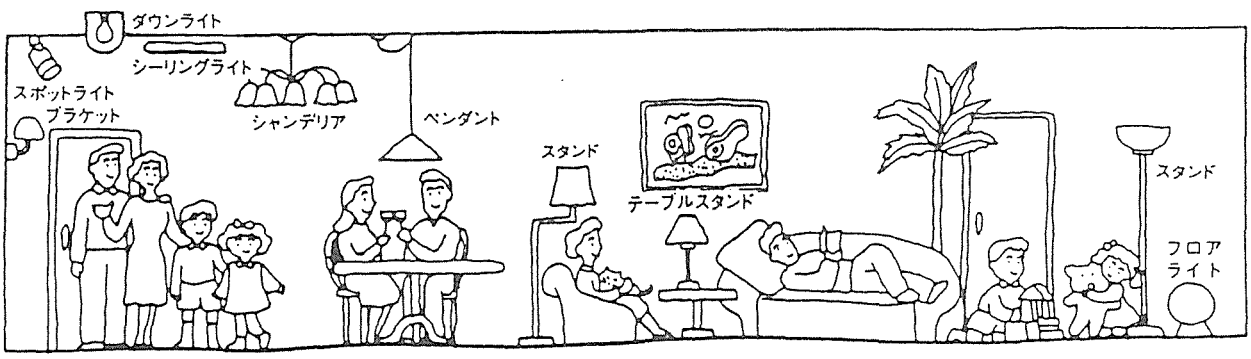
□ 指定の照明器具が付ているか確認

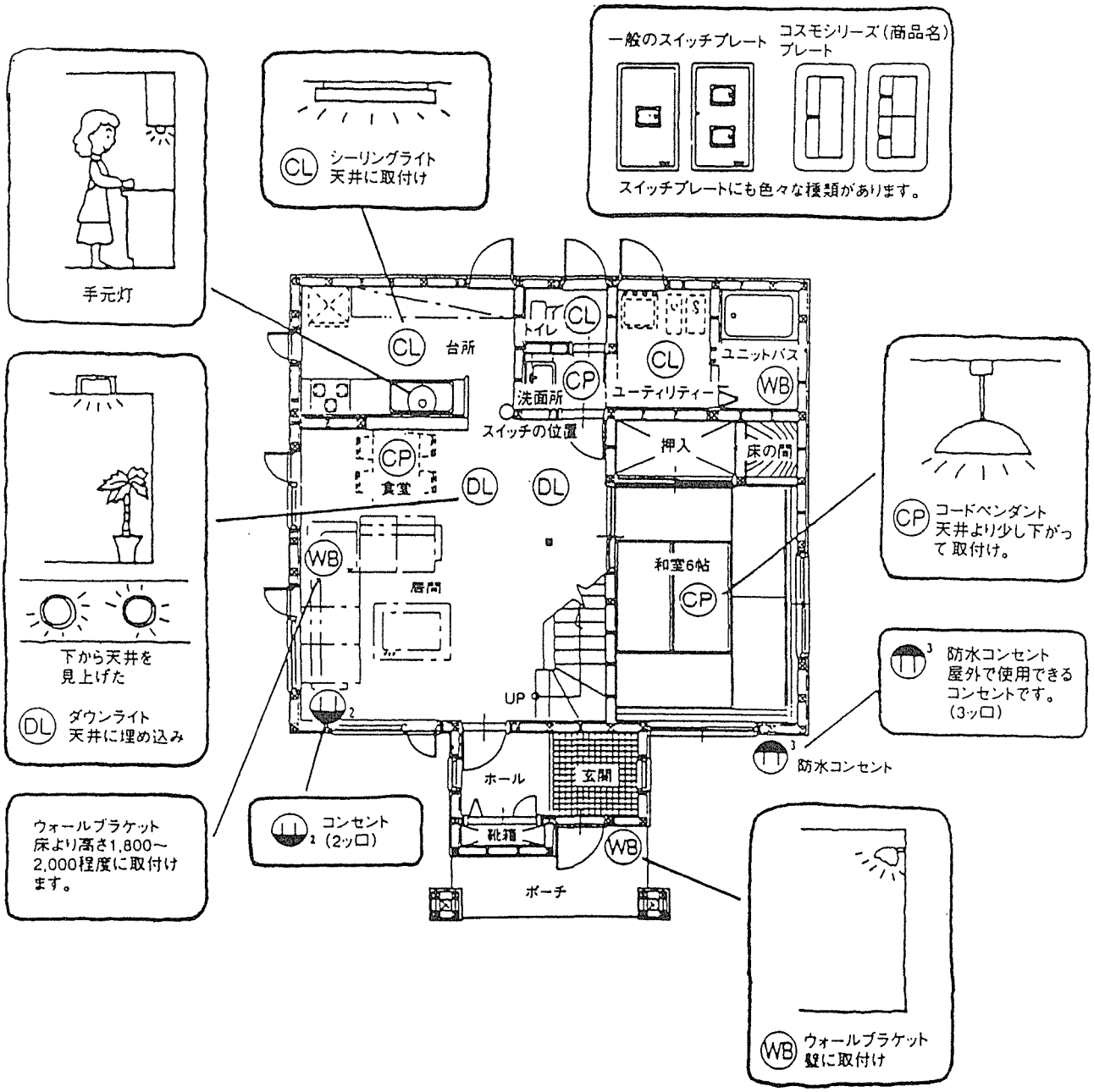
□ 器具に損傷がないか確認

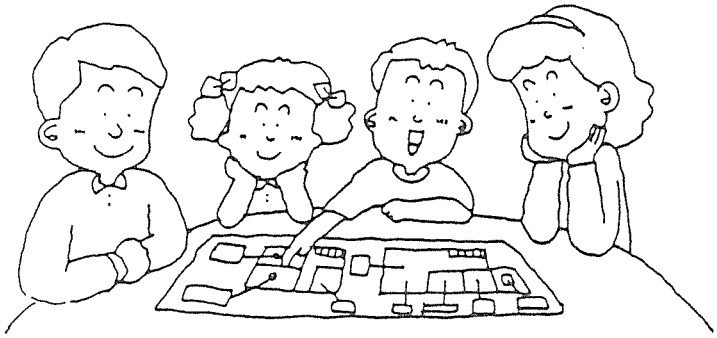
□ 通電後の器具作動の確認

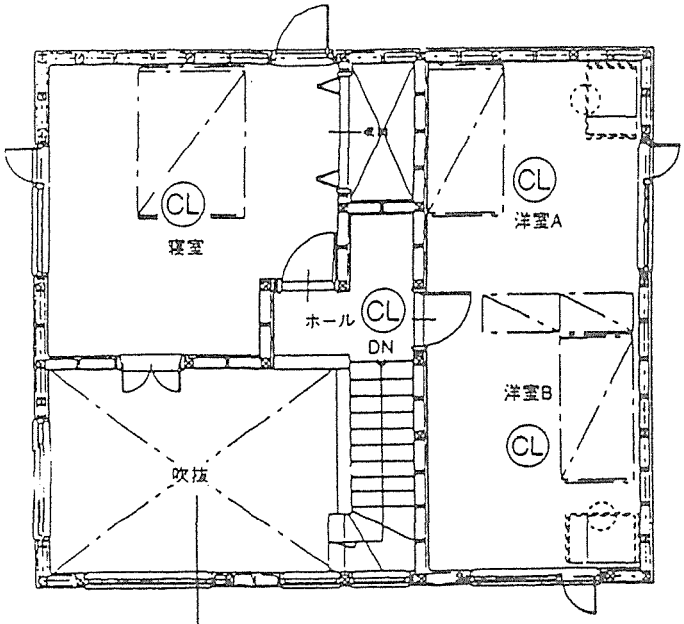
□ 後片づけ、掃除の確認

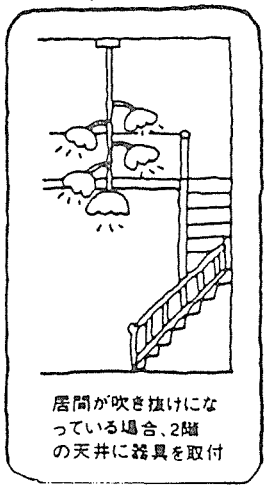
□ 仮設電気の撤去を確認




手元灯
CL シーリングライト
天井に取付け
一般のスイッチプレート
コスモシリーズ（商品名）プレート
スイッチプレートにも色々な種類があります。
下から天井を見上げた
DL ダウンライト
天井に埋め込み
CP コードペンダント
天井より少し下がって取付け。
防水コンセント
屋外で使用できるコンセントです。
（3ッ口）
防水コンセント
ウォールブラケット
床より高さ1,800～2,000程度に取付けます。
コンセント
（2ッ口）
WB ウォールブラケット
壁に取付け
台所
トイレ
ユニットバス
洗面所
ユーティリティー
スイッチの位置
押入
床の間
食堂
居間
和室6帖
UP
ホール
玄関
靴箱
ポーチ







居間が吹き抜けになっている場合、2階の天井に器具を取付

■お部屋の明るさ目安表

照明器具の種類 ＼ お部屋の広さ			4.5畳	6畳	8畳	10畳	12畳
シャンデリア	白熱灯	上向き	240～300W	300～360W	360～480W	480～540W	540～600W
			補助照明ダウンライト				
			30～40W×2	50～60W×4	50～60W×4	50～60W×6	50～60W×6
		下向き下面開放	120～180W	180～300W	300～420W	420～480W	480～600W
			補助照明ダウンライト				
			30～40W×2	50～60W×4	50～60W×4	50～60W×6	50～60W×6
	蛍光灯	インバーク下向き下面カバーあり	—	—	90W	120W	120～150W
		下向き下面カバーあり	—	90W	90～120W	120～150W	150W
シーリングライト	白熱灯	下面カバーあり	—	240～300W	300～420W	420～480W	600W
	蛍光灯	インバーク下面カバーあり	40～60W	60～62W	72～80W	90～100W	120～150W
		下面カバーあり	40～60W	60～80W	80～100W	100～120W	120～150W
ペンダント	白熱灯	下面開放	100W	100～240W	240～300W	300～400W	—
	蛍光灯	インバーク下面開放	—	62W	72W	102W	—
		下面開放	60～62W	62～72W	70～102W	102W	—

※ 白熱灯シャンデリアの場合は、お部屋全体を明るくするためには補助照明が必要です。ダウンライトのワット数を付記しています。

■主要なランプの特長比較

	直管・丸管蛍光ランプ	電球形蛍光灯	コンパクト蛍光灯ランプ	白熱電球	ミニハロゲン電球
形状・サイズ	線形又は環形で大きい	筒形又はボール形でコンパクト・軽量	各種形状があり、コンパクト	球状、コンパクト	極めてコンパクト、特に低電圧(12V)用は、最も小型の実用光源
特長	大型で明るく高効率で長寿命（5000～12000時間）白い光色や電球色のほか種種の光色があり、やわらかな光。	白熱電球用器具に使用できる蛍光灯。白い光色と電球色がありチラツキが少なく、瞬時に点灯。	小型高効率で長寿命。（5000～7500時間）白い光色と電球色の2種がありやや輝きのある光。	小型・軽量・安価で温かみある、輝きの強い光。（寿命は、1000～2000時間）	特に小型で、輝きの強いシャープな光。一般電球よりやや白っぽい光色。（寿命は、1500時間）

● Aタイプ仕様

・M社エアーリゾート（温水＋冷専タイプ）

・季節に応じて各部屋にダクト方式で空気を搬送します。

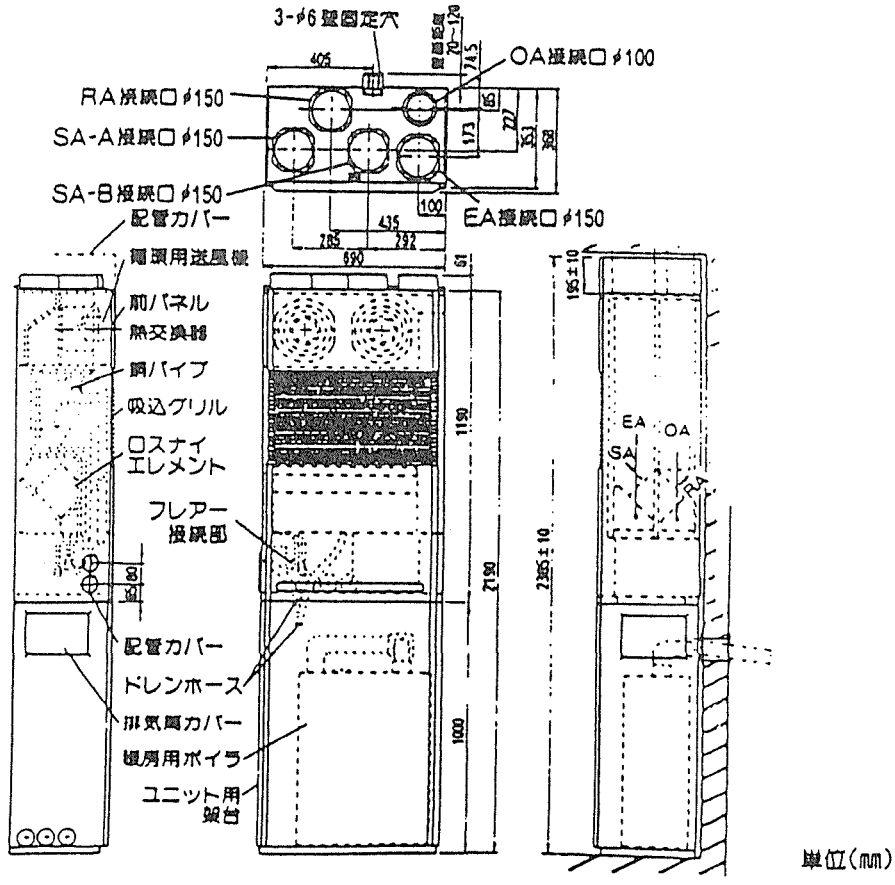
● 本体取付工事

・本体工事は、工事認定業者が施工いたします。 ダクトの本体への接続、野外ユニット設置、冷暖房ユニット設置、電気配線接続、カウンターアロー取付等の工事です。

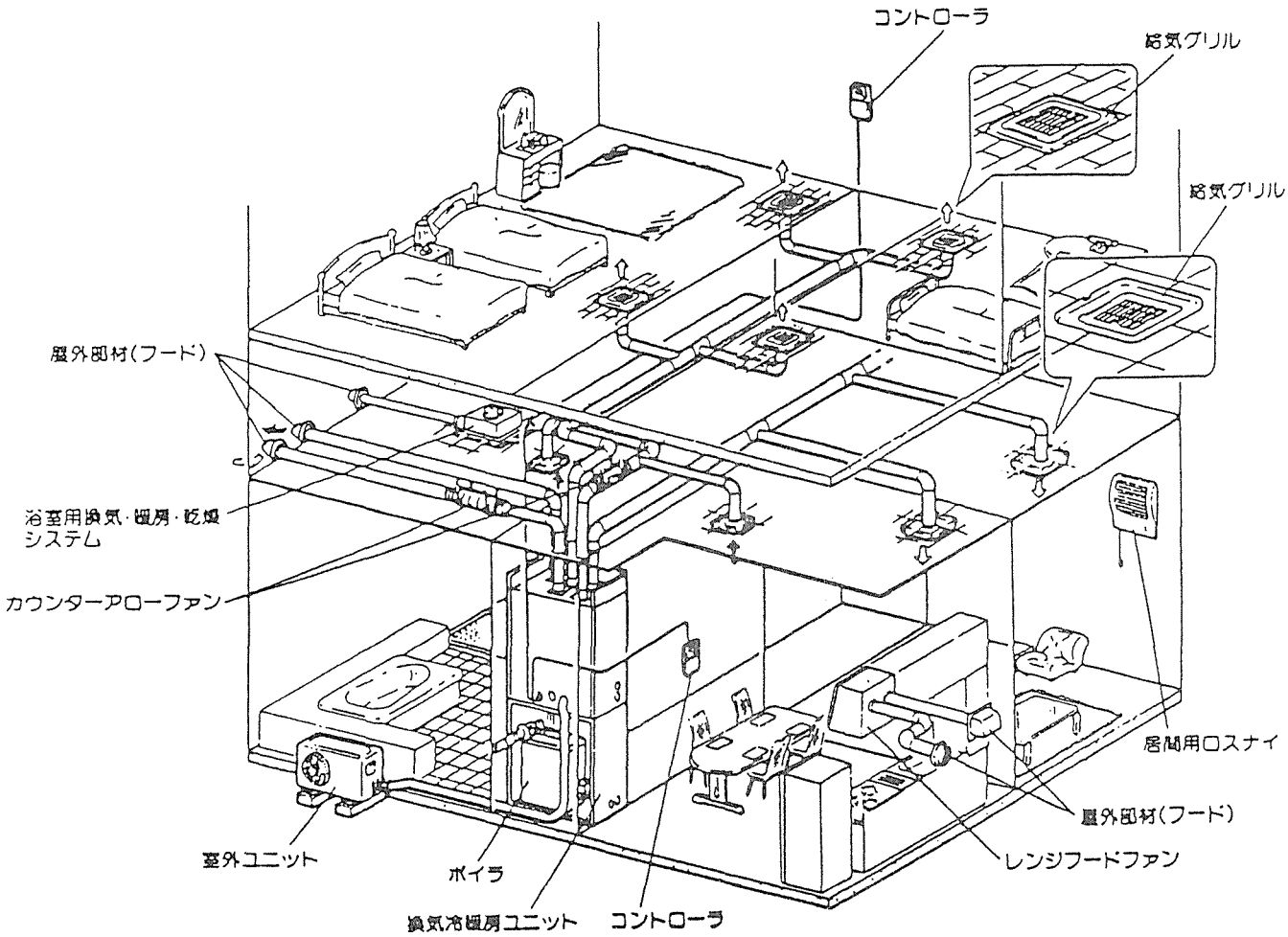
● 室内吸気グリル取付

・図面指定位置に吸気グリルをダクトと接続して取り付けます。

● 換気冷暖房ユニット本体



● システム概念図



● システムのはたらき

・換気冷暖房ユニット　……　ロスナイ換気とともに、冷温風を各部屋に供給します。
・コントローラ　……　運転／停止、空調モード設定、室温設定、タイマー設定を行います。
・カウンターアローファン……　換気冷暖房ユニットに新鮮な外気を供給します。
　(外気取入れ用)
・カウンターアローファン……　室内の汚れた空気を排出します。
　(換気排出用)
・ボイラー　……　暖房用の温水を作ります。
・室外ユニット　……　冷房時に室内の熱を室外に放出します。
・室外ユニット　……　暖房時に室外の熱を室内に取り入れます。

◇◆ Bタイプ仕様 ◆◇

● 計量換気システム

・換気システムのトップメーカー（仕様書参照）を使用し、室内に新鮮な空気を取り入れ、汚れた空気は浴室、WC、ホール、押入等から２４時間持続して外部に排出します。通常モードで室内の空気を２時間で、新しい空気と入れ替えします。ファンモーター交換で ６０年以上の使用に耐える長寿命タイプです。

● ＳＥＰＣ床暖システム

・温水ボイラー、温水循環パイプ、部材は（仕様書参照）信頼のおける製品を使用しています。

● エアコン

・仕様書明記のエアコンを使用します。予め、住宅の熱損失量をコンピューターで計算し設置場所を決めます。

● 換気工事（本体取付工事）

・本体は、ユーティリティー、洗面室等の室内に取付けます。定期的な点検やメンテナンスのため本体を開閉できる場所に設置します。また、振動音を少なくするために取り付け位置に合板と遮音マットを張り付けて下さい。
深夜は多少の音でも気になりますので、寝室の近くへの設置は避けて下さい。

● 換気レジスター位置

・家全体の空気の流れを計算して、流れに澱みが生じないように取り付け位置を図面に表示してありますので、図面指示の位置に必ず取り付けて下さい。

● 吸気口の位置

・吸気レジスターの取り付けは図面の指示した位置に、下地材と重ならない様に外壁に取り付けます。　気密補修は発泡ウレタンを充填します。

● 床暖房工事

・１階の収納部分、家具設置場所を除いた根太間にシームレスパイプを巾 120mm 間隔に全体に敷きつめ専用モルタルで埋め平滑にし、床暖専用のフロアーを張ります。指定の場所にボイラー、コントローラを設置します。

＊床暖フロアーを張る前に必ず、モルタルの養生期間の確認。また、試験運転を行い部材の設置に問題が無いか確認をしてください。

□ 換気冷暖房工事仕様書との確認

□ 工事日程の確認

□ 打合せ通り施工されているか確認

□ 指定位置、高さ等の確認

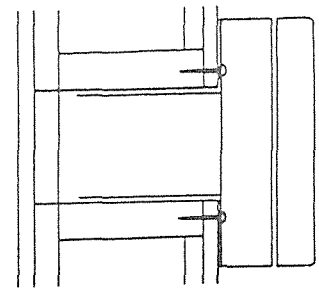
□ 器具に損傷がないか確認

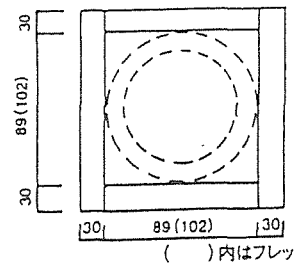
□ 通電後の器具作動の確認

□ 後片付け、掃除の確認

● 吸気口取付

・吸気口の取り付けは、工事の仕上げで行います。建築中に木下地枠を入れておきます。断熱材が膨らんで通気を止めてしまうのを防ぐために入れます。吸気は通気層より外部の新鮮空気を取り入れます。





(　)内はフレッシュ100の寸法

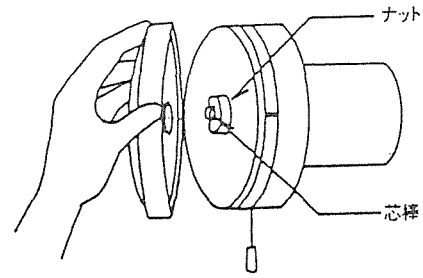
● 取付注意事項

・パイプ取付の際、パイプの周辺にも充分な気密性を確保します。中間パイプは壁厚360mmまで使えます。壁厚にあわせて使用します。

＊取付の際、室内側の壁とレジスタとの取り合いは、コーキングなどで気密を確保するよう注意します。

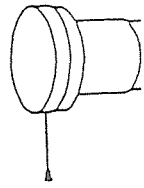
● 吸気口の調整

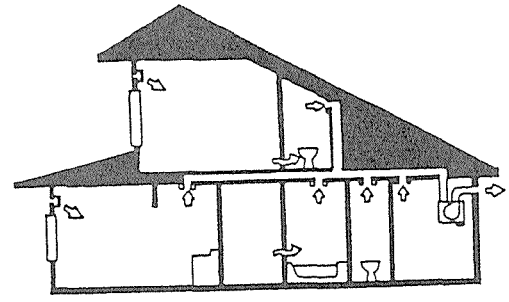
・レジスタを「開」の状態で時計方向に押し回し、図のように外します。ナットと芯棒が同面になるようにナットを回して調整します。

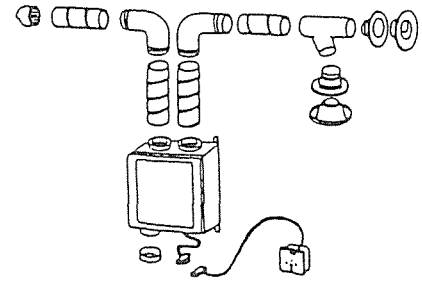


● レジスタの開閉

・ヒモを繰り返し引くことで閉じたり開いたりします。通常は開いたままの状態にしておきまする。



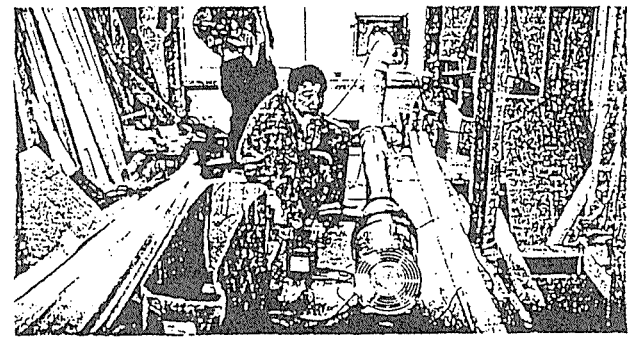




● 建主様のお取り扱い

・スウェーデンで開発された高断熱材、高気密住宅用換気システムで、従来の断続的な換気とは異なります。24時間の必要に最小の量の連続換気を行うことが目的ですので、点検、掃除等の時以外は電源を切らずに連続してご利用してください。

● 建築物が外気に接する天井、壁、床にどれだけ隙間があるかを測定することです。測定方法には室内の圧力を下げて外部からの空気が入ってくる度合いを計る減圧法と、室内の圧力を上げて外部へ空気が出ていく度合いを計る加圧法とがあり、当建物は、前者の方法を使用しています。気密測定は大工工事担当者及び建主様の立ち会いのもとに行われます。



● **気密測定の準備**

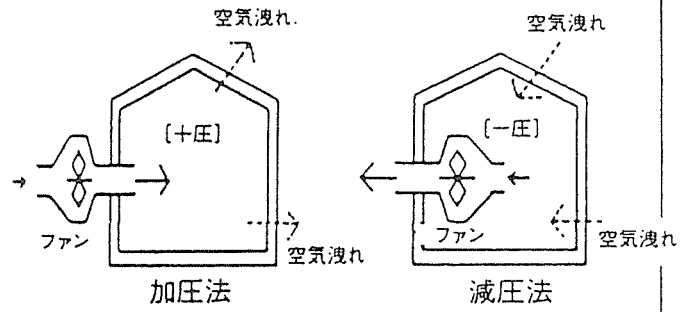
A．図面をそろえます。（平面図、立面図、案内図）

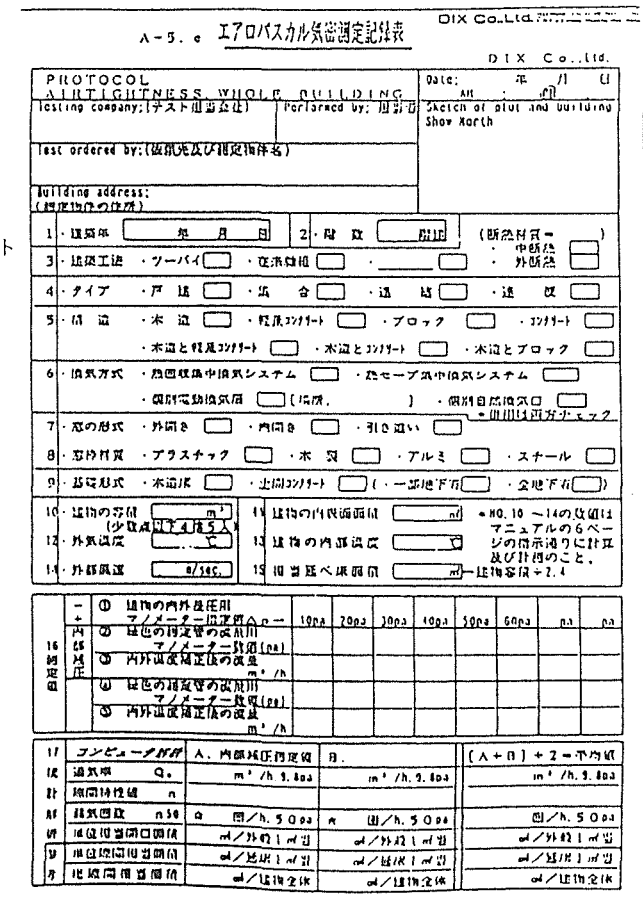
B．エアロパスカル気密測定記録表を用意します。

C．測定機器をそろえます。

〔 送風機、メジャーリングチューブ、フレーキダクト、送風コントローラー、マノメーター（2台）、ゴム管（3本）、風速計、温度計、脚立、ビニール、ガムテープ 〕

D．測定する建物の1階、2階の床面積（吹抜け部分も床があるものとする）を計算します。
住宅内組込型車庫は含まない。



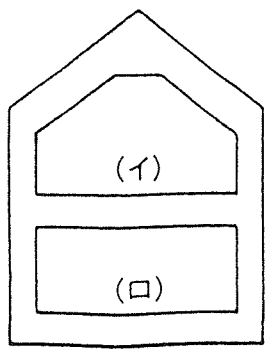


（注・1）記録表NO.10の建物の容積の算出に当たってはつぎのように計算すること。

a．気密層より室内側の空間全ての容積を対象とする。（各居室のほかに、物入れ、納戸、浴室、WC、ホール、クローゼット押入、収納庫など）

b．間仕切り壁はないものと仮定して計算する。

c．ただし、階間の天井空間は体積に含めない。 つまり、図の（イ）、（ロ）の部分の容積m3をいいます。45cmまでの張り出しで窓や天窓の容積は含めなくても良い。



◇◆ 水廻り設備取付工事 ◆◇

● システムキッチン取付

● 洗面化粧台取付

◇◆ 建具取付工事 ◆◇

● 室内建具は、様々なデザイン、バリエーションがあります。しっかりカラーコーディネイトして、落ち着いた雰囲気で飽きのこない様にしてください。

● 出入口仕様

・ドアーの高さ　（ H＝２ｍ ）

・巾　（ バリヤフリー W＝７５０ｍｍ ）

・鍵の付く場所　（ トイレドアー ）

☐ 図面、仕様書との照合確認

☐ 吊戸棚の高さ確認

☐ コーキングの確認

☐ 水栓金具の位置確認

☐ 傷、汚れの確認

☐ 品番、カラーの確認

☐ 開き勝手の確認

☐ 建付けの確認

☐ 汚れ、傷の確認

☐ 金具取付の確認

☐ 扉そりの確認

◇◆ 建具工事 ◆◇

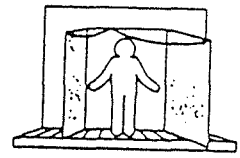
● 開き戸タイプ

・最も多く使われているタイプで丁番を軸に開閉します。開く方向、吊元の確認をしてください。

用 途 （ 居間、個室、トイレ、洗面、ＤＫ・・等 ）

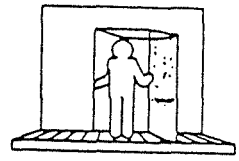
○ 親子ドアー

・２枚ドアーで、普段は大きいドアーを開閉し、物の出し入れに固定側を開く事もできます。



○ シングルドアー

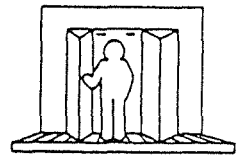
・１枚のドアーを前後に開閉する、最もポピュラーなドアーです。



● 折れ戸

・２枚１セットの折りたたみ戸、開閉スペースがコンパクトで、広い開口幅がとれます。

用 途 （ 浴室、収納、間仕切り・・等 ）

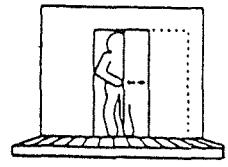


● 引き戸

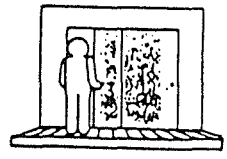
・左右にスライドさせて開閉し、普段は開けたままにしたい所に便利です。

用 途 （ 居間、個室、押入、トイレ、洗面、和室・・等 ）

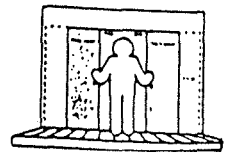
○ 片引き戸



○ 引違い戸

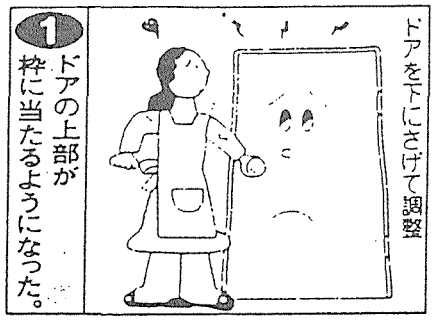


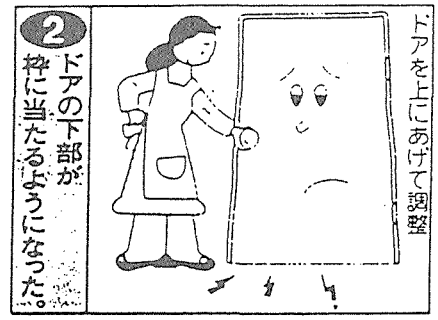
○ 引分け戸

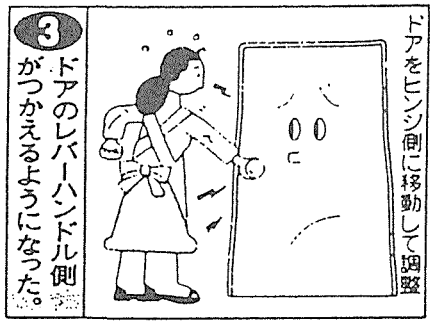


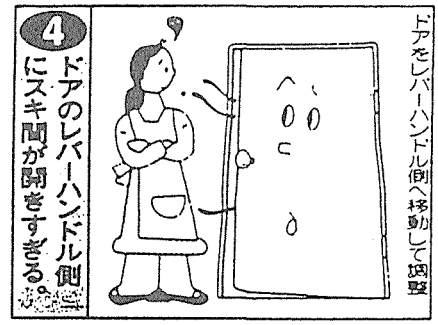
◇◆ ドアー調整ヒンジ機能 ◆◇

● どんな時にもドアの調整が、簡単に出来ます。

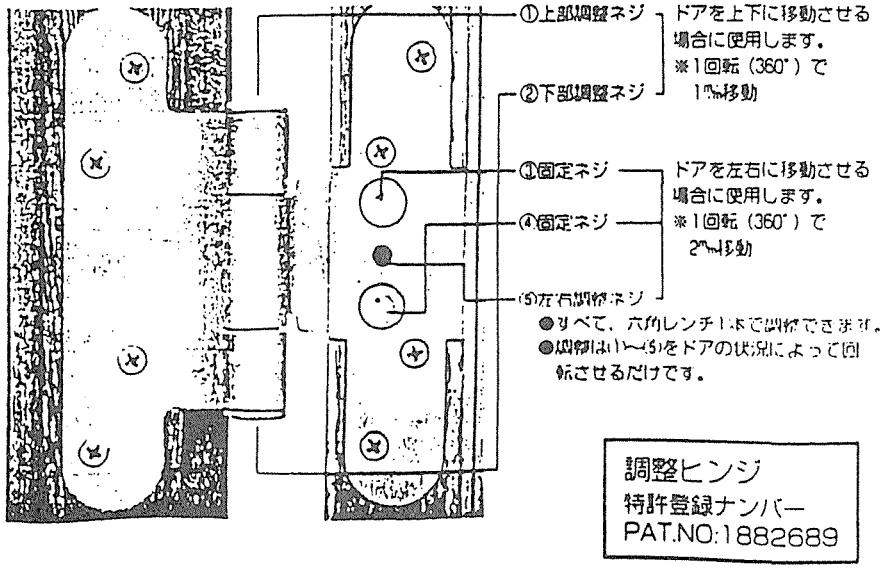








六角レンチ1本で上下左右、2㎜ずつの調整が簡単にできます。



◇◆ 左 官 工 事 ◆◇

● 工事内容

○ 基礎シゴキ仕上げ

・布基礎の平面をシゴキ材で補修することを言います。

○ 布基礎モルタル仕上げ

・布基礎の平面をモルタルで塗り仕上げることを言います。

○ モルタル金ゴテ仕上げ

・土間コンクリートの上に金ゴテを使い仕上げることを言います。

◇◆ タイル工事 ◆◇

● タイル工事は、内部と外部に分かれますがその用途に応じてタイルを選びます。 仕様サイズは１００角タイルです。
キッチンの壁タイルはボードに直にタイルボンドで貼り付けます。 床、外壁タイルは中塗モルタル後、タイルを貼り付け目地処理をして仕上げます。

● タイル壁の工法には、ベース材にタイルを引っかけては接着していく乾式工法もあります。

● メモ

□ セパレーターは除去したか確認

□ 外壁とのちりは良いか確認

□ 土間コンクリートの通り確認

□ 水勾配は良いか確認

□ タイル品番の確認

□ タイル下地の状態を確認

□ モルタル等、残材整理の確認

□ 玄関ポーチ等の養生の確認

□ 玄関ポーチの水勾配の確認

□ 高さ、位置、通りの確認

□ 目地切れがないか確認

□ タイル洗いの状態確認

□ タイルと各部取合いの確認

◇◆ クロス工事 ◆◇

● 壁、天井のボード下地にパテ処理で平滑にして、その上に壁仕上げ材を貼って仕上げます。

- □ クロス品番の確認
- □ 下地処理状態の確認
- □ 取合部、ジョイント部の確認
- □ パテ、糊等の掃除確認

◇◆ ガス工事 ◆◇

● 都市ガスの場合は、室内配管時に施工します。プロパンガスは引き込みがないため最後の時点で取り付けます。壁の配管穴には必ずコーキング等を充填して下さい。ガスボンベ位置、メーター取付け位置の確認をして下さい。

- □ 図面、仕様書との照合確認
- □ 位置、高さ等の確認

◇◆ 畳の敷き込み ◆◇

● 割付け番号を記入しておくと便利です。番号は床の間等を基準に通常時計回りに記入します。割付け図を取って置きましょう。

- □ 寸法取り日程の確認
- □ 下地床、掃除の状態確認

◇◆ 網 戸 ◆◇

● 網戸の取り付けをします。窓の仕様により、内付け、外付けのタイプがあります。

- □ 網のカラー、取付箇所の確認

◇◆ 照明器具取付 ◆◇

● 打ち合わせ品番の器具が取付られているか、傷がないかを確認して下さい。

- □ 品番、取付箇所の確認
- □ 傷、汚れ等の確認

◇◆ カーテンブラインド取付 ◆◇

● カーテン、ブラインドは機能だけでなく、部屋の雰囲気を変えるインテリアとしても重要な役割を果たします。
打ち合わせの時は、しっかりご検討ください。

○ カーテンレール
機能だけでなく装飾性のあるレールが豊富にあり、カーテンや窓の種類によってお選び下さい。

○ 採寸取付と要尺のめやす
- ・レールの長さ＝窓巾＋20~30 cm（左右各 10~15 cmで決める。）
- ・カーテン仕上巾＝レールの長さ×1.05
- ・カーテン仕上丈＝（腰高窓）窓下枠 15~20 cm レースは－1 cm
  ＝（掃出窓）床面から －1 cm レースは－2 cm

○ ロールスクリーン
色の種類は豊富にあり、窓枠の内側に取り付けます。

- □ 取付箇所の確認
- □ 採寸チェック
- □ 品番、カラーの確認

◇◆ クリーニング ◆◇

● クリーニングは、工事が完了した時点でかかります。
窓廻りを仕上げて、各養生を取り除き、汚れをきれいに落とします。清掃後、床、壁、天井面に、傷、汚れの有無を調べ、補修は敏速かつ慎重に行います。

☐ 各部清掃状態の確認

☐ 傷、汚れの確認

◇◆ 竣工検査 ◆◇

● お施主様、営業担当、工事責任者により竣工チェックをします。

● **外部竣工検査**

☐ 外観を道路側から見て、イメージ通りか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 建物周辺の掃除、かたづけ、整地の状態はどうか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 換気口の通風状態はどうか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 床下に、汚れ、残材等が残っていないか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 基礎表面にヒビ割れがないか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 外壁：サイディング貼で接合部の防水処理、下部の水切り処理はどうか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 外壁：モルタル仕上で塗り方が平らに仕上がっているか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 屋根：全体に均一にきれいに葺かれているか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 屋根：壁との取り合い、谷部の防水状態はどうか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 樋　：軒樋、たて樋とも、接合取付状態はどうか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 土間：たたき部分のコンクリート塗りの状態はどうか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ テラス、バルコニーに屋根、庇、手摺があれば、納まりはどうか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 防水：カーポート、バルコニーの防水、水はけの状態はどうか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 玄関：玄関ドアの開閉具合、施錠状態はどうか。ドアに傷、汚れはないですか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 玄関：ポーチ、ホールの床仕上げ、柱、庇等の仕上りはどうか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ サッシの開閉状態、施錠はスムーズか。ガラスの種類はよいか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ サッシと外壁の取り合い部分に隙間はないか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 雨戸と外壁との取付けはどうか。開閉、施錠はスムーズか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 面格子は指定箇所に付いているか。取付強度はよいか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 給湯設備（外釜、給油タンク等　）の位置は、防火、騒音重量等で問題はないか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 排水マスのふたを開けてみて、排水状態がスムーズですか。	☐ OK.	☐ NO.
☐ 雨樋は排水マスに接続されているか。（接続可能な場合）	☐ OK.	☐ NO.

◇◆ 竣 工 検 査 ◆◇

● お施主様、営業担当、工事責任者により竣工チェックをします。

● 内部竣工検査

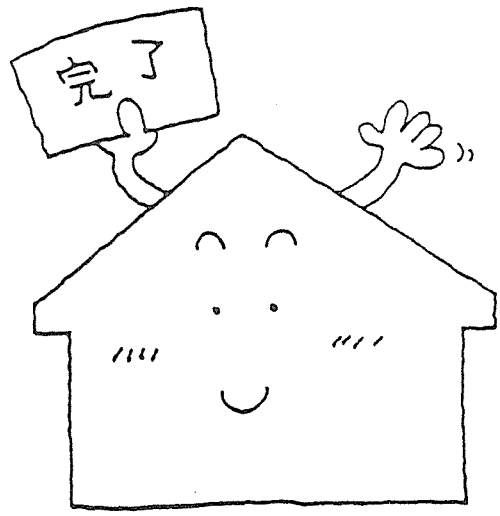
□ 床	：歩いてみてきしむ音がしないか。	□ OK.	□ NO.
□	：床の水平はどうか確認。	□ OK.	□ NO.
□	：床と壁の取り合い部の納まりはよいか。	□ OK.	□ NO.
□	：床表面の傷、汚れはないか。	□ OK.	□ NO.
□ 壁	：火気使用室の材質、施工は適切か。	□ OK.	□ NO.
□	：クロスのしわゆがみ、傷、はがれ、ズレはないか。	□ OK.	□ NO.
□	：左官仕上げで傷、汚れはないか。取り合いはきれいか。	□ OK.	□ NO.
□	：塗装仕上げで塗りむら、塗り残しはないか。	□ OK.	□ NO.
	：他の素材との取り合いはきれいに納まっているか。	□ OK.	□ NO.
□	：タイル貼で目地のひびわれ等がないか。	□ OK.	□ NO.
□ 天井	：ボード貼の接合部でラインがそろっているか。	□ OK.	□ NO.
	：ボードのたわみはないか。	□ OK.	□ NO.
□	：クロス貼でしわゆがみ、傷、はがれズレがないか。	□ OK.	□ NO.
□	：和室天井板と壁との接合部の納まりはきれいか。	□ OK.	□ NO.
□ 建具	：内部建具の仕様（種類、金物、鍵、仕上げ）はよいか。	□ OK.	□ NO.
□	：建具の開閉（開き勝手）と取手の操作性はよいか。	□ OK.	□ NO.
□	：和室の敷居、鴨居部分に傷はないか。	□ OK.	□ NO.
□	：木製建具の桟等に乾燥による割れ等がないか。	□ OK.	□ NO.
□ 台所	：システムキッチンの取付状態、扉、引き出しの操作性 水栓金物や、加熱機器の機能はスムーズか。	□ OK.	□ NO.
□	：キャビネット内での水漏れはないか。	□ OK.	□ NO.
□	：換気設備の能力と操作性、音等に問題はないか。	□ OK.	□ NO.
□ 便所	：便器、手洗い器の取付状態、水音、水漏れに問題はないか	□ OK.	□ NO.
□ 浴室	：浴槽の据え付け状態、水栓金物の操作性、排水等はどうか。	□ OK.	□ NO.
□ 洗面	：洗面台の据え付け、隙間のコーキングに問題はないか。	□ OK.	□ NO.
□ 電気	：コンセント、スイッチの位置、種類は適切か。	□ OK.	□ NO.
□	：分電盤の分岐回路は容量限度内ですか。	□ OK.	□ NO.
□	：照明器具の位置、種類は指定通りか。	□ OK.	□ NO.
□ 設備	：設備機器取付後の目地処理、損傷処理はできているか。	□ OK.	□ NO.
□	：設備機器取付後の配管廻りの防水、防露は適切か。	□ OK.	□ NO.
□	：エアコンの設置位置を確認、試運転し性能を確認する。	□ OK.	□ NO.
□	：エアコン設置予定の場所にコンセントはあるか。	□ OK.	□ NO.
□	：床暖房は操作スイッチにより位置及び性能を確認。	□ OK.	□ NO.

■ 確認：手直し部分については、工事責任者、設計監理者双方と確認の上、文書によって施工業者とその方法と時期について確認しましょう。

◇◆ お引き渡し ◆◇

● お施主様にご参加していただき、弊社と主力業者で工事完了検定を行います。
終了後に記念撮影をさせていただきます。

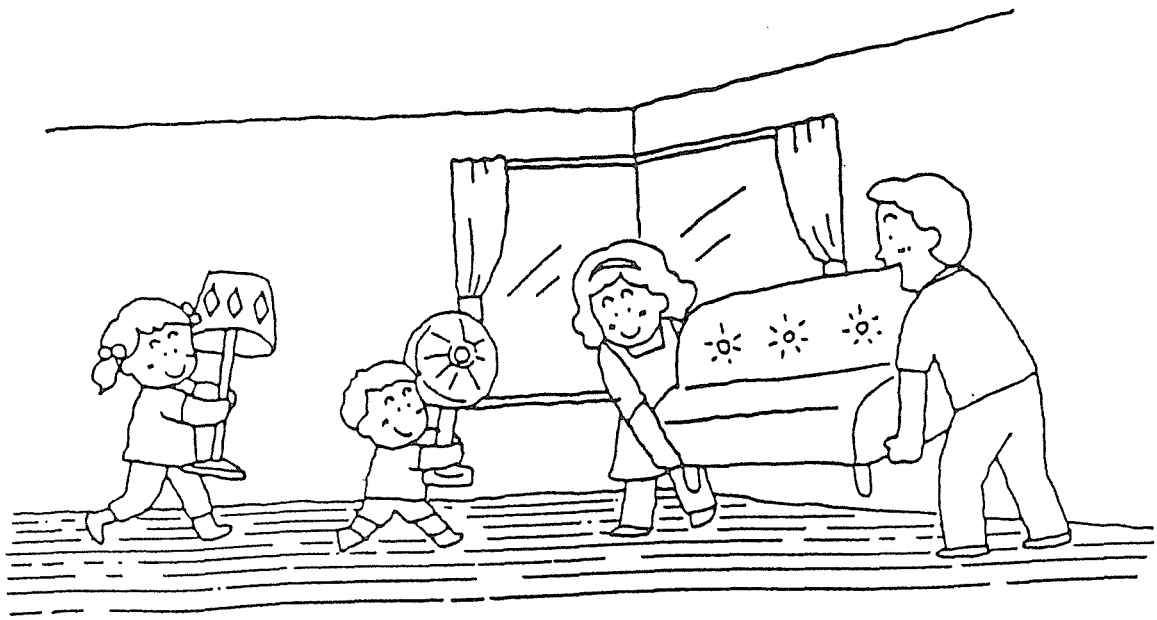
● 設備の使い方等のご不審の点は、どんな事でもお尋ね下さい。



◇◆ ご入居 ◆◇

● お引越しをしていただきます。荷物を入れる場合、床等に傷が付かない様に養生をして下さい。

● 公庫融資の場合：法務局に建物の表示登記申請手続きを済ませて下さい。



営業・顧客管理ツール

１．請負契約後に新築祝いをかねて、営業及び現場管理に利用するＦＡＸをお施主様に提供し工事の円滑化をはかる。
２．工事進行中の変更並び、追加確認が容易にでき書面で残す事ができる。
３．打ち合わせの合理化及びトラブル防止に役立ちます。

ＦＡＸ通信　　NO. 1

【ご要望工事増減金額のご連絡】

平成　　年　　月　　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿様

会社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

担当者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

拝啓、ご家族の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、ご依頼の工事についての増減金額を下記の通りにご連絡申し上げます。敬具

変更工事御見積書

品　　名	品　番・規　格	単 位	単 価	金 額	備 考
合計金額					

（消費税は別途です。）

■ 上記の変更工事によりまして、全体の工期が下記日数遅れますのでご了承ください。

◆ 変更工事追加日数＿＿＿＿日　　完成予定日　平成　　年　　月　　日

■ 上記についてのお問い合わせは、工事担当者＿＿＿＿＿＿＿＿までご連絡ください。

■ ご了承いただきましたら下記に、ご承認サインをしてＦＡＸで用紙をお送りください。

承認サイン	

〔お問い合わせ〕

ＴＥＬ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　会社名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ＦＡＸ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　住　所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ＦＡＸ通信　　NO. 2

【事前打合わせ会議開催のご連絡】

平成　年　月　日

様

会社名

担当者

拝啓、ご家族の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
この度のご新築工事おめでとうございます。
　いよいよ本格的に工事に入ってまいりますが、私どもスタッフ一同、心を込めて工事を進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。
さて、下記の日程で、お客様事前打合わせ会議を行いますのでご出席をお願い申し上げます。できれば、ご家族ご夫婦でご出席下さいますようご案内申し上げます。なにかとご多忙とは思いますが、万障繰り合わせの上、よろしくお願い申し上げます。

記

開催日　　平成　年　月　日（　　曜日）

開催時間　　午　前　　時　　分
　　午　後　　時　　分

開催場所　　弊社事務所

■ 尚、この会議の詳しい内容は、〔新築施工・管理マニュアル〕に記載してあります。
必ずご一読していただくようにお願い申し上げます。

〔お問い合わせ〕

ＴＥＬ　　会社名

ＦＡＸ　　住　所

ＦＡＸ通信　　NO. 3

【 お引き渡し会のお知らせ 】

平成　年　月　日

様

会社名

担当者

拝啓、ご家族の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご愛顧を賜わり厚く御礼申し上げます。
　いよいよご家族の皆様お待ちかねの住宅が完成を致しました。下記の日程で最終検定及びお引き渡し会を執り行いますので、ご出席いただきますようお願い申し上げます。 できれば、ご家族ご夫婦でご出席下さいますようご案内申し上げます。　当日は、今回の工事に関わらせて戴きました関係者も出席し、住まいの設備等のお取り扱い説明もさせていただきます。当日は皆様でご一緒に記念撮影をさせていただく予定をしております。

尚、お引き渡しに関して、工事完了確認並び、最終増減金額の確認と工事残金のお支払い手続きをさせて戴きますのでよろしくお願い致します。

記

開催日　　平成　年　月　日（　　曜日）

開催時間　　午　前　　時　　分
　　午　後　　時　　分

〔お問い合わせ〕

ＴＥＬ　　会社名

ＦＡＸ　　住　所

ＦＡＸ通信　　NO. 4

【 第２回打ち合わせ会議開催のご連絡 】

平成　　年　　月　　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿様

会社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

担当者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

拝啓、ご家族の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご愛顧を賜わり厚く御礼申し上げます。
　さて、新築工事も本格的な工事に入り、私どもスタッフも一生懸命工事に取り組んでおりますので、よろしくお願いいたします。
前回のコーディネート会議の打ち合わせは、誠に有り難うございました。ご協力を戴いたおかげで工事の段取りも順調に進んでおり感謝しております。
今回の打ち合わせ会議は、前回に決定の出来なかった項目と室内の細部にわたり打ち合わせを致したくご案内申し上げます。打ち合わせ事項は新築工事管理マニュアルをご参照ください。　　敬具

記

開 催 日　　平成　　年　　月　　日（　　曜日）

開催時間　　午　前　　時　　分
　　午　後　　時　　分

開催場所　　弊社事務所

◇ 尚、ご不明の点、ご確認等ございましたら、担当者にお気軽にお尋ねください。

〔お問い合わせ〕

ＴＥＬ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　会社名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ＦＡＸ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　住　所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ＦＡＸ通信　　NO. 5

【 工事進行状況報告書 】

平成　　年　　月　　日

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿様

会社名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

担当者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

拝啓、ご家族の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご愛顧を賜わり厚く御礼申し上げます。
　さて、ご依頼いただきました新築工事の進行状況をご連絡いたします。現在工事はお蔭様で順調に進んでおります。
何かご不明な点やご確認等ございましたら、ご連絡ください。

記

現在の工事工程　　工事は　　月　　日頃に終わります。

工事は　　月　　日頃より開始します。

◆ 工事の工程上のスケジュールは
◇ 多少進んでいる
◇ ほぼ予定通り
◇ 少し遅れている
の現状です。

工事スタッフ一同は、培われた技術力と情熱をもって工事に取り組んでおります。
新築工事管理マニュアルで現場の状況を、ご確認してください。

〔お問い合わせ〕
ＴＥＬ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　会社名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
ＦＡＸ ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　住　所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

2　木造住宅施工記録シート

目　次

工事管理要表 …… 57

標準工程／検査項目（１） …… 58

Ⅰ－０１　地　縄 …… 59

Ⅰ－０３　基　礎 …… 61

標準工程／検査項目（２） …… 72

Ⅱ－００　木工事（軸組） …… 73

Ⅲ－０１　雨仕舞 …… 92

Ⅳ－０１　断　熱 …… 98

Ⅴ－０１　設　備 …… 102

Ⅴ－０２　通　気 …… 103

Ⅵ－０１　外部仕上 …… 107

Ⅶ－０１　内部造作 …… 109

Ⅷ－０１　設　備 …… 112

〔工事管理概要表〕

平成　年　月　日

件　名					
所在地	〒				
建築主	住　所	〒	設計者	住　所	〒
	氏　名	TEL		氏　名	TEL

構造・規模	用　途			地域・地区		
	構　造					
	工事種別	新築・増築・改築				
	階　数	地上　階　地下　階				
	建築面積	㎡	建ぺい率	%	敷地面積	㎡
	延床面積	㎡	容積率	%		坪

工事関係者記録	区　分	会　社	担当者	所在地	TEL
	建　築				
	電　気				
	給排水				
	空　調				

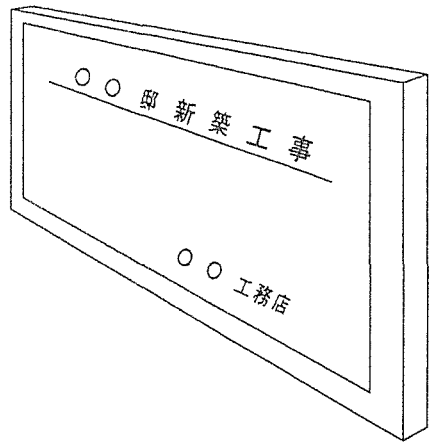
所轄官庁	区　分	官公庁名	担当課	担当者	TEL	検査日	建築確認年月日・番号 平成　年　月　日 No.		
	役　所								
	消　防								
	警　察						消防同意年月日・番号 平成　年　月　日 No.		
	電　力								
	電　話								
	水　道							着工	竣工
	ガ　ス						契約工期	・　・	・　・
							実施工期	・　・	・　・

備考	

【 標準工程 ／ 検査項目 （1） 】

工事種別	工　程　I	確認・検査項目
仮設工事	地縄　　基礎 地縄　水盛り、やり方	・看板設置　I－01 ・敷　地　I－02 ・配　置　I－02 ・ベンチマーク　I－02
基礎工事	根切り　配筋　型枠　コン打設	・地耐力　I－03 ・根切寸法　I－03 ・割栗石　I－03 ・捨コンクリート　I－03 ・基礎配筋　I－04、5 ・型枠寸法　I－04、5 ・アンカーボルト　I－04、5 ・コンクリート打　I－06、7 ・天端均シ　I－08 ・断熱材　I－09 ・スラブ配筋　I－11
設備工事	床下配管	・床下配管　I－10 給水、給湯 排水 ガス ・浄化槽位置　I－10

工　程Ⅰ	地　　縄	Ⅰ－０１

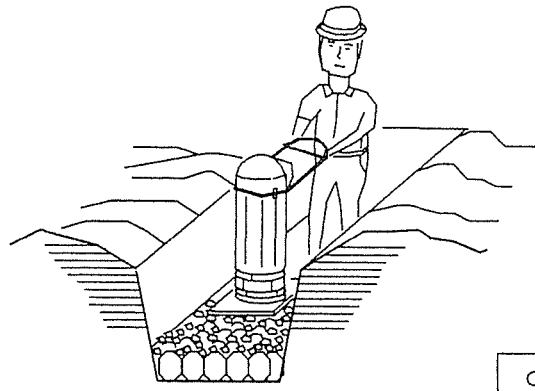
看板設置 設置年月日 平成　年　月　日 邸新築工事	 ○○邸新築工事 ○○年　○月　○日 基礎転圧 ○○工務店
確認看板設置	○○邸新築工事 ○○年　○月　○日 ○○○○ ○○工務店
敷地全景	○○邸新築工事 ○○年　○月　○日 ○○○○ ○○工務店

工　程Ⅰ	地　　縄	Ⅰ－０２
敷　地 ・境界杭の確認 ◇ １．有り ◇ ２．一部有り ◇ ３．無し （２，３の場合は、建築主又は設計者に境界位置の確認をする。）	○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 基礎転圧 ○○工務店	
配　置	地縄全景写真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
ベンチマーク（ＢＭ） ・敷地地盤面＝ＢＭ ・動かない物、位置に設置	○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	

工　程Ⅰ	基　　礎	Ⅰ－０３

地　耐　力

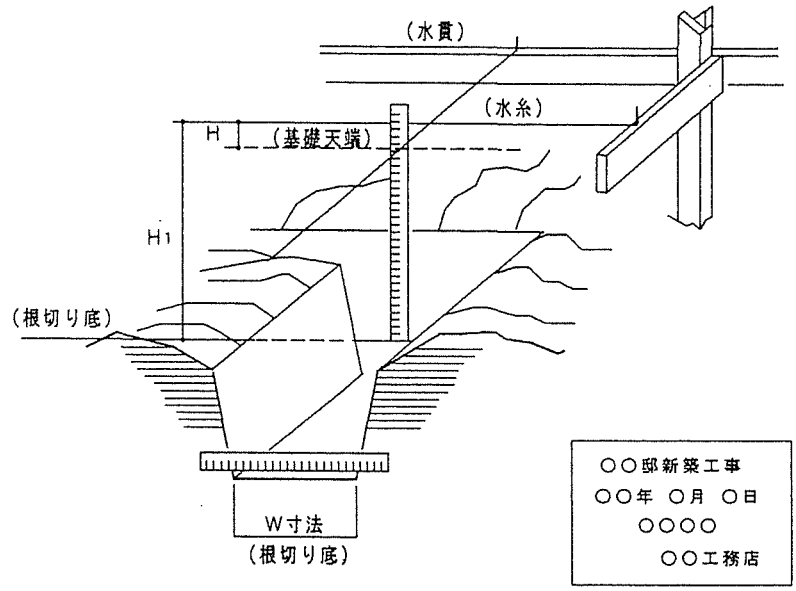
・割栗石、砕石の転圧状態



○○邸新築工事
○○年　○月　○日
基礎転圧
○○工務店

根切り寸法

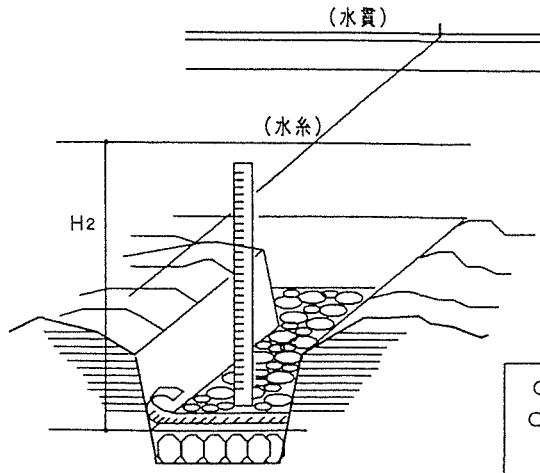
・設計地盤面の確認
・ベース巾より左右50mmずつ広く根切る。



○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

割　栗　石

・突き固め状態の確認
・厚みの確認

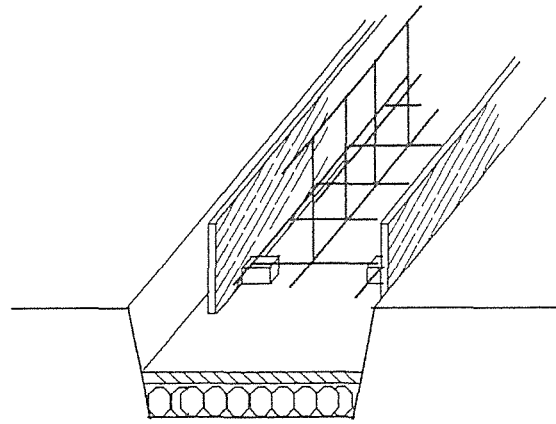


○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

工　程Ⅰ	基　　礎	Ⅰ－０４

ベース配筋

・スペーサーブロック60㎜ @900
・鉄筋径の確認
・ピッチの確認

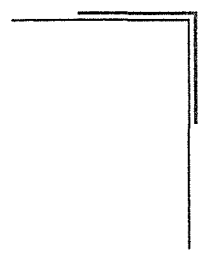


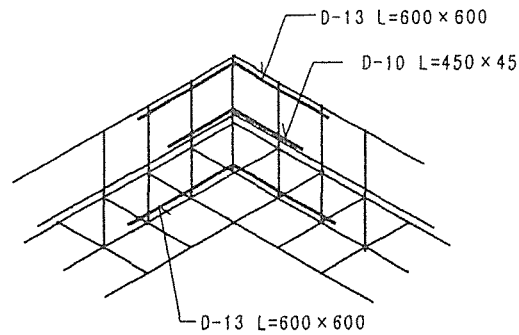
○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

コーナー部配筋

・補強鉄筋の確認

D-13 L=600×600
D-10 L=450×450





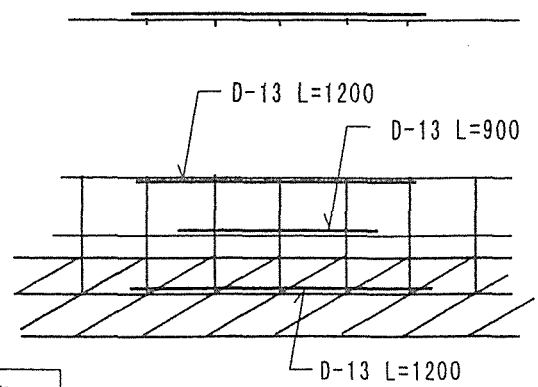
○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

コーナージョイント

継手部配筋

・補強鉄筋の確認

D-13 L=1200
D-13 L=900



○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

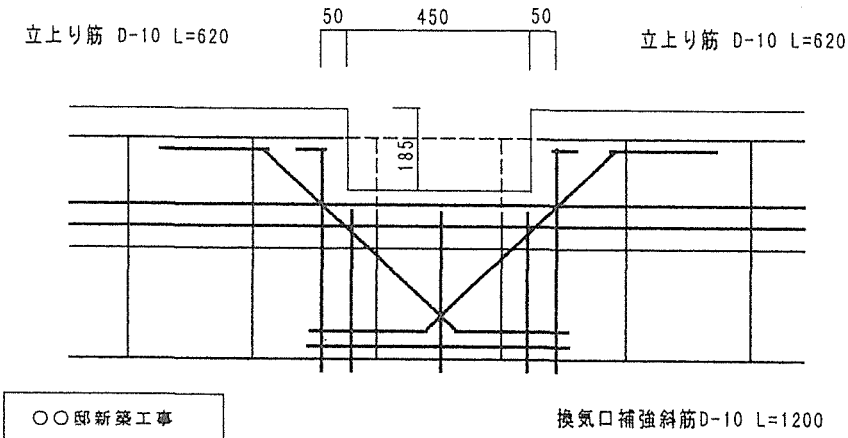
ストレートジョイント

工　程Ⅰ	基　　礎	Ⅰ－０５

床下換気口の補強

・スペーサーブロック60㎜ @900
・鉄筋径の確認
・ピッチの確認

換気口補強斜筋D-10 L=1200
立上り筋 D-10 L=620

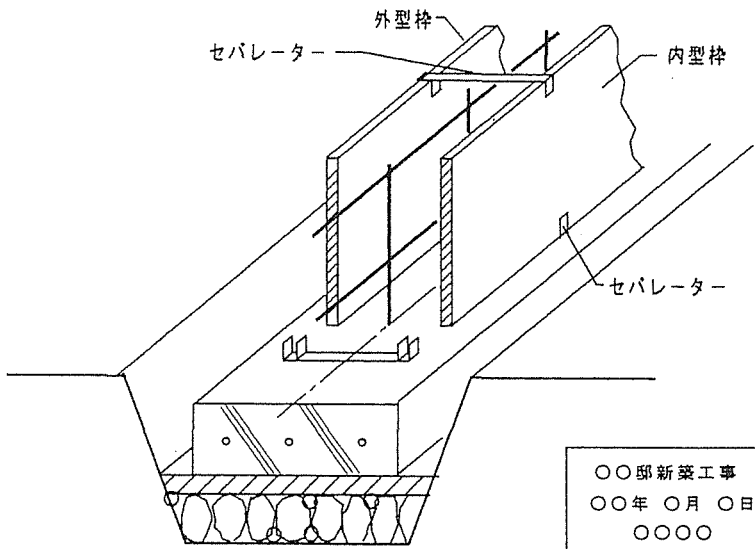


○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

床下換気口部補強

型　　枠

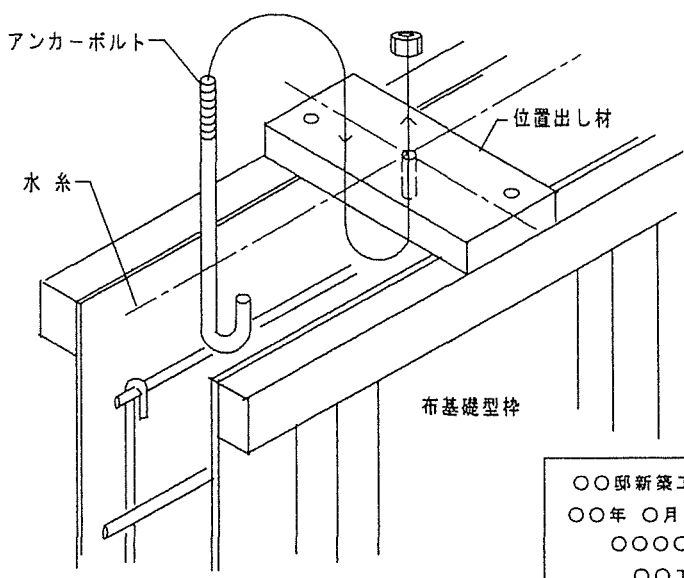
・型枠寸法
・セパレーター@６００
・固定状態の確認



○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

アンカーボルト

・固定状態の確認
・図面との位置確認
・ピッチ@２０００
　　長さ２６０㎜以上

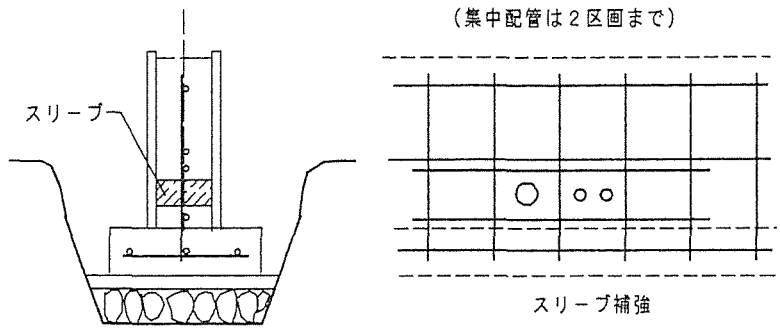


○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

工　程Ⅰ	基　　礎	Ⅰ－06

配管スリーブ

・管、径、位置の確認
・補強鉄筋、有無の確認
・固定状態の確認



○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

コンクリート打設

・全体清掃の確認
・適切な振動を与え、ジャンカが無いように注意する。
・水抜きパイプの設置
　塩ビ 13mm
　床下換気口下に設置する。

コンクリート強度 180kg/cm
スランプ 18cm

打ち込み時の全景

○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

コンクリート強度 kg／cm
スランプ cm
天　候
気　温

＊ 納品書の添付

打ち込み完了時の全景

○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

工　程Ⅰ	基　　礎	Ⅰ－07

型枠取外し

・型枠存置期間の確認
・ジャンカ部分の補修
・全体寸法、対角差の確認
・型枠存置期間＿＿＿＿日

・型枠存置期間

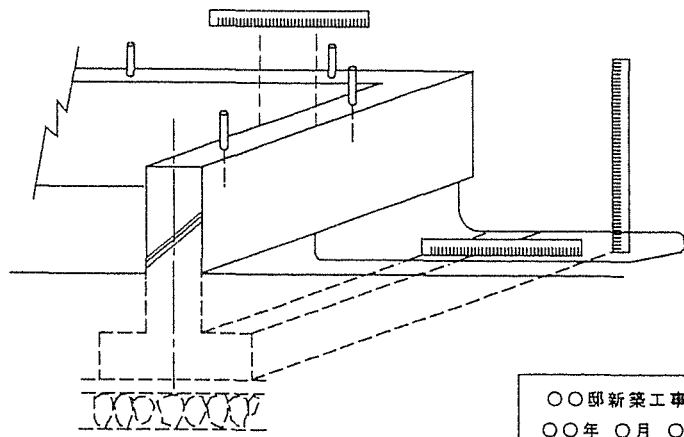
気温１５°Ｃ	３日以上
気温　５°Ｃ	５日以上

型枠外し後の全景

○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

基礎寸法

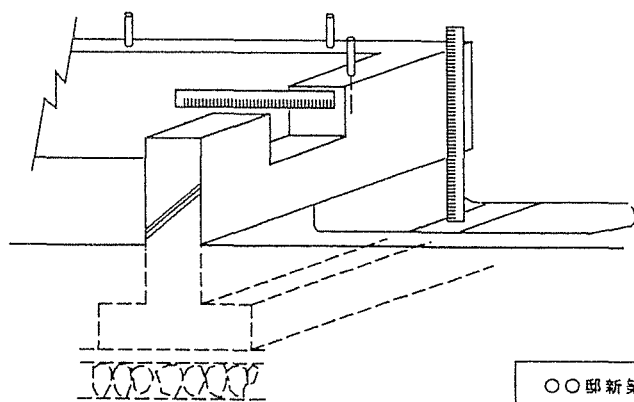
・ベース幅の確認
・立上がり寸法の確認
・高さ、巾寸法の確認



○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

床下換気口寸法

・図面との位置の確認
・水抜き穴の確認

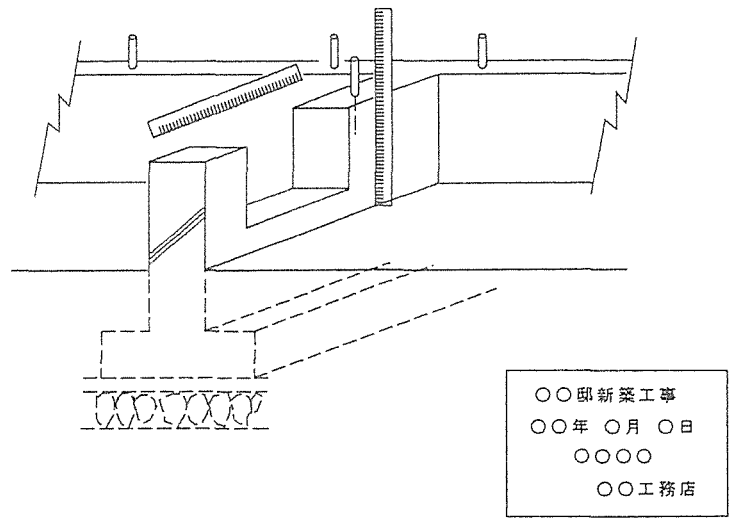


○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

工　程Ⅰ	基　　礎	Ⅰ－０８

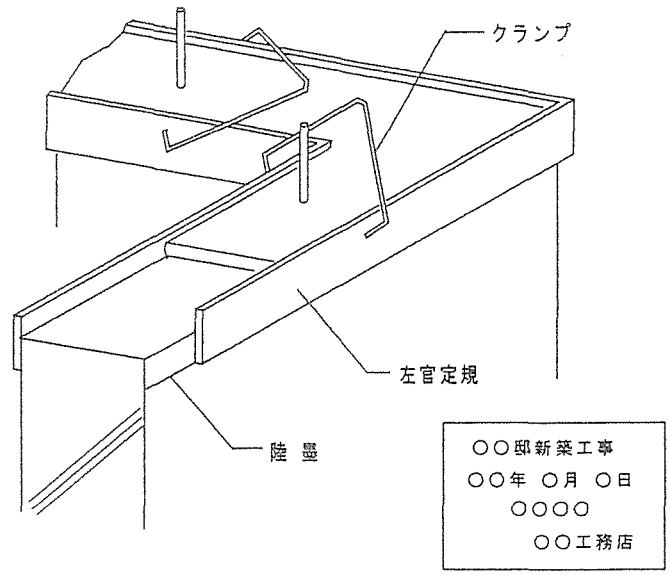
床下通気口

・各部寸法の確認



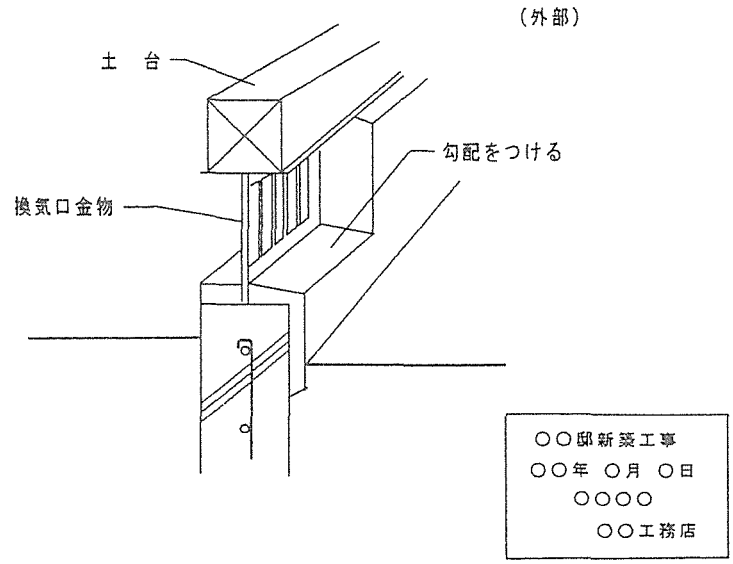
天端均し

・天端水平の確認
・モルタル厚２０㎜前後



床下換気口廻り

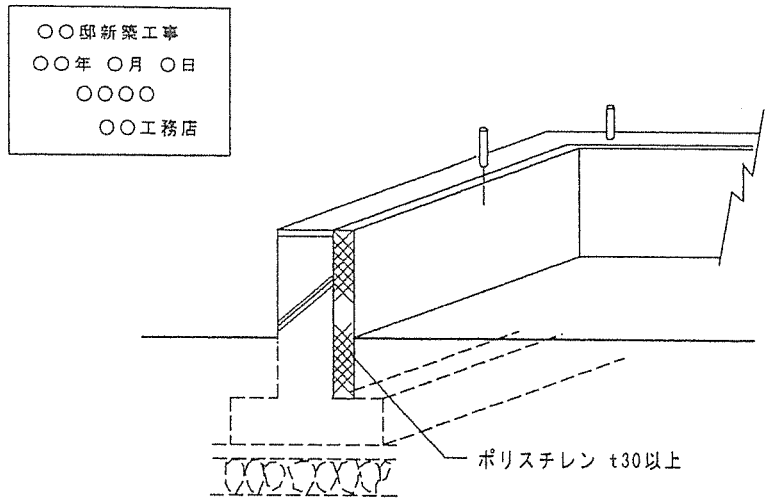
・勾配、水返しの確認
・金物設置状況の確認
・断熱仕様の換気口



工　程Ⅰ	基　　礎	Ⅰ－０９

断 熱 材

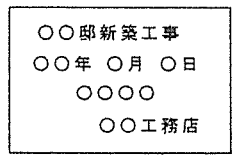
・施工状態の確認
・内断熱仕様



埋戻し、内部整地

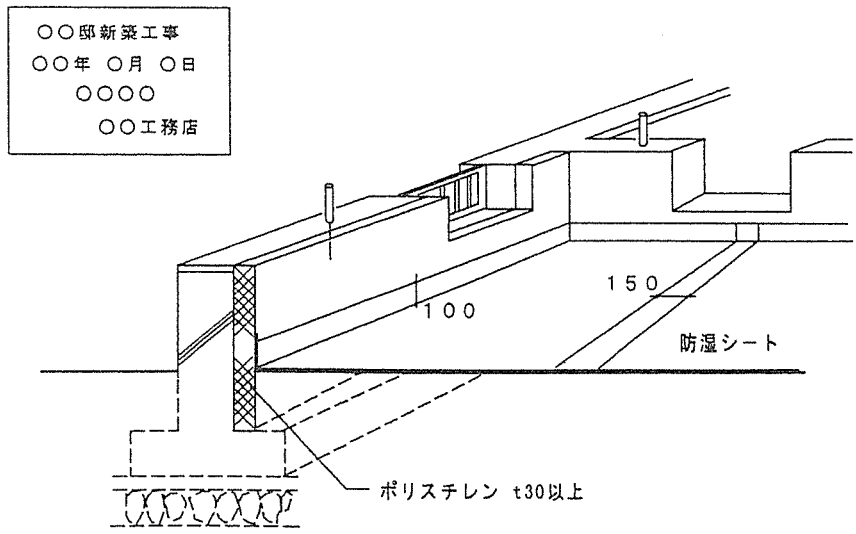
・埋戻し高さの確認
・残土処理の確認
・転圧の状況確認

全　景



防湿シート

・立上り　　100㎜以上
・重ね幅　　150㎜以上



工　程Ⅰ	基　　礎	Ⅰ－１０

基 礎 完 了

基礎完了時確認事項

・埋戻し高さと残土処理
・アンカーボルトの位置確認
・床下配管の位置、管径
・残材の撤去確認

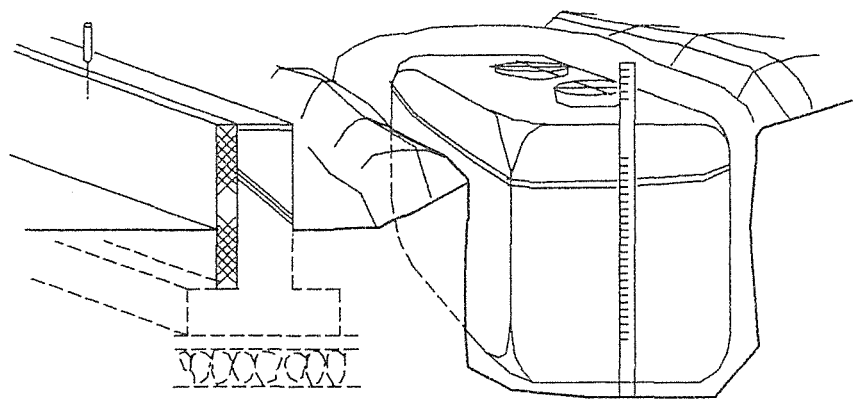
全　景

○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

浄化槽設置

・設置位置、高さの確認
・機種、容量等の確認
・境界、建物のはなれ確認
・荷重の受けない位置に設置

○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店



工　程Ⅰ	基　　礎	Ⅰ－１１

コンクリート納品書添付
（土　間）のりしろ
（布基礎）のりしろ
（ベース）のりしろ

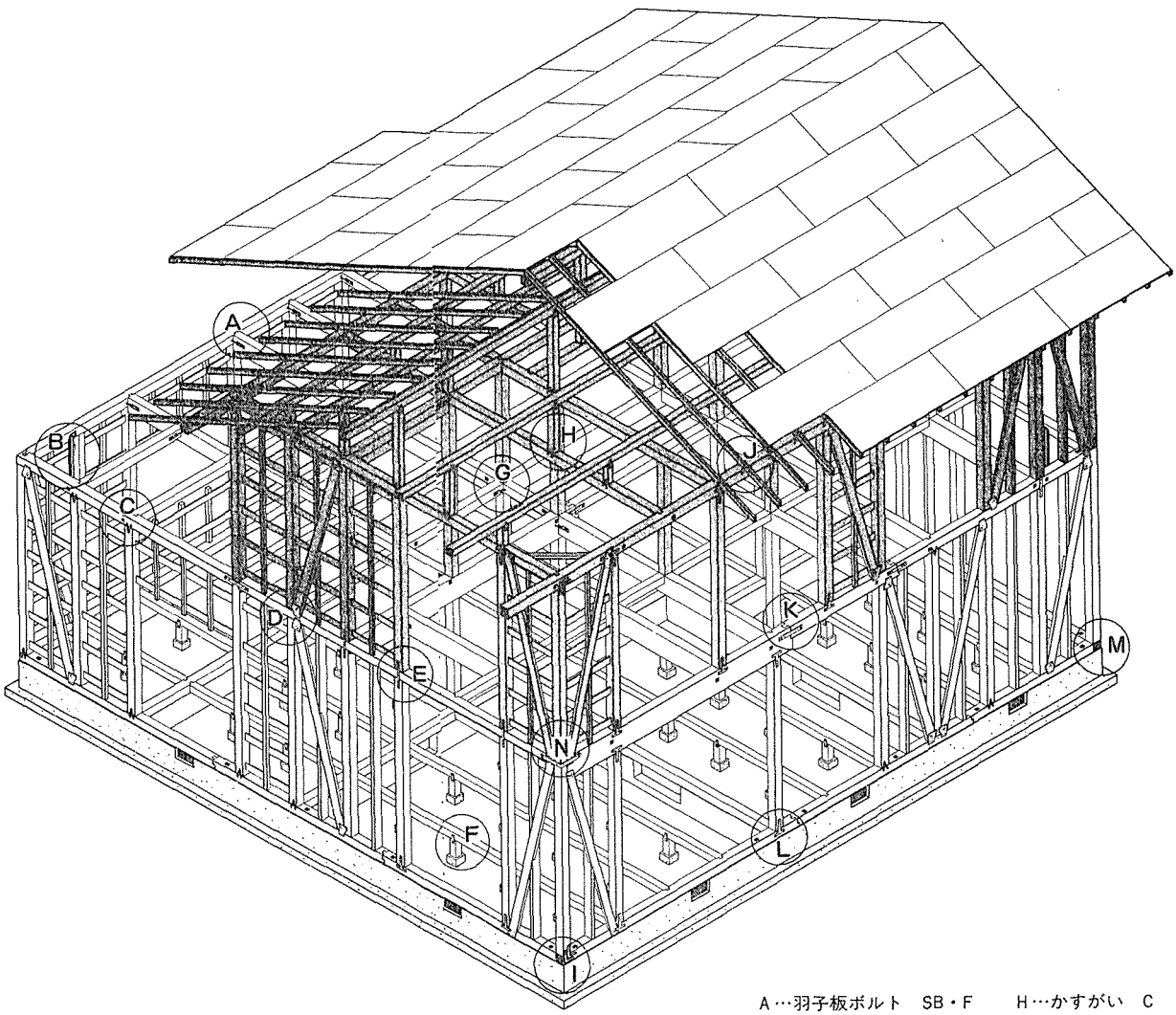
＊ＪＩＳ認定工場より出荷のコンクリートを使用する。

工　程Ⅰ	基　　礎	Ⅰ－１２
	予 備 写 真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	予 備 写 真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	予 備 写 真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	

工　程Ⅰ	基　　礎	Ⅰ－13
	予備写真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	予備写真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	予備写真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	

【 標準工程 ／ 検査項目 （2） 】

工事種別	工程 Ⅱ	確認・検査項目
木工事（軸組）	外壁 土台敷　上棟　床組　金物取付　屋根下地　サッシ付 筋違い 外部足場掛 外部雑造作	・構造材の確認　Ⅱ－０１ ・金物等の確認　Ⅱ－０２ ・ｸﾚｰﾝの位置確認　Ⅱ－０２ ・建て方安全対策　Ⅱ－０２
屋根工事 下地	屋根下葺き	・ルーフィング重ね代確認 ・板金の重ね、立上り寸法確認 ・防水テープの確認
外装工事 下地	間柱 構造用合板	・通気水切り、金物の確認
断熱気密工事	外壁断熱 床断熱	・通気胴縁の隙間の確認
防腐防蟻工事	防腐防蟻処理	



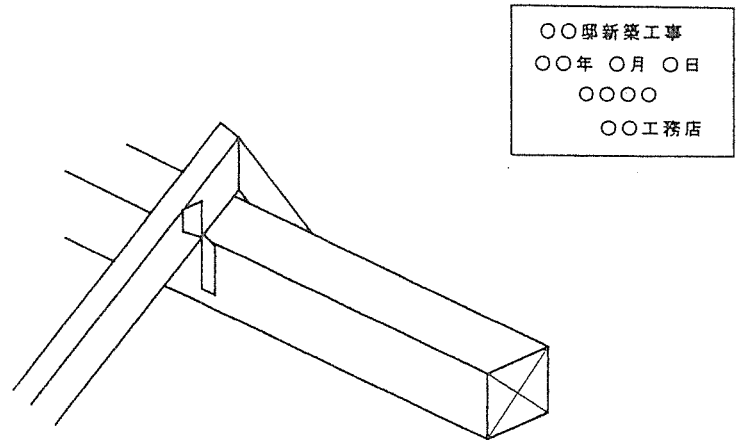
A…羽子板ボルト　SB・F
B…火打金物　HB
C…山形プレート　VP
D…筋かいプレート　BP
E…ひら金物　SM-40
F…ひら金物　SM-12
G…羽子板ボルト　SB・E
H…かすがい　C
I…かど金物　CP・L
J…くら金物　SS
K…短ざく金物　S
L…かど金物　CP・T
M…アンカーボルト　A
N…かね折り金物　SA

工　程Ⅱ	木　工　事（軸　組）	Ⅱ－０１
搬入材料の養生 ・材料は、建方の順に作業に支障のない場所に置く。	現場納材の全景 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
搬入材の数量確認	プレカット材納品書 別紙へ添付すること。	
土台敷き完了 ・土台の通り、継ぎ手、ボルトの位置確認	全　景 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	

工　程Ⅱ	木工事（軸組）	Ⅱ－０２

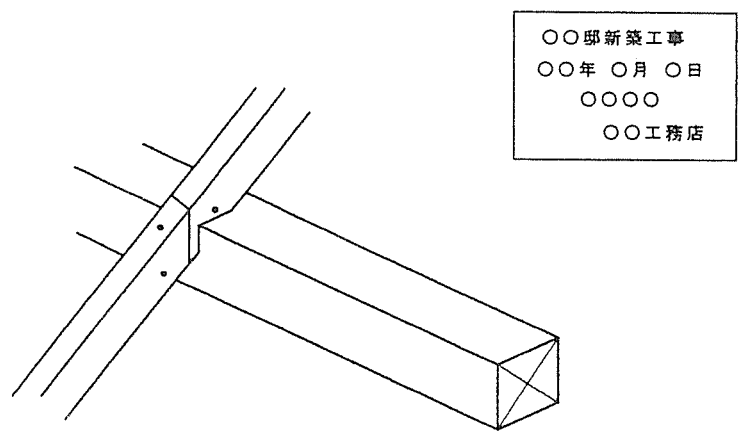
棟 木ー たる木

・ひねり金物ST-12、同等認定品
・太め釘：ZN40 － 6本



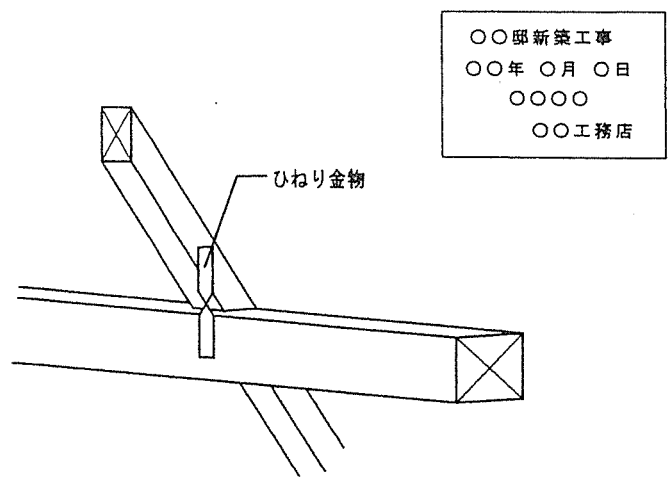
母 屋ーたる木　（タル木継ぎ手）

・垂木の釘打ちーN75-2本
　（両側から斜め打ち）
・垂木の継ぎ手ー母屋下50mm程度の位置でそぎ継ぎ（釘：N75-2本）
　継ぎ手位置は、乱に割りつける。



母 屋ーたる木　（ひねり金物）

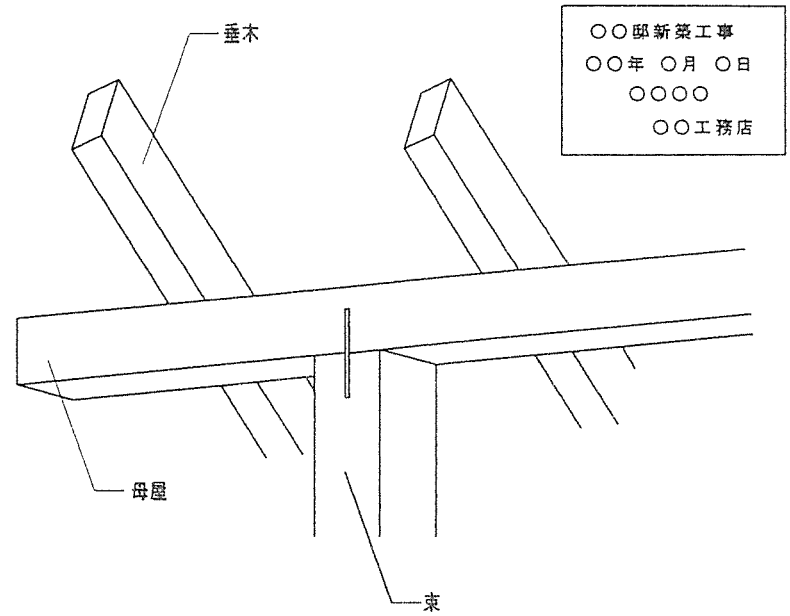
・ひねり金物ー ST-9,12,15
・太め釘：ZN40 － 4本(ST-9,12)
・太め釘：ZN40 － 6本(ST-15)



工　程Ⅱ	木工事（軸組）	Ⅱ－０３

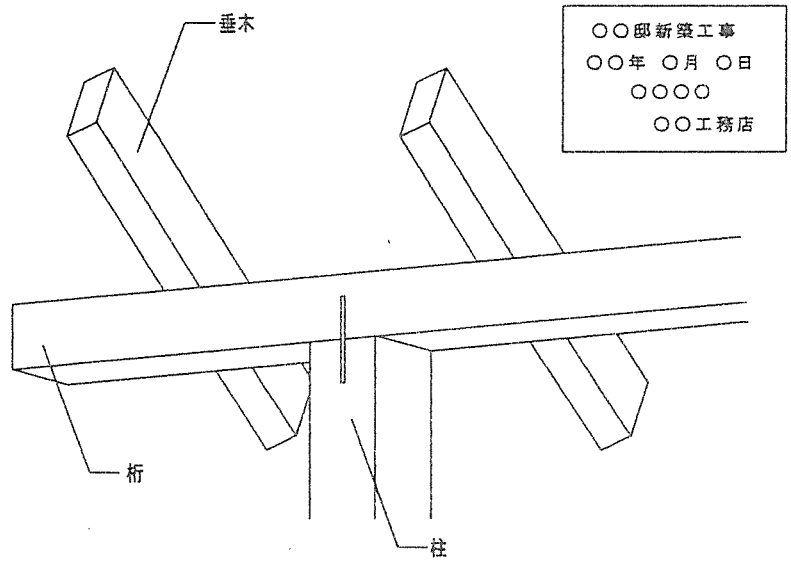
母 屋－ 小屋束

・かすがいＣ（同等認定品）を母屋と垂木の勾配の上の部分（棟側）に取り付ける。



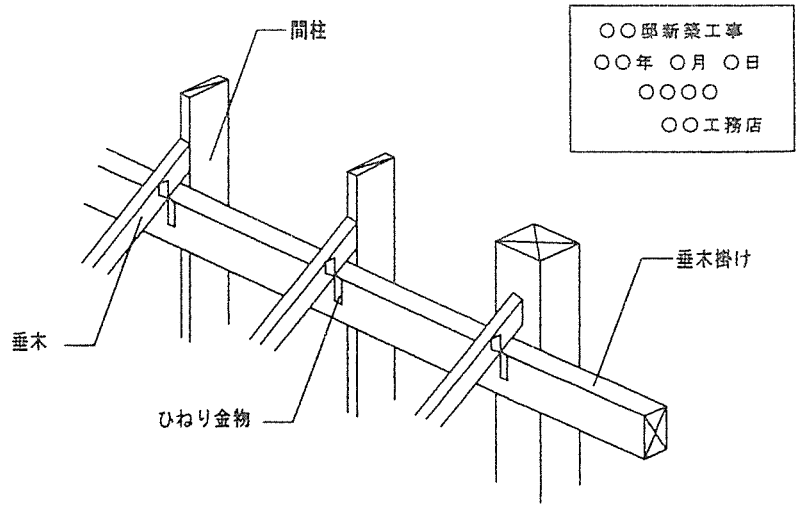
桁　－ たる木

・かすがいＣ（同等認定品）を桁 と垂木の勾配の上の部分（棟側）に取り付ける。



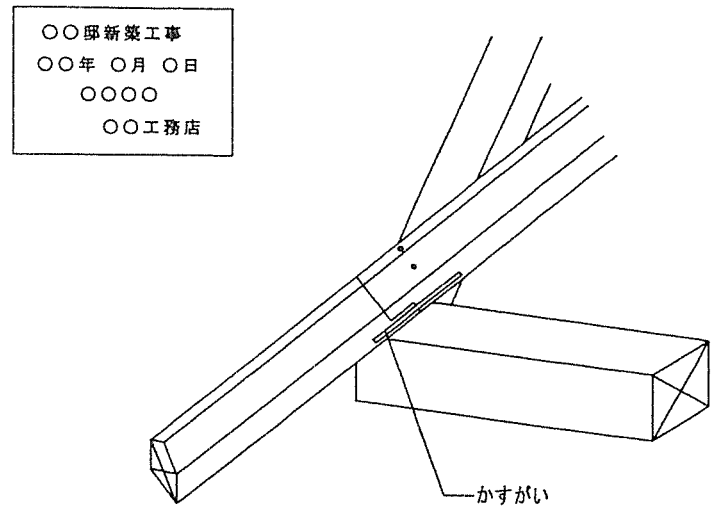
下 屋（たる木～たる木受け）

・桁方向の全ての垂木にひねり金物ねST-12同等品を、ZN40-6本



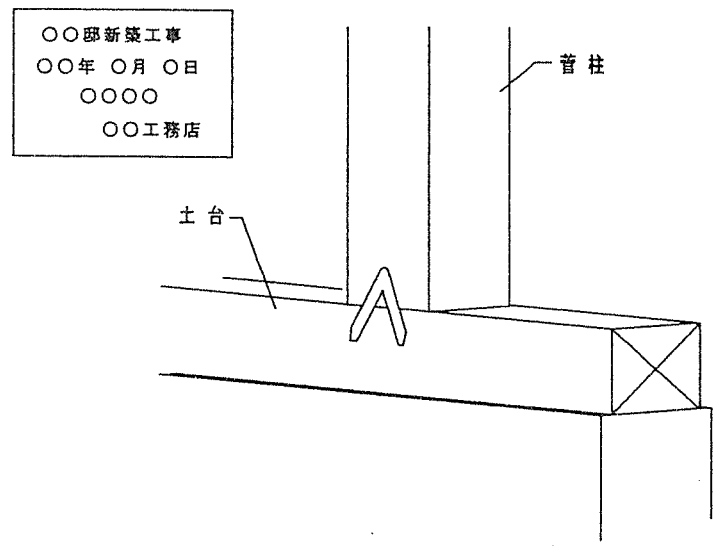
隅木、谷木の継手

・母屋上50㎜程度のところで
　ＺＮ90-2本打ち



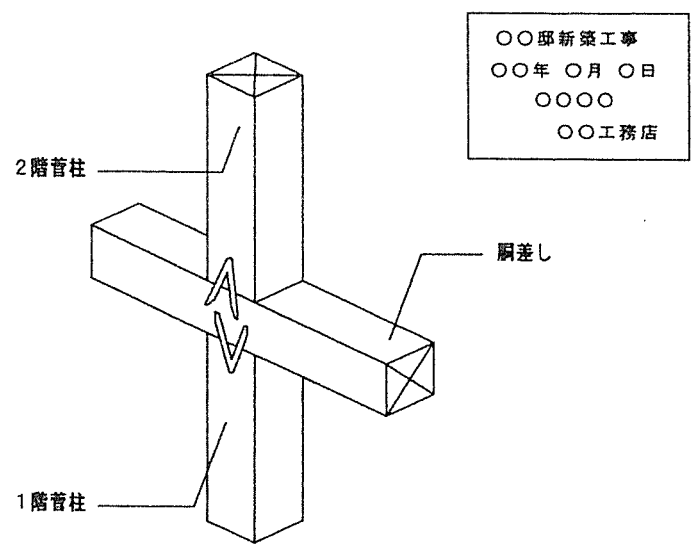
外部管柱ー土 台

・かど金物 ＶＰ、
　　釘 ZN65 － 2本打ち



外部管柱ー胴 差

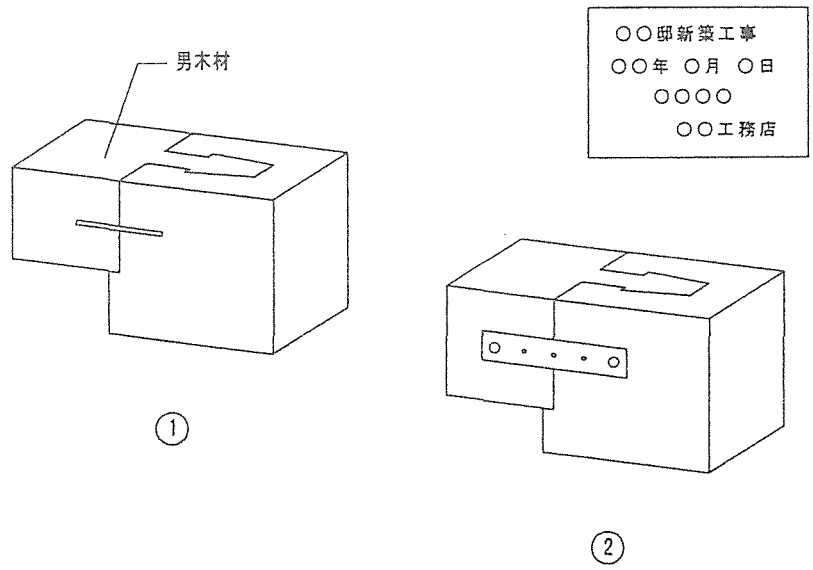
・１階管柱を、かど金物 ＶＰ、
　釘 ZN65 － 10本打ち
・2階管柱を、山形ﾌﾟﾚｰﾄ ＶＰ、
　釘 ZN90 － 8本打ち（山の部分
　を柱側にして取り付ける）



工　程Ⅱ	木工事（軸組）	Ⅱ－０５

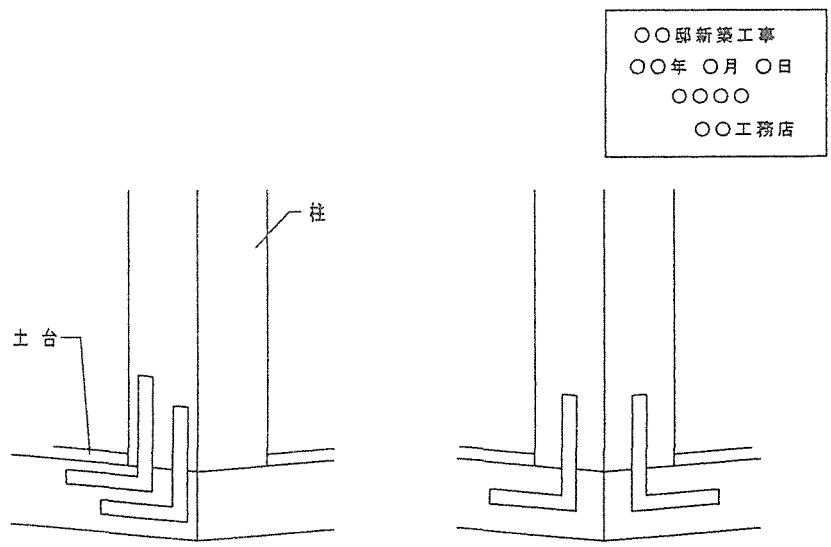
胴差、桁、梁の継手

・男木材の高さが１５０未満の場合、　かすがいC
・男木材の高さが１５０以上の場合、　短冊金物を
六角ﾎﾞﾙﾄ、ﾅｯﾄ：M12、M12各2個
スクリュー釘：ZS50　－　3本x2



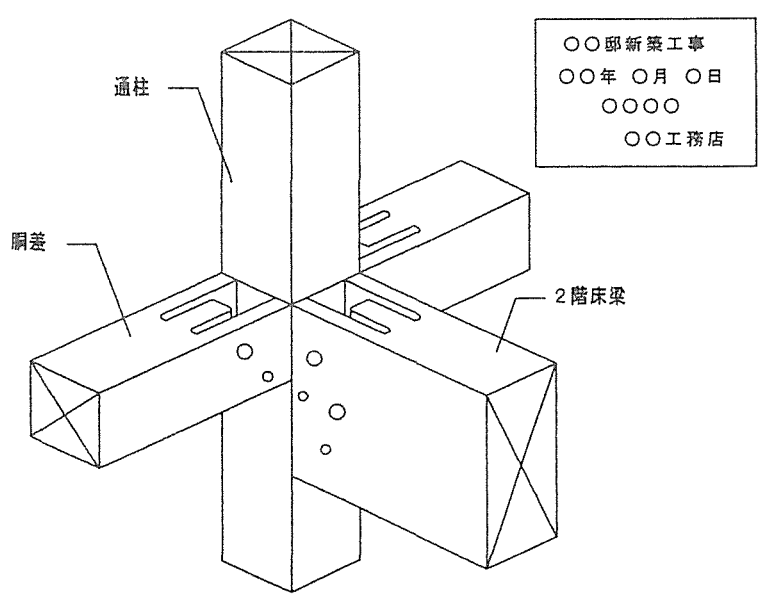
外部隅柱ー土　台

・隅柱に、かど金物ＣＰ、Ｌを取り付ける場合には、２枚使用する
- 同じ面に２枚の場合
- 柱の両側に１枚ずつの場合



外部通し柱ー梁、胴差し

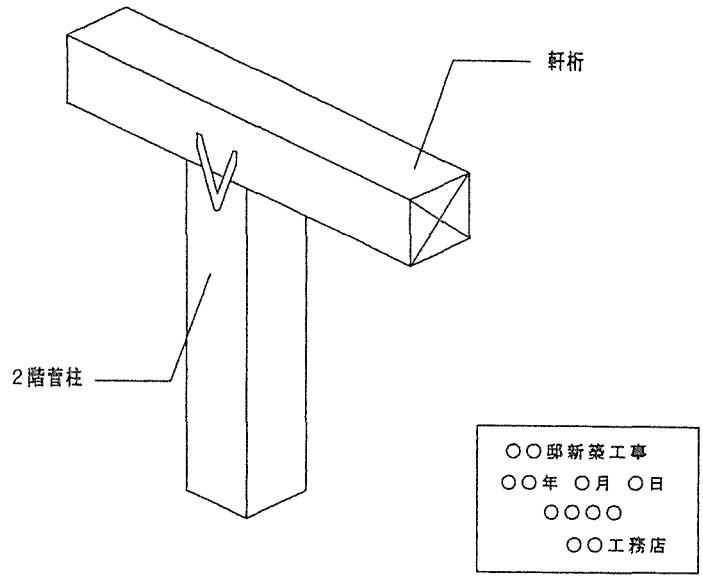
・接合金物（クレテック）使用



工　程Ⅱ	木工事（軸組）	Ⅱ－０６

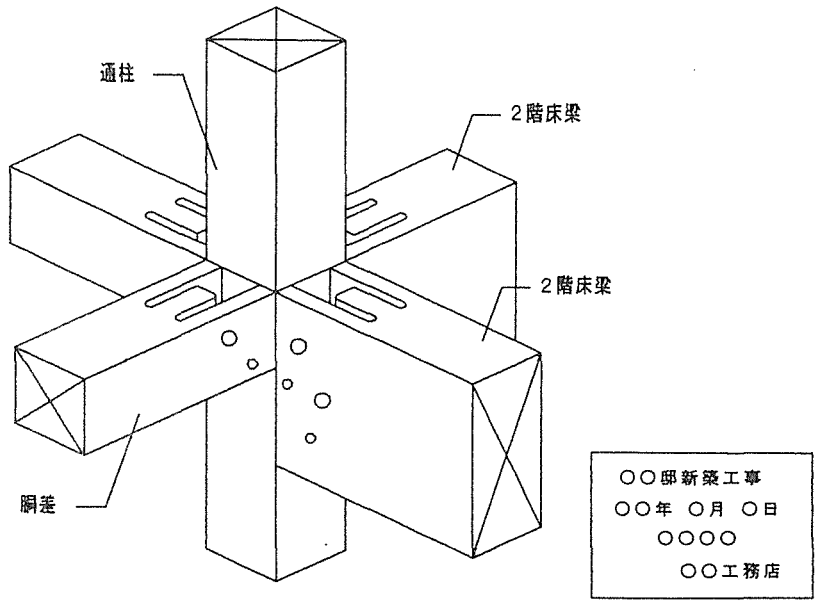
外部通柱－ 桁

・山形プレート ＶＰ
　太め釘：ZN90 － 8本



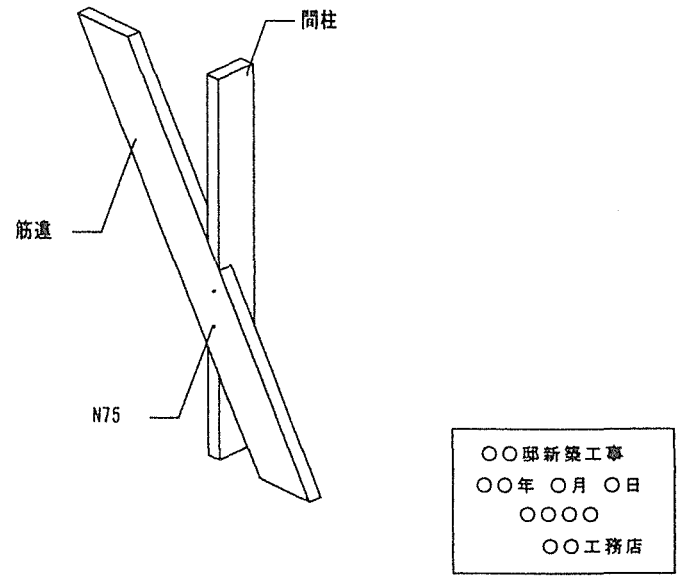
内部通柱－梁、胴差し

・接合金物（クレテック）使用



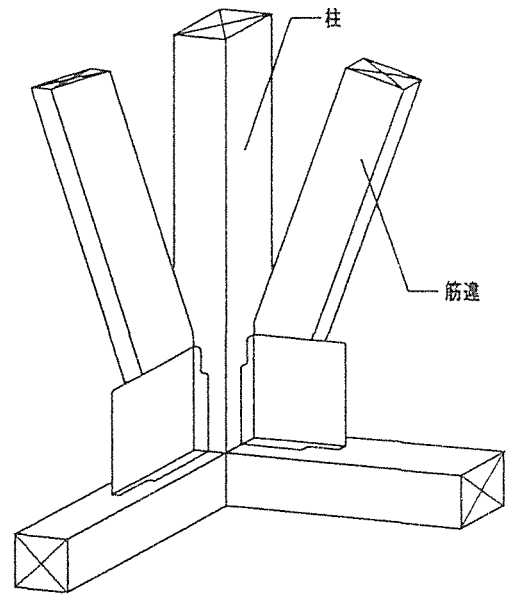
筋違い－間 柱

・クギ、N75-2本打ち
　筋違いが当たる部分は、間柱の方を欠き込む。



筋違い端部－ 大 壁

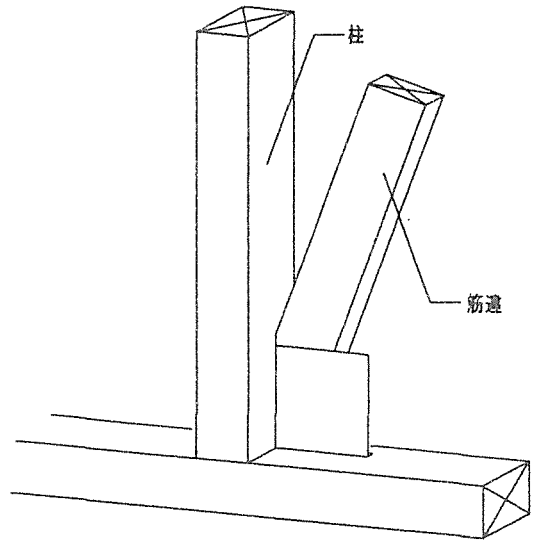
・筋違いプレート ＢＰ－２
　同等認定品（ボックス型）
・スクリュー釘：ZS50-8本
　（柱、横架材用）
・スクリュー釘：TS45-7本
　（筋違い用）



○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

筋違い端部－ 真 壁

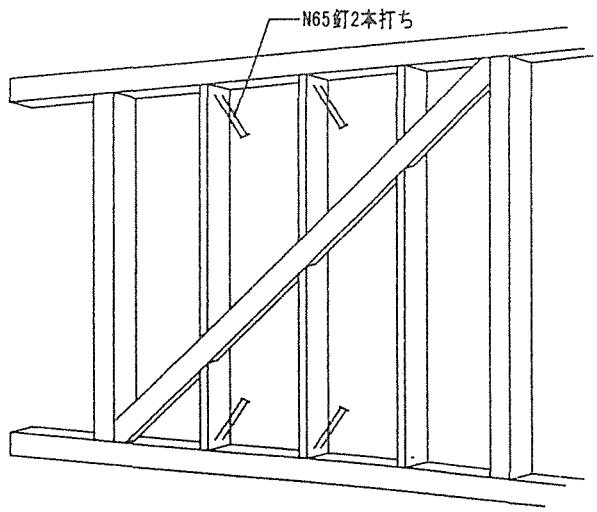
・筋違いプレート ＢＰ－２
　同等認定品（ボックス型）
・スクリュー釘：ZS50-8本
　（柱、横架材用）
・スクリュー釘：TS45-7本
　（筋違い用）
筋違いプレートのボックス
内部側に、筋違いをおさめる



○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

間 柱 端 部

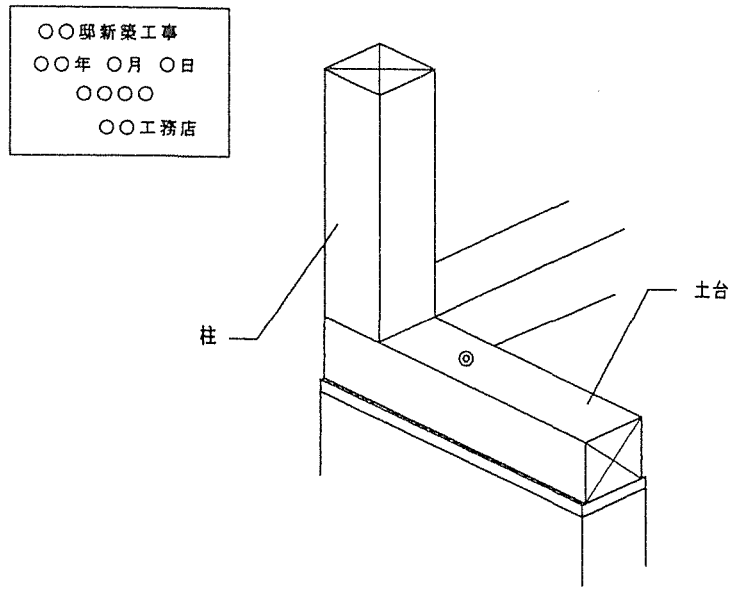
・上部、下部ともに N65-2本打ち



○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

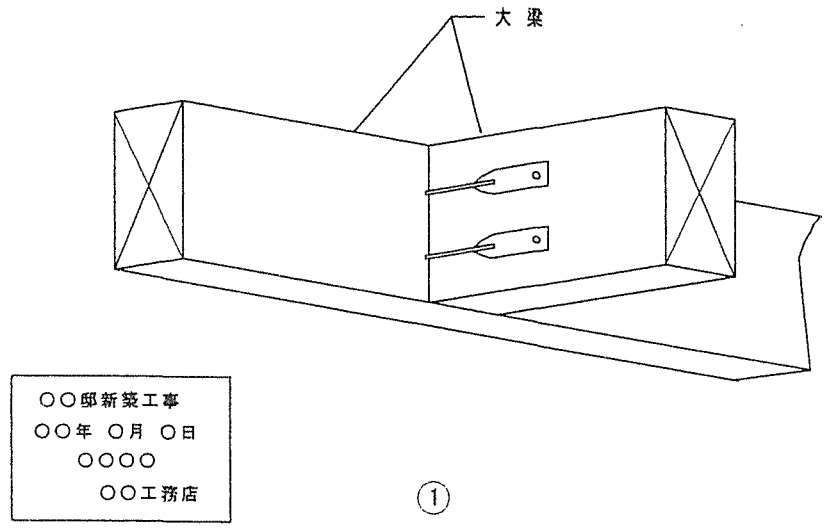
基 礎ー土 台

・土台緊結用アンカーボルトのボルト頭を出さない座金
　角座金W4.5x40同等認定品
アンカーボルト @2,000以内



大 梁ー 大 梁、胴差し

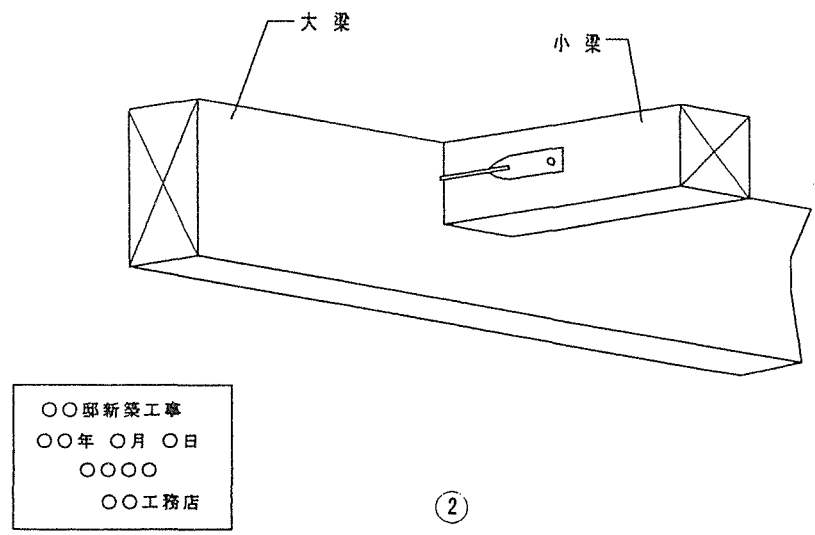
・胴差し等のせい：270mm以上の場合、２本使用する。



大 梁ー小 梁、根太、桁、胴差

・胴差等のせい：270mm未満
・羽子板ボルトＳＢ・Ｆ
（梁）六角ナット：M21-1個
　　角座金：W4.5x40-1枚
（梁）六角ナット：M12・M12-各1個
　　角座金：W4.5x40-1枚
スクリュー釘（仮留用）：ZS50-1本

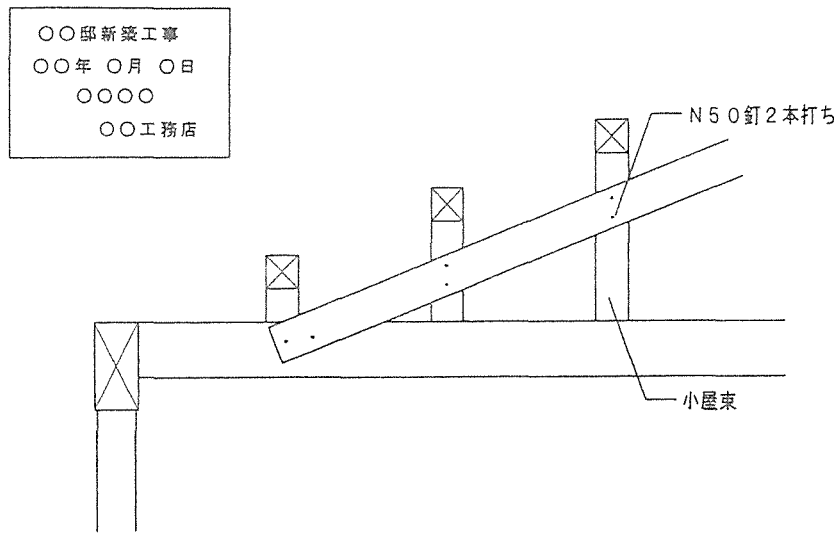
浮く恐れのある場合は、羽子板ボルトSB・Eを使用する。



小屋束－梁間筋かい

・各束の頂点から、1/3程度下の位置に垂木と同じ勾配に取り付ける

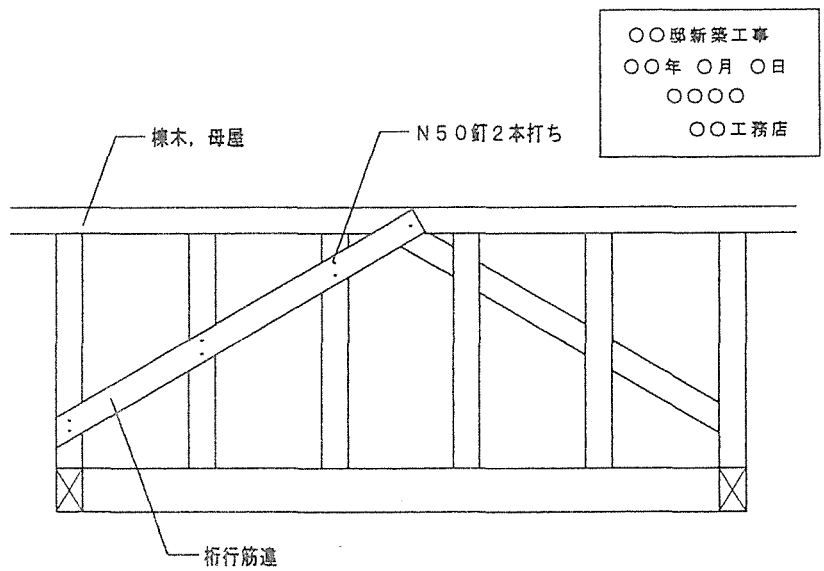
くぎ：N50-2本打ち



小屋束－桁行筋かい

・棟長、母屋長とも、１間を超える部分に設ける。

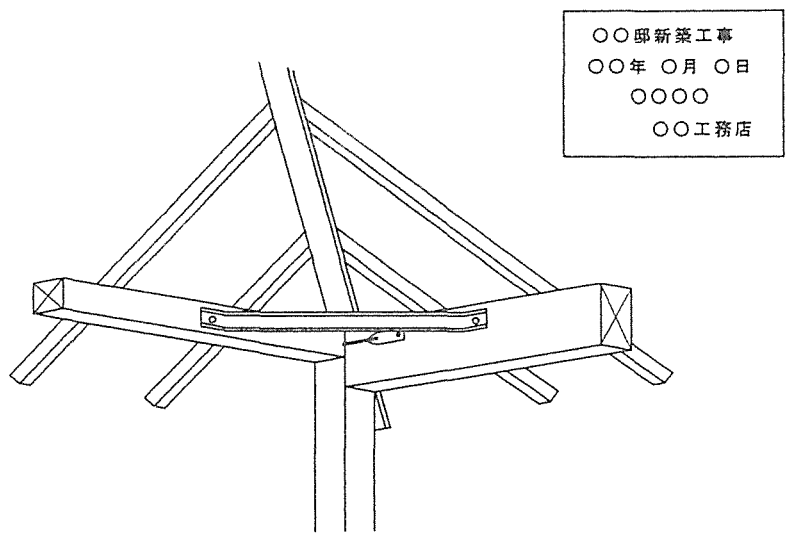
くぎ：N50-2本打ち



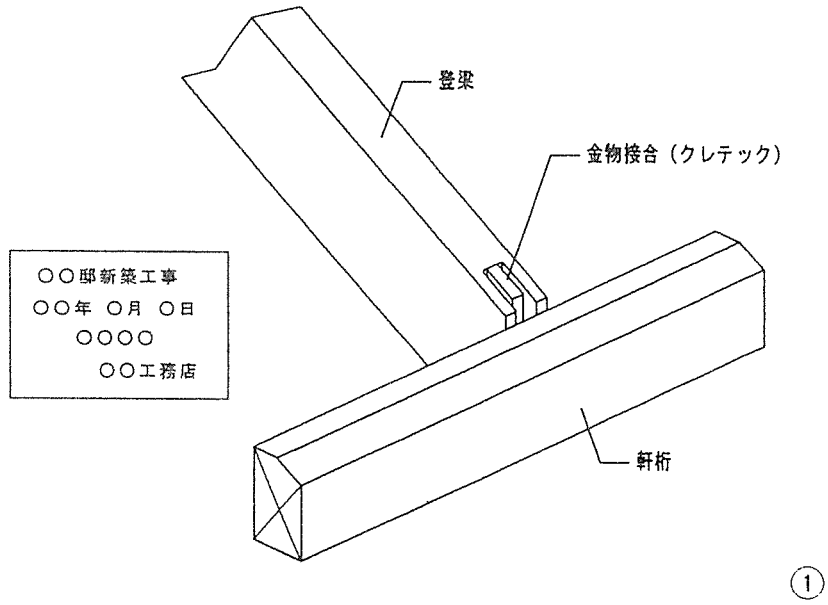
火打ち（小屋のみ）

・火打ち金物 ＨＢ

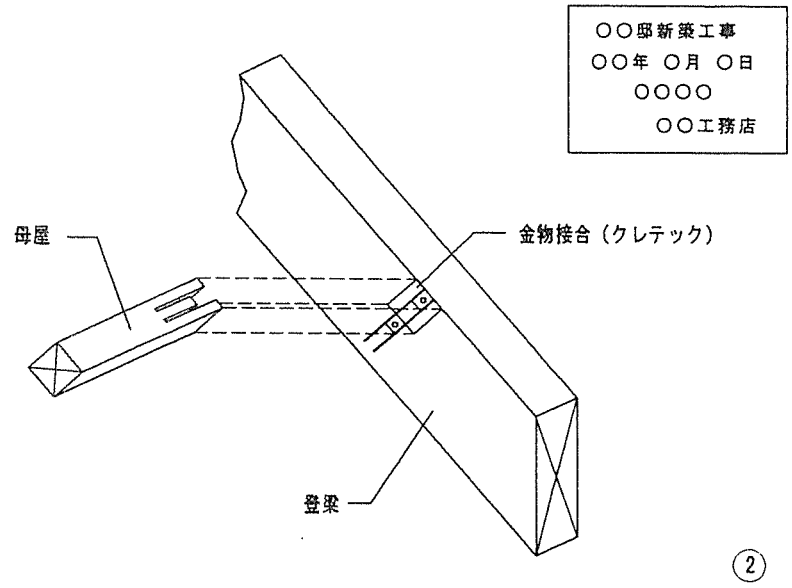
六角ボルト・ナット：M12・M12-各2個
角座金：W4.5x40-2枚
小型角座金：W2.3x30-2枚
平くぎ：ZF55-6本



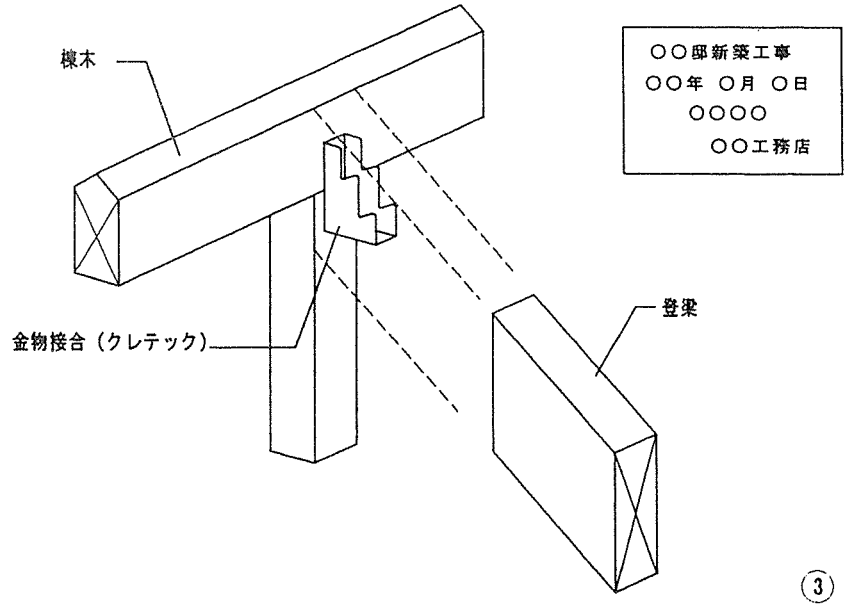
登り梁ー桁
・クレテック金物



登り梁ー母屋
・クレテック金物



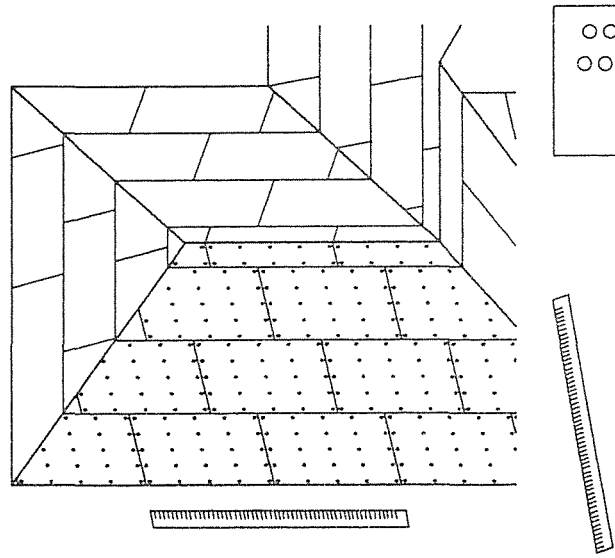
登り梁ー棟
・クレテック金物



工　程Ⅱ	木工事（軸組）	Ⅱ－１１

野地板釘打ち

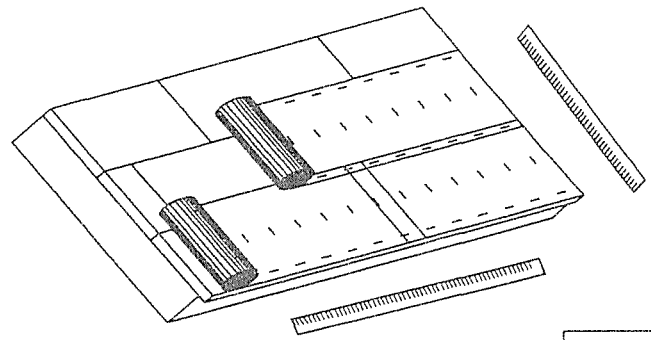
・合板相互は、千鳥に割付ける
・野地板の釘打ち、N50 - 150間隔



○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

防水重ね代、留付け

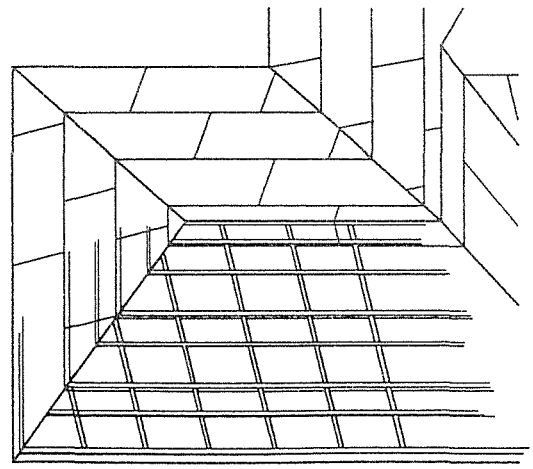
・ルーフィングの重ね：横－200mm以上
・ルーフィングの重ね：縦－200mm以上
・タッカー　　300mm以上



○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

瓦桟取付け

・瓦桟下スペーサー
厚 3～5×40mm、@455mm（垂木間隔）
タッカー釘打ち
・瓦 桟－－15×15～18mm
・瓦 桟－－24×30mm

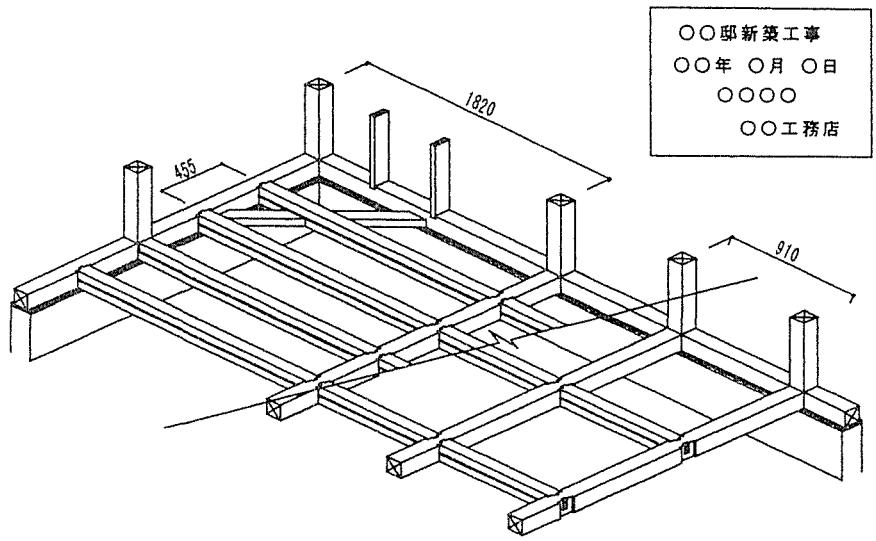


○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

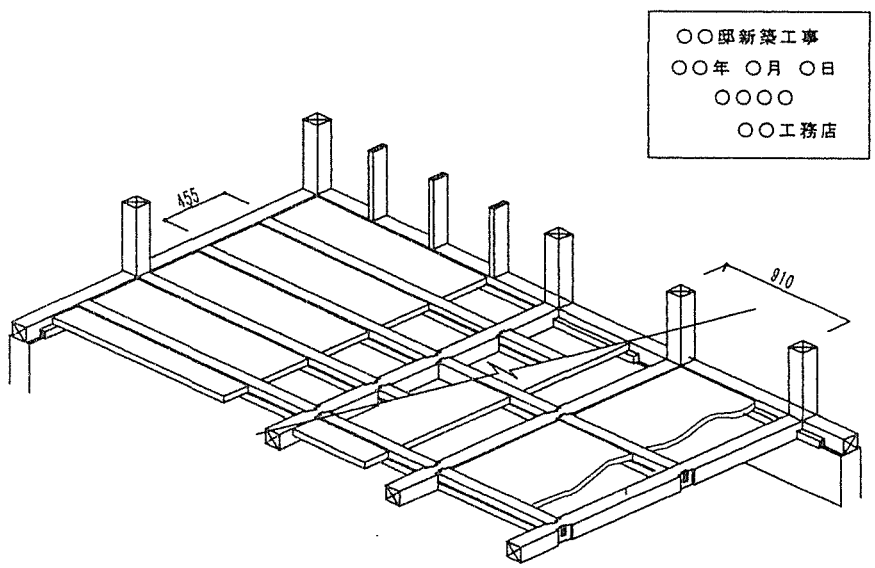
工　程Ⅱ	木工事（軸組）	Ⅱ－１２

土 台ー大 引ー根太

・土 台　105×105mm
・大 引　105×105mm
・根 太　105×105mm



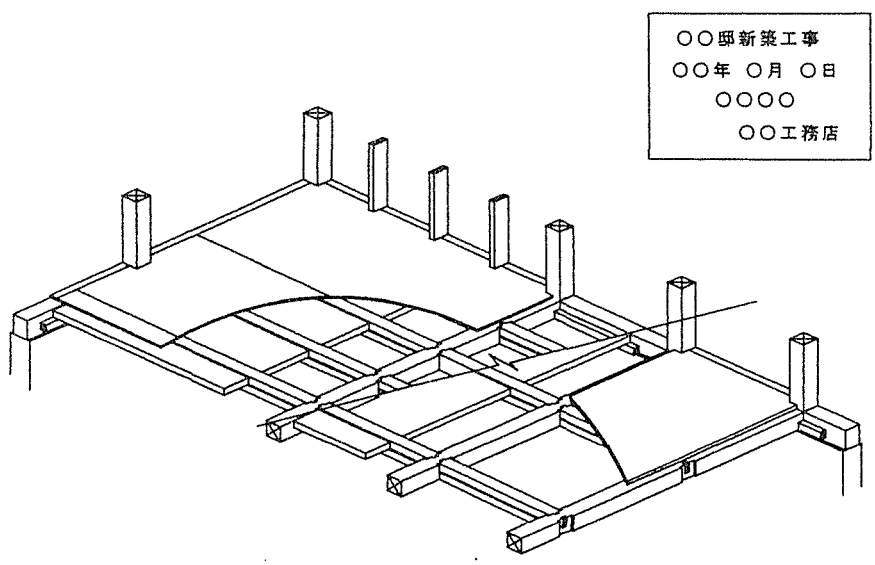
１階床断熱材敷込み



１階床合板釘打ち

・床根太間隔910～1,000mmの場合
　床合板 厚さ28mm
　釘ーーN75　150mm間隔

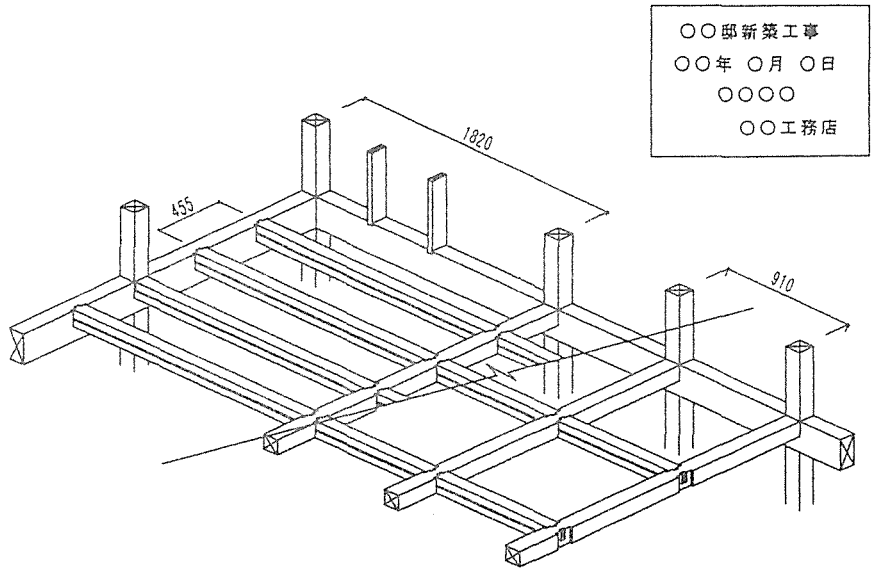
・床根太間隔455～500mmの場合
　床合板 厚さ12.5mm
　釘ーーN50　150mm間隔



２ 階 床 組

・胴 差、梁－－図面と照合
・根 太　105×105mm

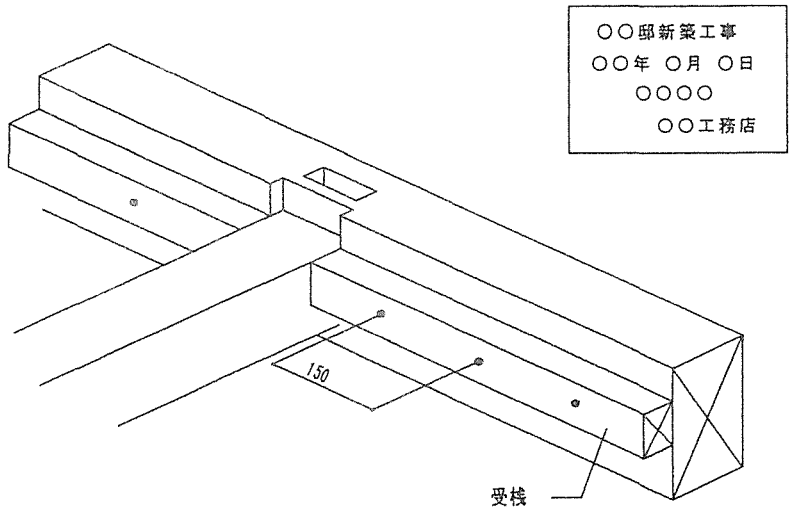
右記の状態で撮影できない場合は、１階見上げとする。



２階床合板釘打ち

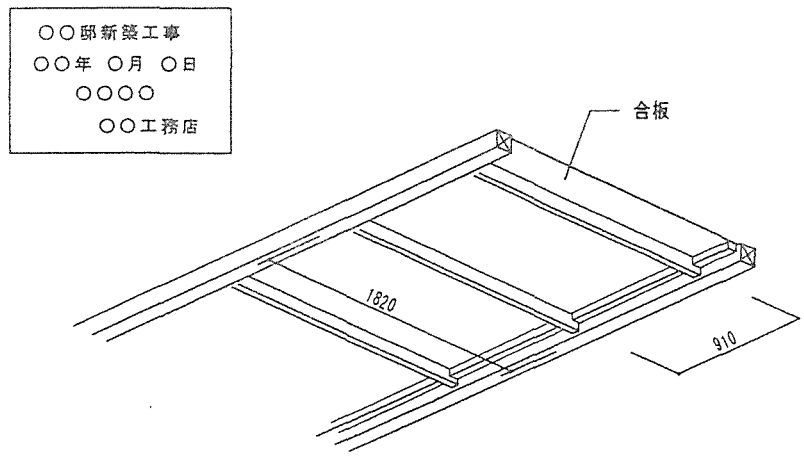
・床根太間隔910～1,000mmの場合
　床合板 厚さ28mm
　釘－－N75　150mm間隔

・床根太間隔455～500mmの場合
　床合板 厚さ12.5mm
　釘－－N50　150mm間隔



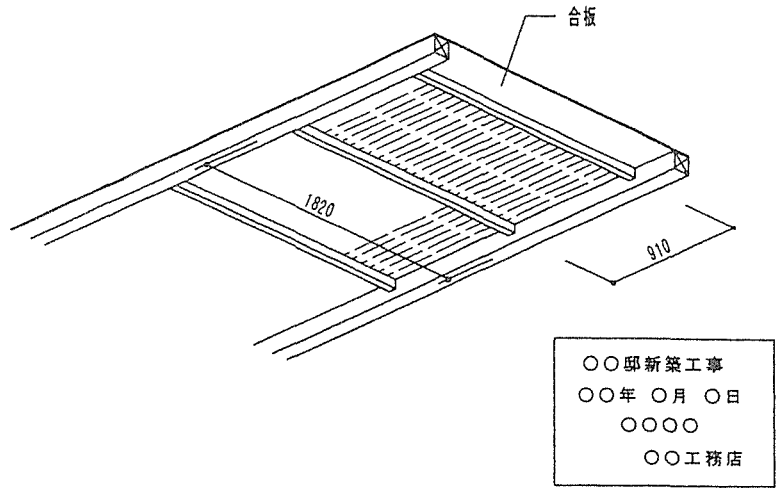
床の高さが異なる場合

・受 桟 45×60mm
　釘 N75 － 150mm間隔

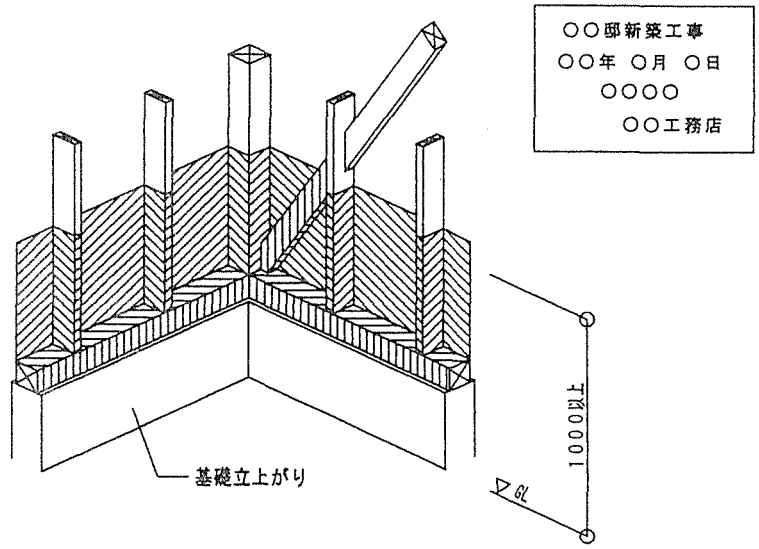


工　程Ⅱ	木工事（軸組）	Ⅱ－１４

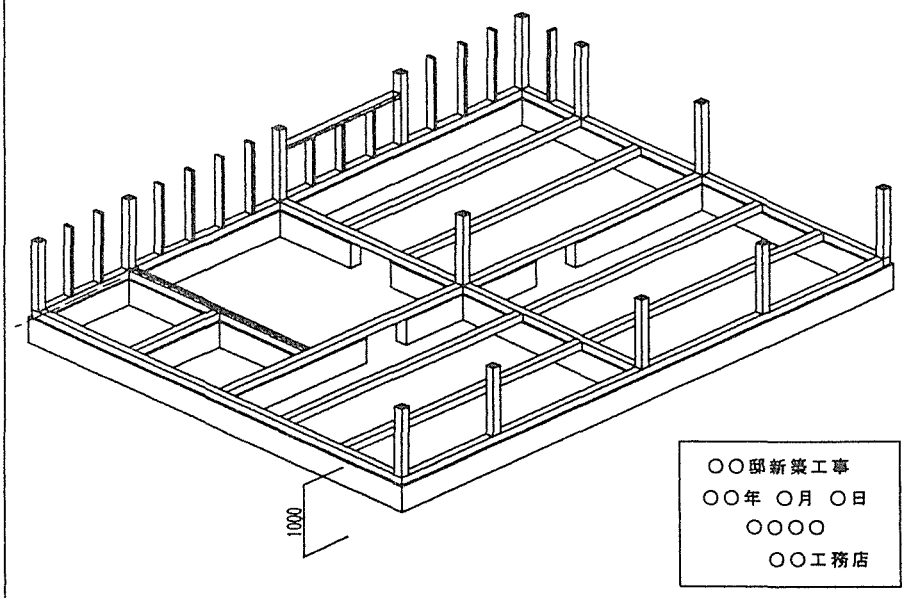
小屋断熱用下地
・構造用合板隔　　９㎜



防腐処理（高さ、範囲）
・ＧＬより、1,000㎜以上の
　木部に塗布処理
・欠込み部分にも塗布処理をする



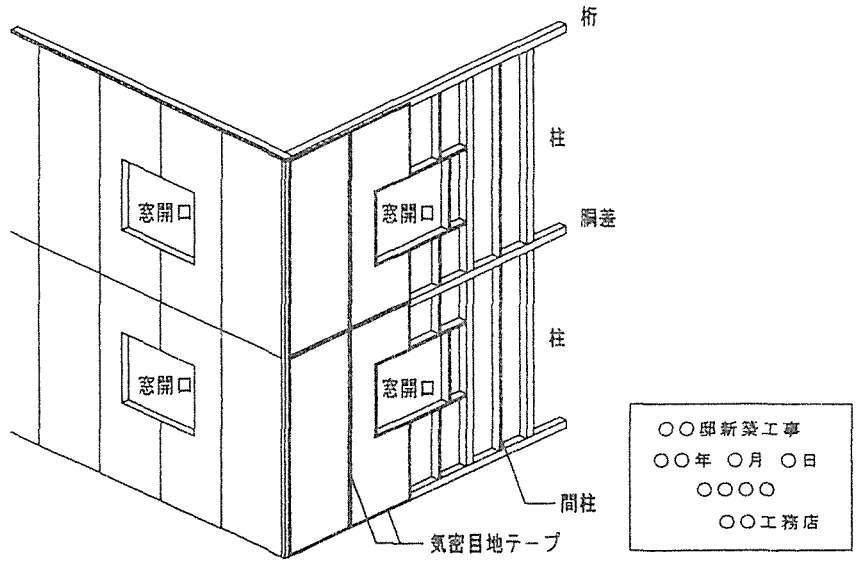
防腐処理（全景）



工　程Ⅱ	木工事（軸組）	Ⅱ－１５

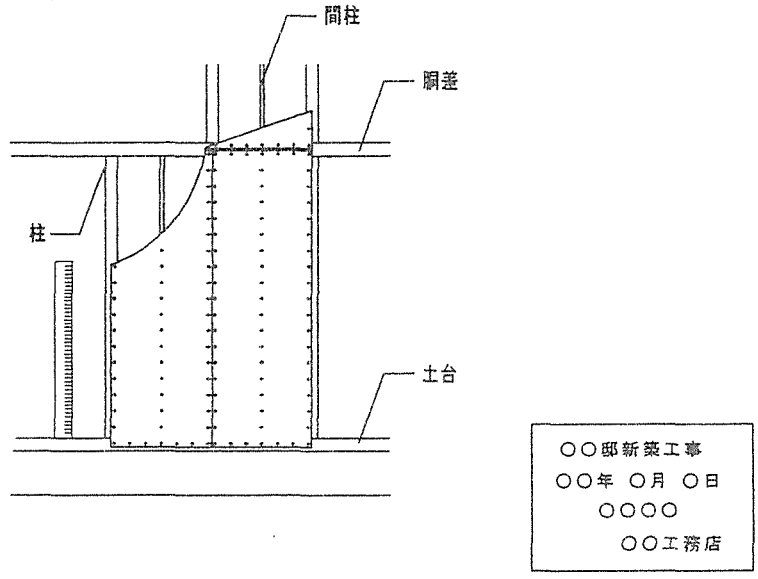
構造用面材割付け

・合板基本サイズ　3×8、9、10
　板をたて張りとする



構造用面材釘打ち

・ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ　厚さ　12.0mm以上
　　釘　N50　－　150mm間隔以内



工　程Ⅱ	木工事（軸組）	Ⅱ－１６

納品書添付
（土　間）のりしろ
（布基礎）のりしろ
（ベース）のりしろ

工　程Ⅱ	木工事（軸組）	Ⅱ－１７

予備写真

○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

予備写真

○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

予備写真

○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

工　程Ⅱ	木工事（軸組）	Ⅱ－１８

予備写真

○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

予備写真

○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

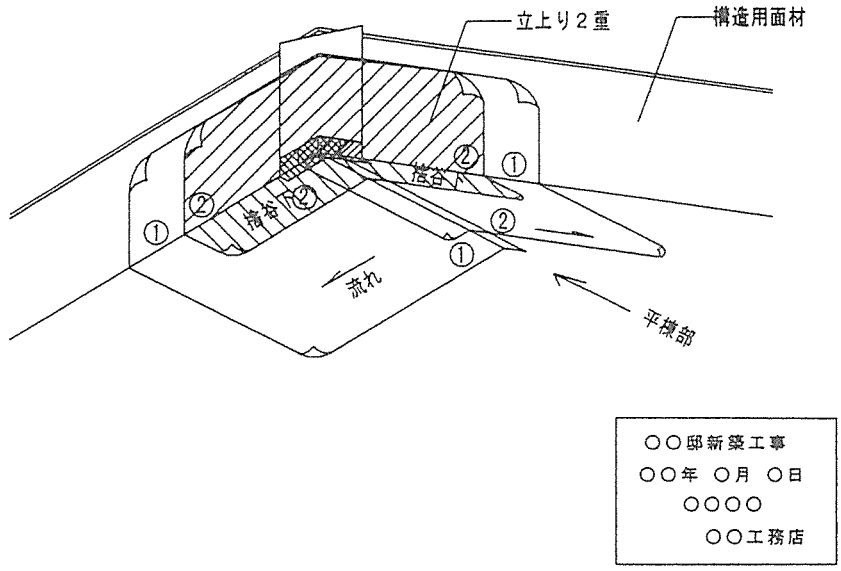
予備写真

○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

工　程Ⅱ	雨　仕　舞	Ⅲ－０１

雨仕舞い立上り部（下屋棟）

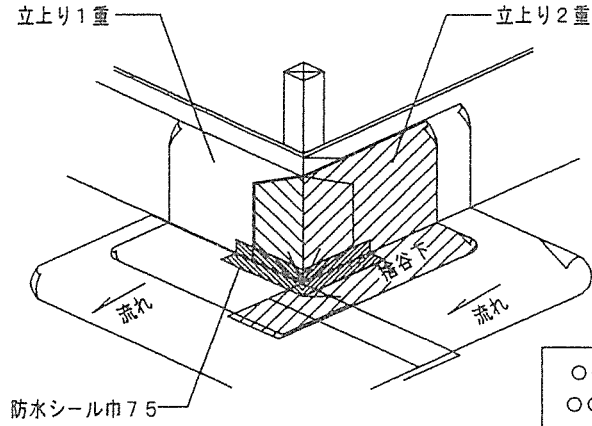
- 立上り寸法　300mm以上
- 捨谷下　150mm以上
- カサネ寸法　100mm以上
- 防水テープ　幅75mm



○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

雨仕舞い立上り部（下屋出隅）

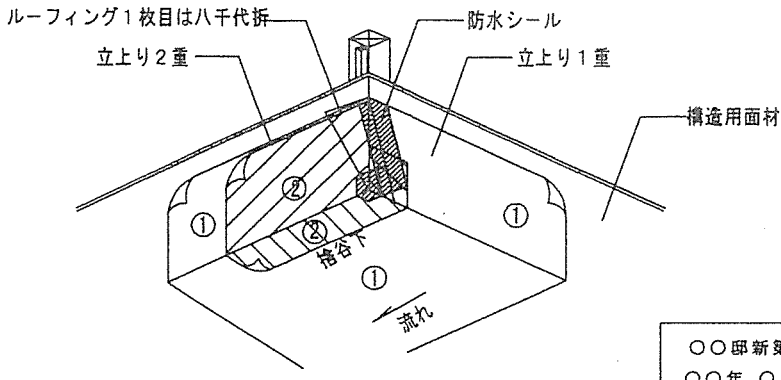
- 立上り寸法　300mm以上
- 捨谷下　150mm以上
- カサネ寸法　100mm以上
- 防水テープ　幅75mm



○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

雨仕舞い立上り部（入隅）

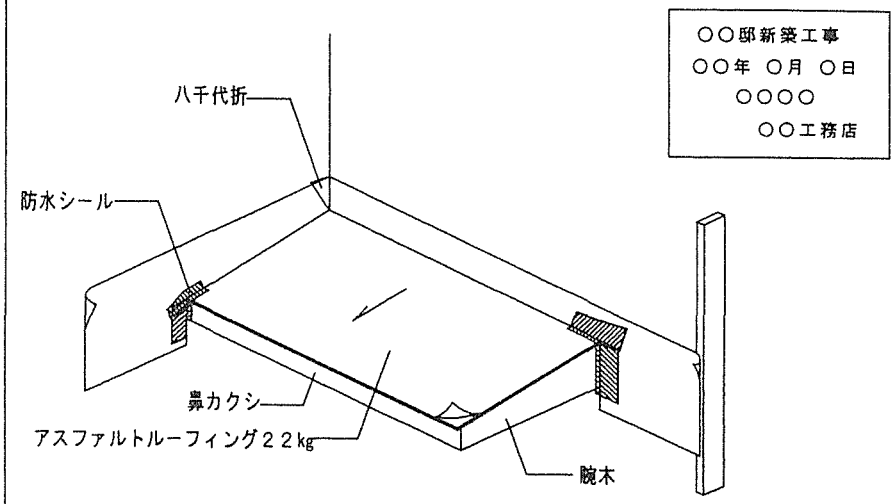
- 立上り寸法　300mm以上
- 捨谷下　150mm以上
- カサネ寸法　100mm以上
- 防水テープ　幅75mm



○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

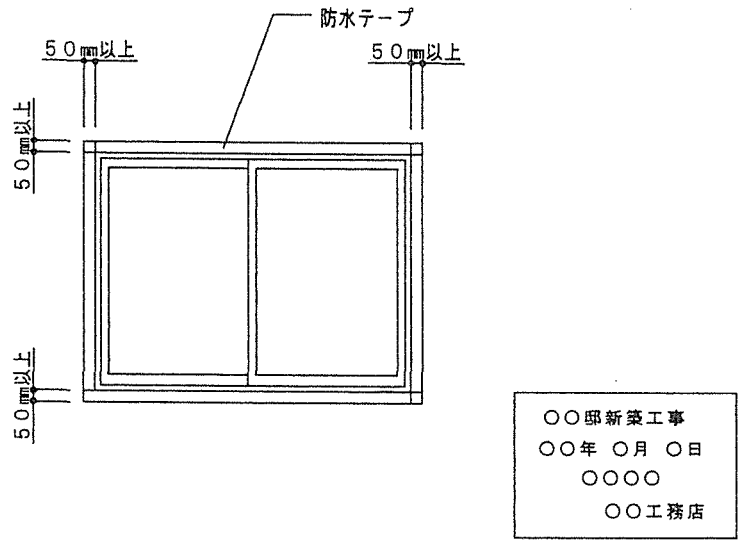
工　程Ⅱ	雨 仕 舞	Ⅲ－０２

庇



外部開口部防水処理

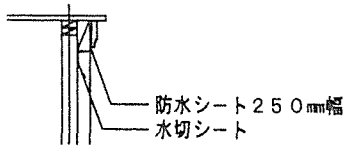
・防水テープを、サッシ及び枠材四周の水切りツバに貼り、その上に防水シートを貼る。



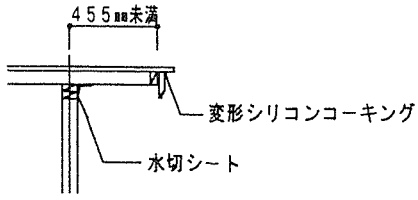
け ら ば

・野地の出寸法、 15mm
・けらば出が、450mm以下はマーキング
・軒の出のない場合は、水切りシート＋片面接着シート巾300mmの施工

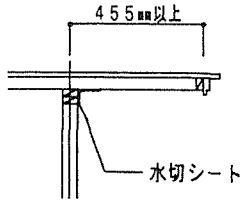
・ケラバの出のない場合



・ケラバの出４５０㎜未満の場合



・ケラバの出４５０㎜以上の場合

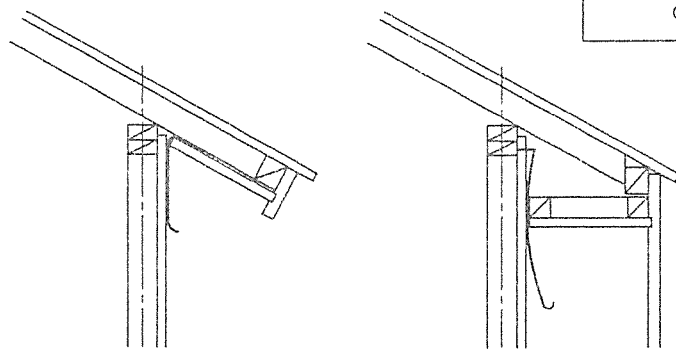


○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

軒　天

・水切りシート表が白
・下端タッカー止めしない

○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

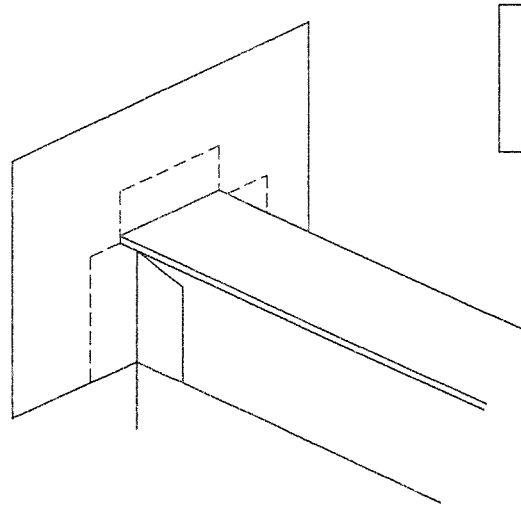


勾配軒裏の壁際防水　　水平軒裏の壁際防水

建築バルコニー
（壁－袖壁取合い部）

・先貼りﾌｪﾙﾄの施工
・壁取合い部の防水
・笠木取付下地合板の施工
・片面接着テープの施工

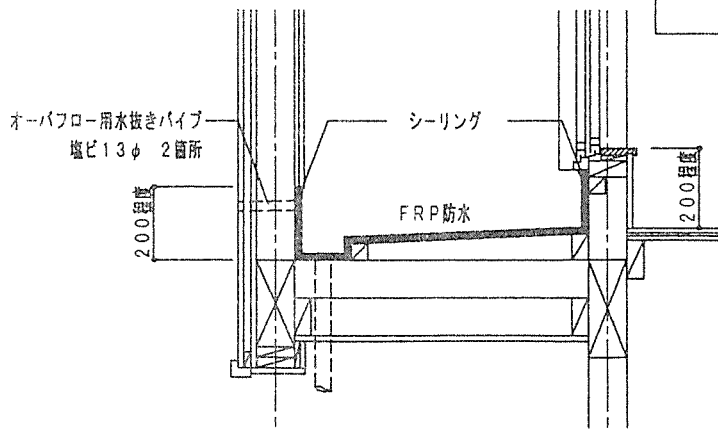
○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店



建築バルコニー
（床防水－立上り寸法、サッシ下端）

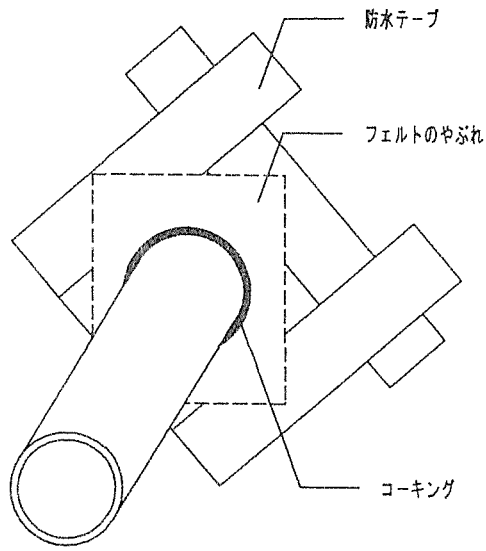
・防水立上り寸法 200mm以上
・ｵｰﾊﾞｰﾌﾛｰ用水抜きﾊﾟｲﾌﾟ
　塩ﾋ13φ 2個所

○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店



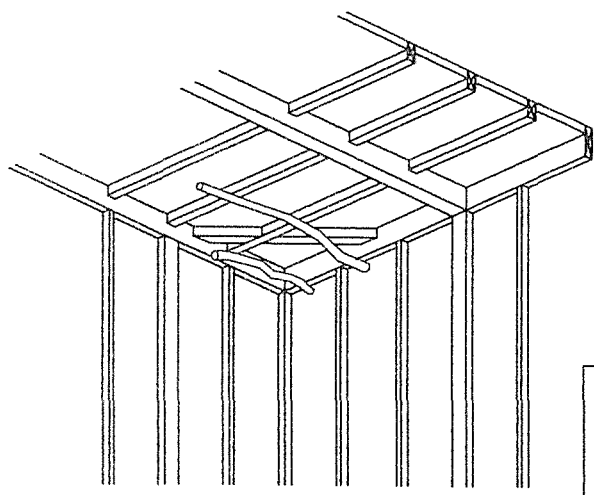
工　程Ⅱ	雨　仕　舞	Ⅲ－０４

外壁貫通部
・コーキングの施工
・外壁フェルトの納まり及び
　フェルト上からのコーキング



○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

ダクト配管状況
・吸気、排気の位置確認



○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

工　程Ⅱ	雨仕舞	Ⅲ－05
	予備写真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	予備写真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	予備写真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	

工　程Ⅱ	雨 仕 舞	Ⅲ－０６
	予 備 写 真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	予 備 写 真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	予 備 写 真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	

工　程Ⅱ	断　熱	Ⅳ－０１

１階床及び基礎断熱

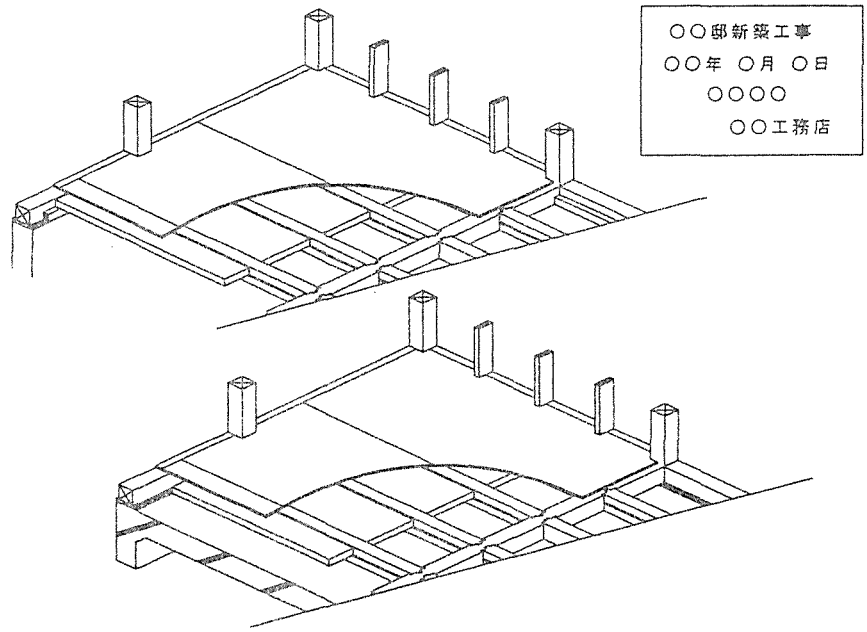
（Aﾀｲﾌﾟ）

・布基礎立上りの内側に、ボード状断熱材厚30mmを貼る。

・１階床の断熱、気密は、ボード状断熱材厚55mmを貼る。

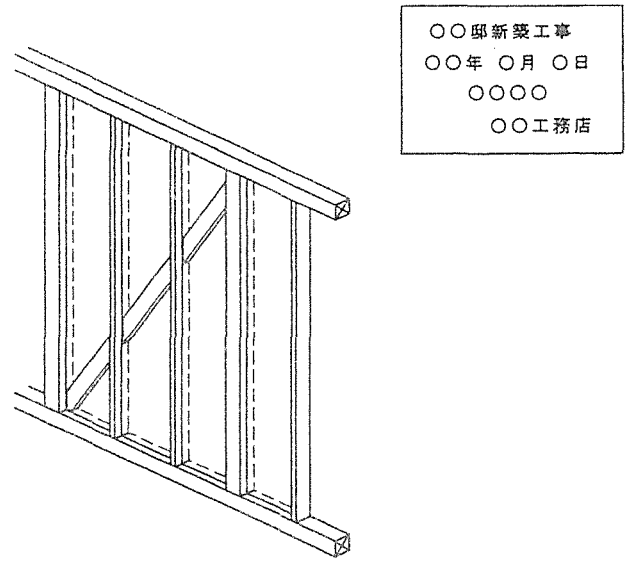
（Bﾀｲﾌﾟ）

・土台の間に硬質ウレタンを、55m厚で現場発泡で施工する。



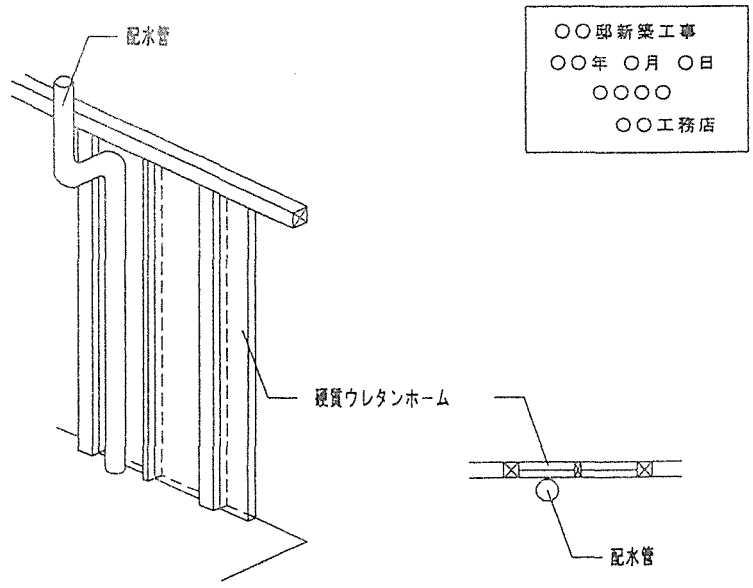
外壁面（筋かい）

・ウレタンを吹付けることで、筋かい、間 柱、壁下地合板が固まることで、一体となる。吹付け厚55mm以上



外壁面（配管廻り）

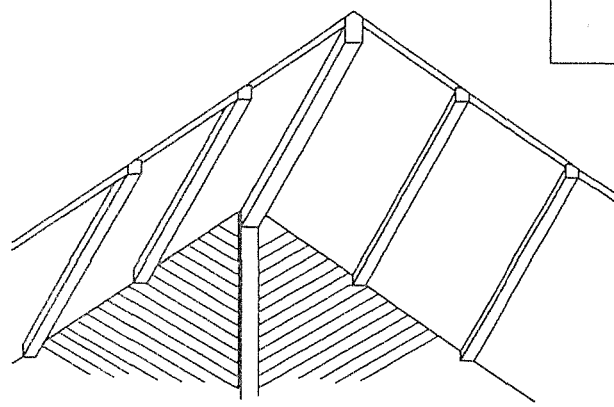
・配管分フカス等の対応で断熱材厚を確保する。



工　程Ⅱ	断　熱	Ⅳ－０２

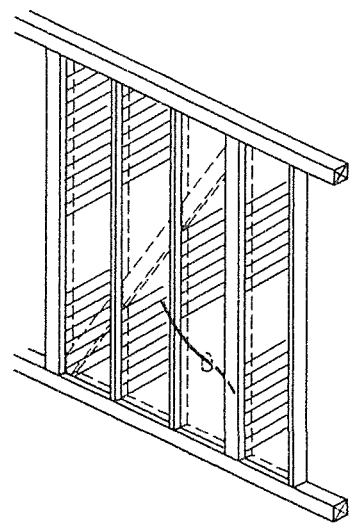
外壁面（下屋裏－壁面）

・妻 壁 断 熱



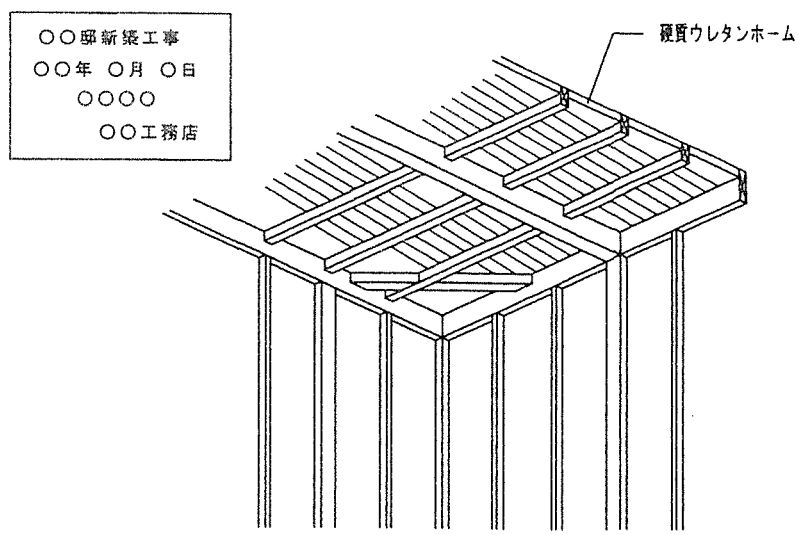
配線等による断熱材欠損部充填

・充填用ウレタンで、スキ間等埋める。



小屋ウラ

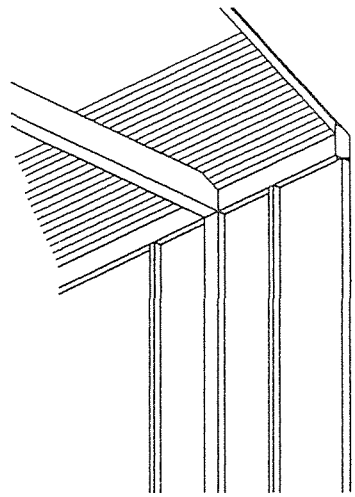
・天 井 断 熱



工　程Ⅱ	断　　熱	Ⅳ－０３

屋根ウラ

・屋 根 断 熱



○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

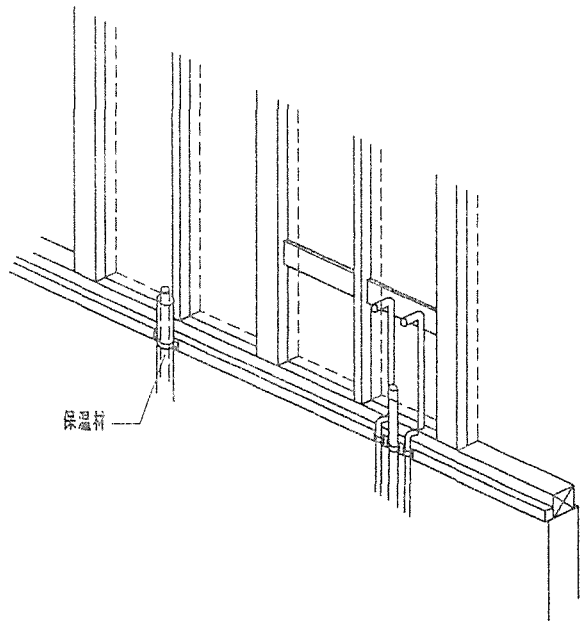
工　程Ⅱ	断　　熱	Ⅳ－０４
	予備写真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	

工　程Ⅱ	設　備	V－01

保温管被覆

・給水管の保温材は、10mm以上

・支持、固定金具の設置



配管固定／管サイズ

給水管　　φ

排水管　　φ

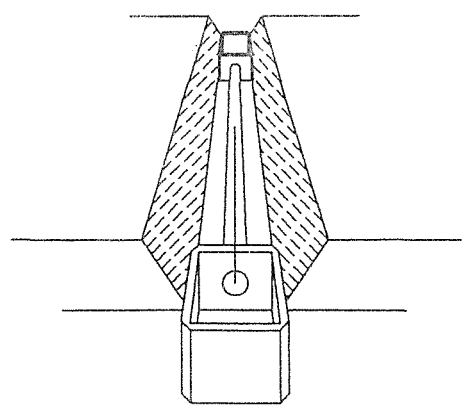
汚水管　　φ

ガス管　　φ

各管金具にて固定する。

○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

外部排水桝、排水管埋設状況

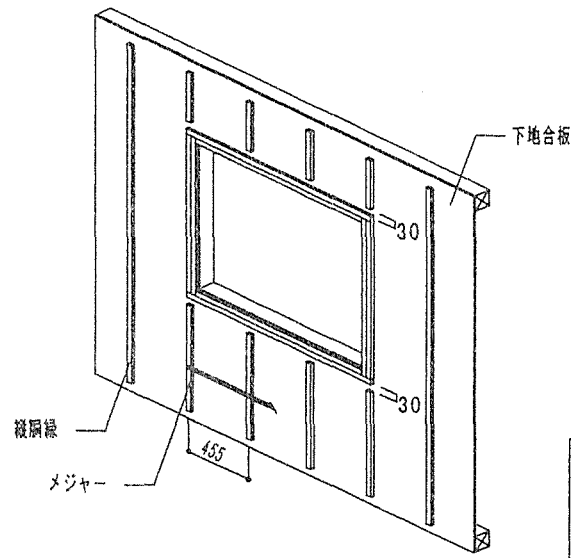


○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

工　程Ⅱ	通　気	V－02

通 気、胴 縁（間隔）

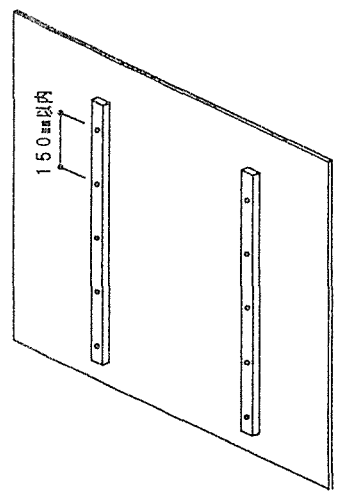
・通気胴縁の間隔、455～500mm
・外壁側上下通気、18mm以上
・開口部廻りの隙間、30mm程度



○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

通気胴縁釘打ち

・胴縁寸法、18×30mm以上
・釘、N50 間隔150mm以内



○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

通気胴縁全景

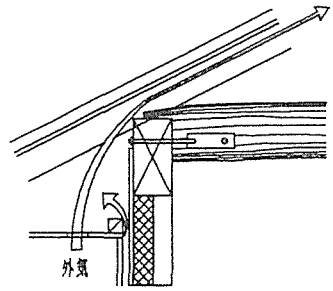
全景写真

○○邸新築工事
○○年 ○月 ○日
○○○○
○○工務店

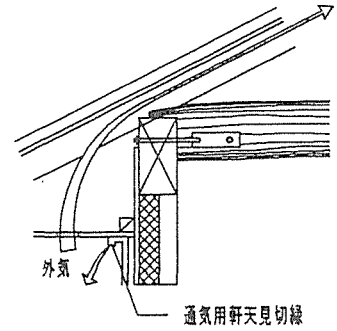
工　程Ⅱ	通　気	V－03

壁ー小屋うら取り合い

・通気の出口
　小屋裏換気口に通気する。
　軒天見切縁に通気する。



小屋裏換気口に通気する場合

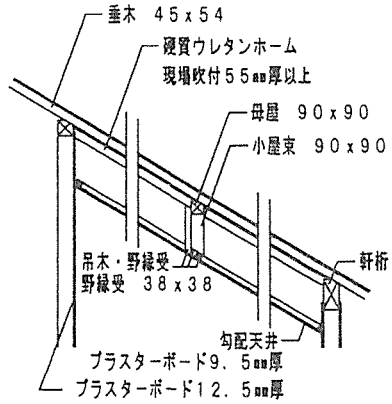


軒天見切縁に通気する場合

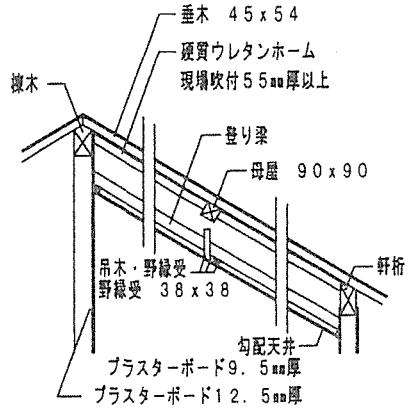
○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

屋根通気

・タル木下端に断熱材受合板を貼ることで、タル木間を通気する。
・タル木　45x45
・野地板　9mm
・断熱材受合板　9mm



和小屋の場合



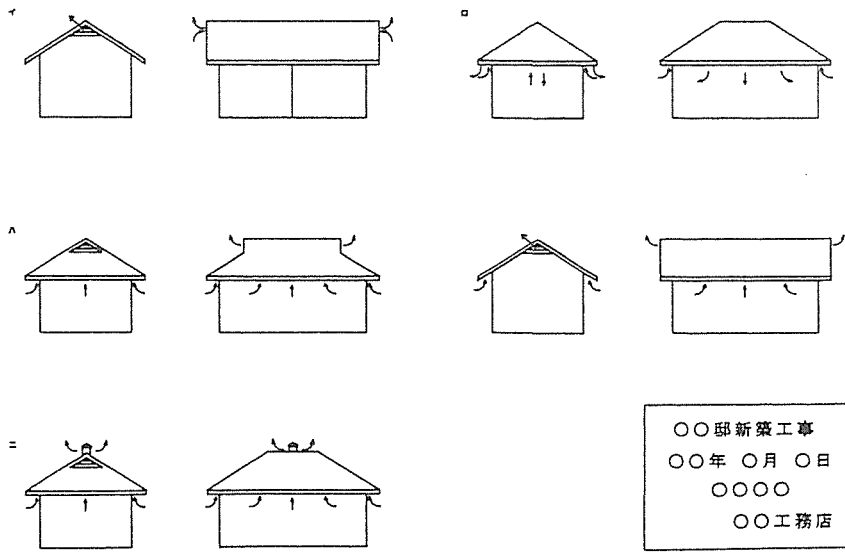
登り梁の場合

（合板受施工中を撮影する。）

○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

小屋裏換気

（内部から換気部分を撮影する。）



○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

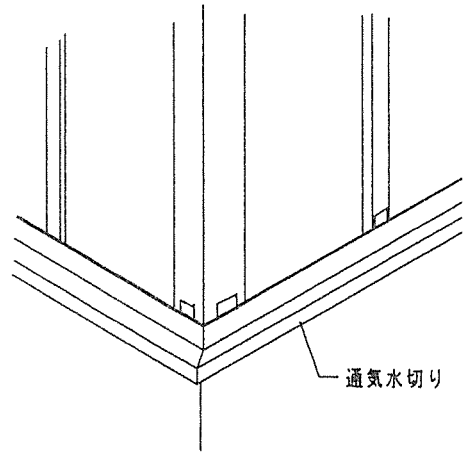
工　程Ⅱ	通　気	V－04
	○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	予備写真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	

工　程Ⅱ	通　気	V－05
	○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	予備写真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	

工　程Ⅱ	外部仕上	Ⅵ－０１

サイディング系（水切り納まり）

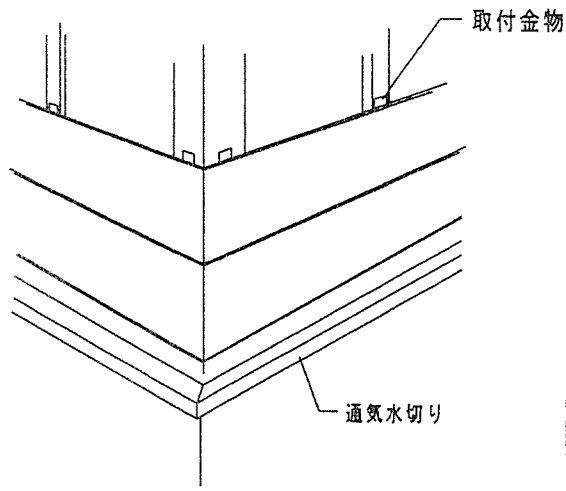
・通気水切りの設置



○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

サイディング系
（留付け金具納まり）

・サイディングの種類により異なる。

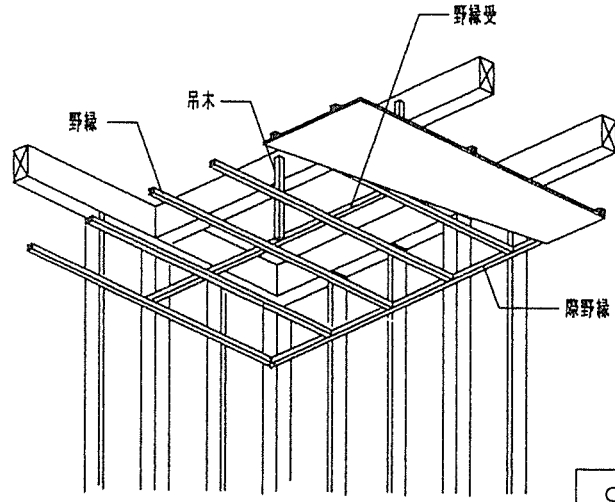


○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

工　程Ⅱ	外部仕上	Ⅵ－０２
	○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	予備写真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	

工　程Ⅱ	内　部　造　作	Ⅶ－０１

天井野縁

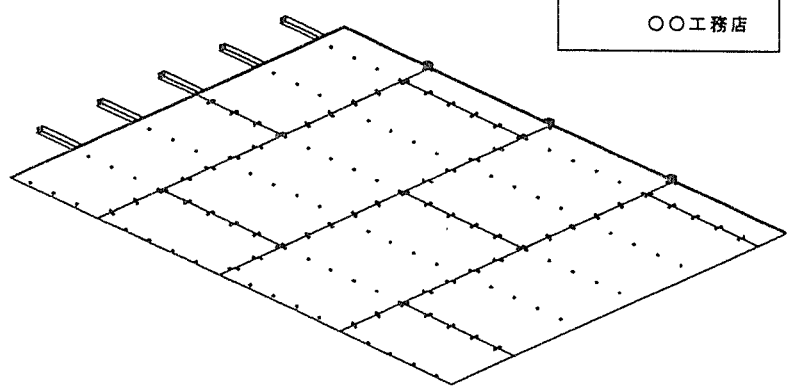


○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

天井下地留付け

・ボード長手方向が、野縁方向に直行する。
・乱貼りにする。
・ボードビス間隔
　周辺－200mm以下
　中間－250mm以下
・ステンレス釘 38
　周辺－100mm以下
　中間－150mm以下

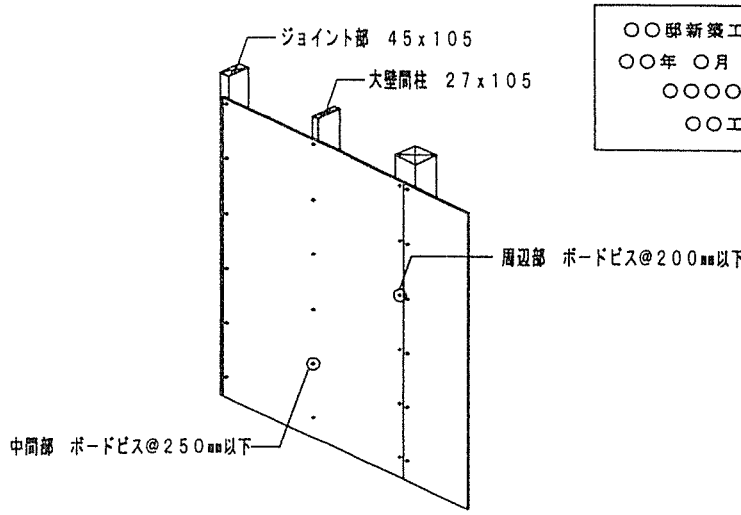
○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店



大壁下地留付け

・ボードビス間隔
　周辺－200mm以下
　中間－250mm以下
・ステンレス釘 38
　周辺－100mm以下
　中間－150mm以下

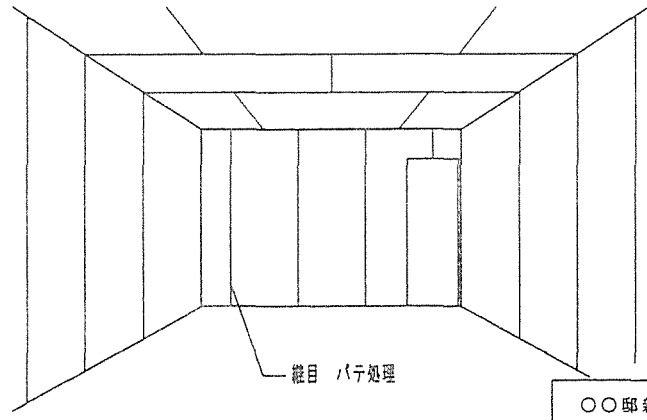
○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店



工　程Ⅱ	内　部　造　作	Ⅶ－０２

天井、大壁下地・継ぎ目処理

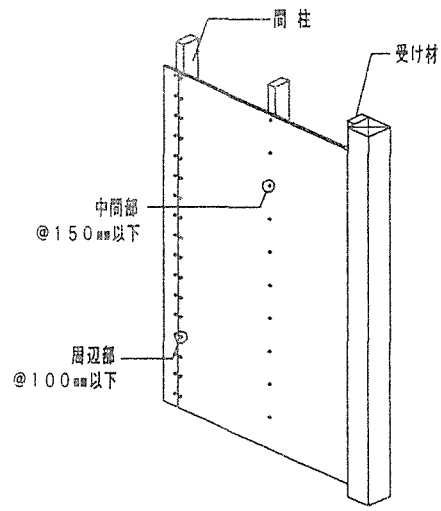
・釘頭の浮きをチェックする。
・パテ処理は、２回以上行う。



○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

真壁下地留付け

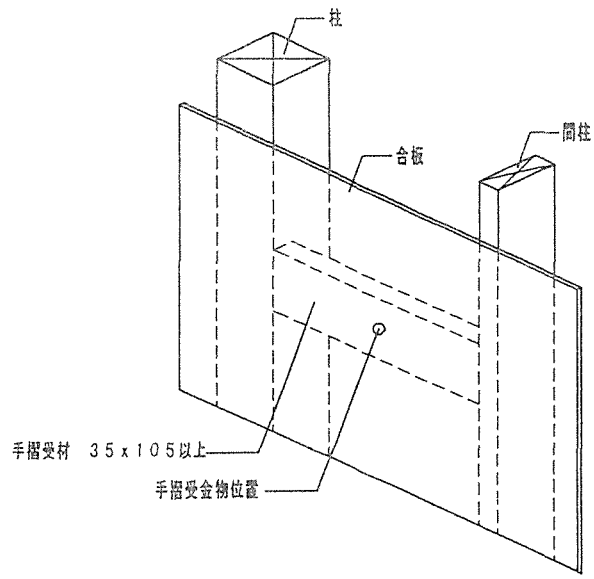
・ラスボード貼
・ステンレス釘　N25(平頭)
　　周辺－100mm以下
　　中間－150mm以下



○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

壁　下　地

・柱の段差は、受け材とﾊﾞｯｷﾝで正確に平らにする。
・手摺等の下地補強をする。



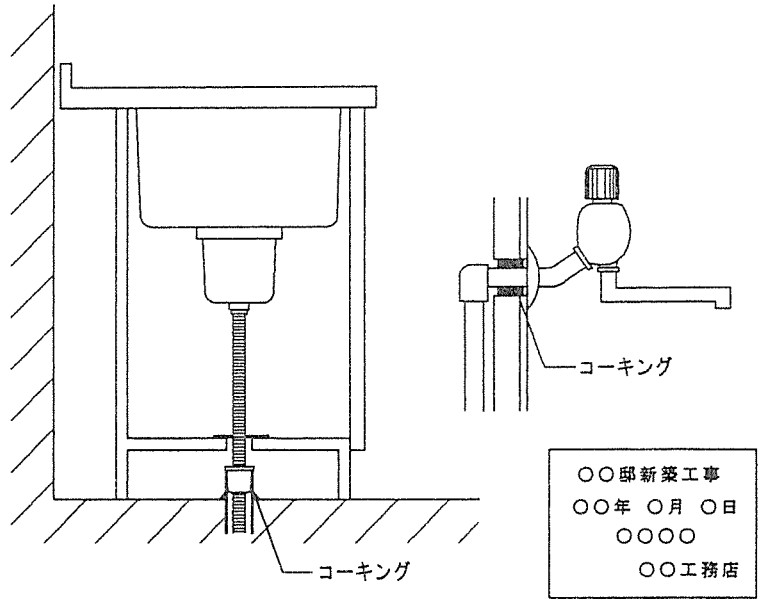
○○邸新築工事
○○年　○月　○日
○○○○
○○工務店

工　程Ⅱ	内　部　造　作	Ⅶ－０３
	○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	予備写真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	

工　程Ⅱ	設　備	Ⅷ－０１

コーキング処理

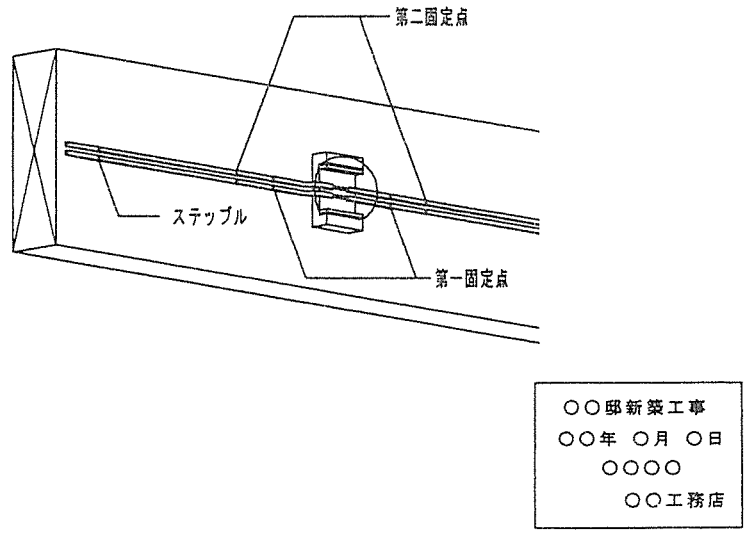
・配管と床、壁の取合い部は、
　コーキング処理をする。
　または、プレートカバーをする。



ｼﾞｮｲﾝﾄﾎﾞｯｸｽ及び配線固定

・Ｊ，ＢＯＸで圧着スリーブ
　にて結線する。

・配線にたるみがない様
　ｽﾃｯﾌﾟﾙで固定する。



工　程Ⅱ	設　備	Ⅷ－０２
	○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	予備写真 ○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	
	○○邸新築工事 ○○年 ○月 ○日 ○○○○ ○○工務店	